弘前大学農学生命科学部・農学生命科学研究科

平成 27 年度　教育改善に向けたアンケート調査

報　告　書

平成 29 年 3 月 14 日

弘前大学農学生命科学部

自己評価委員会

巻頭言

農学生命科学部長

平成14年度に開始された「卒業生を対象としたアンケート調査」が今年で13回目となりました。報告書では、修士課程修了学生、及び教員を対象としたアンケートもまとめて掲載しております。今年度農学生命科学部は改組されましたが、本アンケート対象学生は旧学科での卒業となります。学部ではアンケート結果を教育改善委員会とともに検討し、構成員に有意義な情報を開示し、FDを毎年実施しております。この報告は、我々教員の行った工夫を確認すると同時に、さまざまな改善点などを我々に示しています。

13回目の報告となりますが、学生への質問内容の多くは継続的に統一しており、数年の報告書を見直すことで、わずかずつの改善が確認できる場合もあり、私ども教員のティーチングポートフォリオとして貴重な資料になっております。継続的な取り組みの結果、シラバスに基づく講義実施の徹底などに活かされております。

さて、アンケート解析の結果いくつの課題も浮かび上がりました。学生は教育目標を理解しているものの、アドミッションポリシーを把握して入学している学生は少ないことが判ります。講義外の学習時間が一日あたり1時間に満たない学生が学部全体で30%近くいたことは、学生のみならず、教員の工夫が不十分であることもわかりました。また、成績評価に対する疑義についての問い合わせについては、制度として設けているものの活用している学生が少ないことなども判明しました。例年アンケートで要望の多かった講義室空調の整備を今年度２講義室について実施しましたが、学生の声に答えられたかは次年度アンケートを待つしかほかはありません。教員の講義方法や、学生への対応法につて批判的な意見も出されました。我々教員は真摯に受け止め授業方法の改善に取り組まなければなりません。修士課程修了学生は本研究科の教育方針・手法などに比較的満足していることもわかりました。同時に問題点についても率直に提議しております。私たち教員は、これを貴重な財産として、今後の教育・研究指導に努めていかなければなりません。

最後に、アンケートに答え、さまざまな情報を頂きました卒業生・修了生の皆さん、また膨大なデータを解析し、本報告書を作成にご尽力いただきました本学部自己評価委員会の先生方に感謝申し上げます。

目次

巻頭言 1
はしがき 3
Ⅰ．学部卒業時学生対象　教育評価アンケート 4
　１．アンケート調査内容 4
　２．調査結果 7
Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート 60
　１．アンケート調査内容 60
　２．調査結果 62
Ⅲ．教員対象授業アンケート（学部授業及び研究科授業） 90
　１．アンケート調査内容 90
　２．学部授業に関する調査結果 92
　３．研究科授業に関する調査結果 101
Ⅳ．教員対象教育評価アンケート 110
　１．アンケート調査内容 110
　２．調査結果 111
Ⅴ．アンケート調査結果に対する各学科の見解 131
　生物学科 131
　分子生命科学科 131
　生物資源学科 132
　園芸農学科 133
　地域環境工学科 134
Ⅵ．教育改善委員会（平成 27 年度教育改善にむけたアンケート調査についての意見 ） 136
　学部卒業時・研究科修了時学生対象アンケートについて
　教員対象授業アンケートについて
　教員対象教育評価アンケートについて

はしがき

農学生命科学部の自己評価委員会は，学部ならびに研究科の教育の適正化，カリキュラムの改善などを目的に，学部４年の卒業予定学生及び研究科２年修了予定学生を対象にした授業評価と，各教員を対象とした専門科目の授業評価についてアンケート調査を実施してきた。平成 14 年度(15 年 2 月実施)以降，これまで 12 回行われ，今回は第 13 回目である。平成 17 年度からの調査では，それ以前の内容に加えて学生と教員を対象として教育評価アンケートを実施している。そのアンケートにおいては，学生および教員対象の各アンケートに同種の質問項目を設けており，学生と教員との間における意識の相違についても読み取れる。本年度もこれまでのアンケートとの継続性に配慮し，それらの内容を踏襲して次の４種類とした。

Ⅰ．学部卒業時学生対象教育評価アンケート
Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート
Ⅲ．教員対象授業評価アンケート　・学部授業に関する調査　・研究科授業に関する調査
Ⅳ．教員対象教育評価アンケート

各アンケートの設問内容は，それぞれのアンケート調査結果の冒頭に示した。設問は主に選択肢の中から１つを選ぶものと，その回答理由を記述させるもので構成した。選択肢として，「強くそう思う」，「そう思う」，「どちらとも言えない」，「そう思わない」，「全くそう思わない」等の５段階を設定した場合は，順に 1～5 の番号を付して選択するものとした。設問の回答に関する分析では，「強くそう思う」と「そう思う」を併せて「肯定的な評価」とし，「そう思わない」と「全くそう思わない」を併せて「否定的な評価」とした。また，学生の回答理由の記述は，明らかな誤字や個人名以外は，できるだけ原文のまま箇条書きで記し，各学生が選んだ選択肢番号を行頭に付し，学科あるいはコース別に記載した。

本アンケートの設問の設定については，昨年度と同様大きな変更はせず，設問の趣旨が的確に受け取られるような範囲の変更にとどめている。これは，本報告書の内容は，教育改善や組織評価等に活用されると想定され，さまざまな取り組みの成果や問題点の把握を可能にする経時的データの役割もあると考えたためである。

本アンケートの結果は教育改善に活用されるべきことから，昨年度と同様に教育改善委員会と各学科の学科長にも本報告(案)の一読を願い，それに対する見解，意見を提出してもらい，本報告の最後に掲載した。

今回の卒業・修了時学生によるアンケート結果にも，本学部・研究科の授業や教員の教育方法に対して厳しい意見や，教育体制に関するさまざまな意見が含まれている。関係各位および教育改善委員会におかれては，カリキュラムの教育内容や方法の改善のためにはもちろん，教育体制の充実を図るためにも，それらを大いに参考にされることを望む。

Ⅰ.学部卒業時学生対象　教育評価アンケート

１．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，４年間この学部で教育を受け，今まさに卒業しようとしている学生を対象に，学部教育について総合的な評価を得ることを目的とした。

調査方法：指導教員をとおして研究室所属の学生にアンケート用紙を配布し，無記名方式で行った。回収は正面玄関に設置した回収箱で行った。

調査対象：平成 28 年 3 月学部卒業予定者 188 名

調査期間：平成 28 年 1 月 18 日～1 月 29 日

有効回答者数：117 名　（回答率 62.2%）

調査項目：設問は以下のとおりである。（ただし，下記の[　]の項目名は，回答結果の分析にあたってグループ化のために設けたものである。）

設問 1．あなたの所属学科をお答えください。

[学部・学科の教育目標等の認識]

設問 2．本学部の教育理念，教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3．あなたが所属する学科の教育目標および入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

(1) 教育目標について　　(2) アドミッションポリシーについて

設問 4．

(1)あなたが所属する学科の教育目標は添付資料の通りですが，学科のカリキュラム（21 世紀教育科目および専門教育科目）はその目標に合致していると思いますか。

(2)上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[学科の専門教育について]

設問 5．本学部では年度初めに学年毎にガイダンスを行っていますが，ガイダンスの内容は適切だったと思いますか。

設問 6．シラバスは受講科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

設問 7.

(1) あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[教員の指導について]

設問 8.

(1) 所属する学科の教員の，講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応に満足していますか（卒業研究については設問 15 で別に聞きます）。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 9．履修した科目の成績評価について質問します。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

(2) 疑問や異議があったときは，学部教務に「成績評価の問い合わせ」を提出し問い合わせできることになっていますが，あなたはそれをしましたか。した場合，その回答に満足しましたか。具体的に記入して下さい。

［学生の主体的学習について］

設問 10. **講義や演習の受講に当たり、その講義の受講期間中にあなたは講義室での受講時間の何倍程度の時間を、講義室外での学習（予習や復習など）に当てましたか。大学設置基準に、「１単位は 45 時間の学習を必要とする内容」と規定されています。２単位の科目の場合、90 時間の学習が必要な計算になりますが、講義室では 30 時間（90 分を 2 時間として扱い×15 回＝30 時間）の学習時間しかありません。そこで、講義室外での学習が必要になります（講義室での 2 倍の時間）。学習時間には<u>インターネットを利用した関連情報の収集、課題や実験レポートの作成、外書講読・文献講読・専門英語の予習、小テストのための勉強、中間や期末試験のための勉強、研究室内でのプレゼン準備なども含めて</u>も構いません。ある 1 科目を想定して回答しても構いません。**

設問 11. 大学教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。

(1) あなたは講義に対してどのような姿勢で取り組みましたか。

(2) 実験・実習についてはどうですか。

(3) 大学在学中のカリキュラム（21 世紀教育も含む）の中で，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

それぞれについて簡潔に記入して下さい。

［学生への教育支援，施設・設備について］

設問 12. 本学部や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，下記のような 10 のルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。（　）内に番号を記入して下さい。 (1) 学業（　　） (2) 学生生活（　　） (3) 進路（　　）

設問 13. 本学部図書閲覧室の利用について質問します。

(1) あなたは在学期間を通して，平均どのくらい利用しましたか。

(2) 以下の項目について，どのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

設問 14. 本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。

(1) 下表の該当する欄に○を書き込んで下さい。

(2) 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

［卒業研究について］

設問 15.

(1) 卒業研究を行ったことに満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 16.

(1) あなたの卒業後の進路は次のどれですか。

(2) 本学部のカリキュラムで学んだことは，進路の決定にどのように影響しましたか。

(3) 本学および本学部の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

［本学部の教育のあり方について］

設問 17.

(1) あなたが本学部を卒業するに当たり，大学卒業者に相応の知識や学力を身に付けたと感じていますか（大学卒業者に相応の知識・学力は自分のイメージしたもので結構です）。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 18.

(1) 本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を，次の項目の中から一つを選んで下さい。

(2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

設問 19.

(1) 総合的に判断して，本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

２．調査結果

設問 1．あなたの所属学科をお答えください。

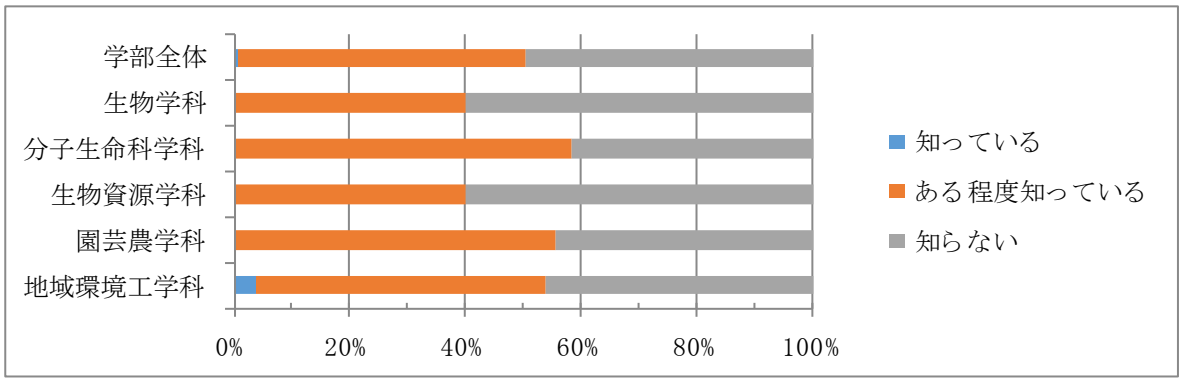
表Ⅰ－１．各学科の卒業生と回答者数の推移

	H27 年度			H26 年度			H25 年度		
	卒業生数	回答者数	回答率（%）	卒業生数	回答者数	回答率（%）	卒業生数	回答者数	回答率（%）
生物学科	45	15	33.3	38	33	86.8	42	32	76
分子生命科学科	42	24	57.1	35	31	88.6	36	23	64
生物資源学科	35	25	71.4	34	30	88.2	35	25	71
園芸農学科	38	27	71.1	38	38	100.0	39	20	51
地域環境工学科	28	26	92.9	26	25	96.2	27	21	78
合　　計	188	117	62.2	157	171	91.8	179	121	68

平成 27 年度の卒業予定学生 188 名のうち，回答者は 117 名（回答率 62.2%）であり，平成 26 年度の回収率（91.8%）に比べ大きく減少した。また，学科間の差異も大きかったことから，アンケート配布前に学生への依頼・通知方法について改善する必要がある。

[学部・学科の教育目標等の認識について]

設問 2．本学部の教育理念、教育目的および教育目標を知っていますか。

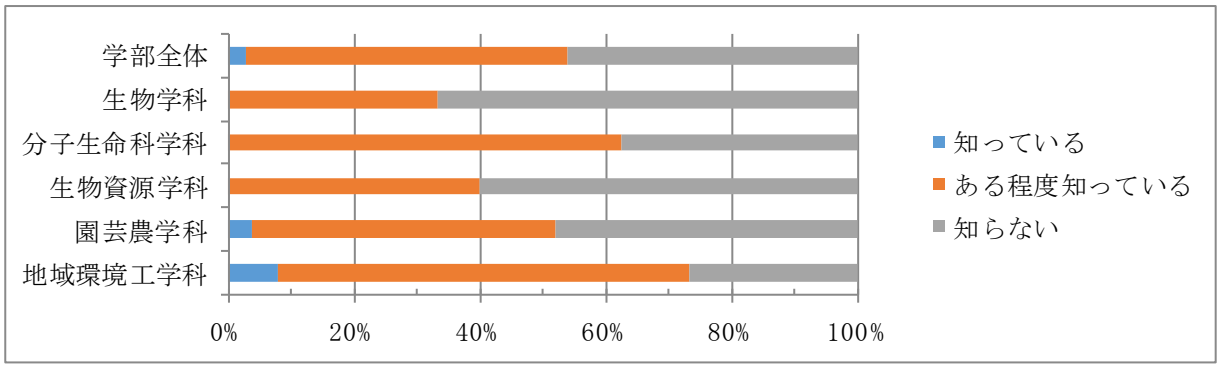


図Ⅰ-2．理念、教育目的および教育目標の認識

学部全体で見ると，「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 50%以上で，過去 2 年と比べて変化はなかった。しかし，生物学科および生物資源学科では他学科に比べ「知らない」と答えた学生が多く，およそ 60%を占めた。

設問 3. あなたが所属する学科の教育目標および入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

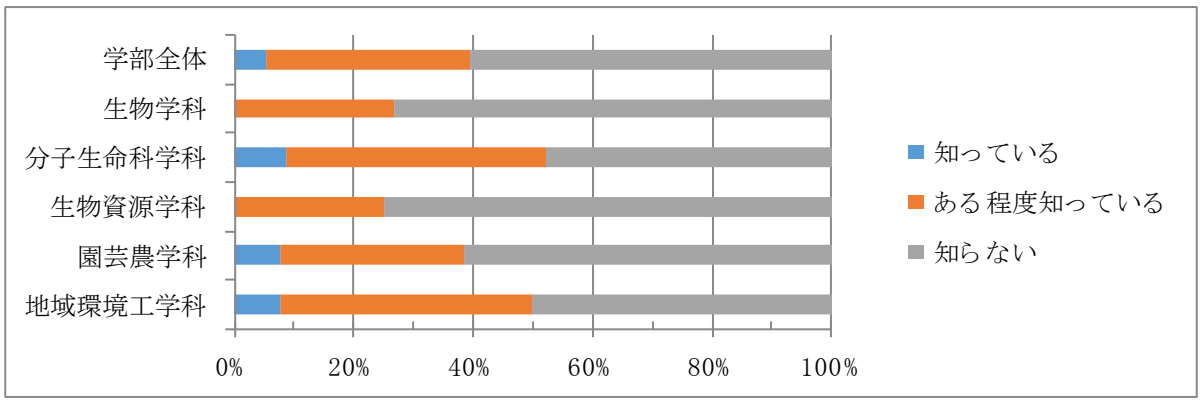
(1) 教育目標について



図Ⅰ-3(1). 学科の教育目標の認識

学部全体では，「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 51%で，60%以上あった過去 2 年にくらべ約 10%減少した。地域環境工学科は昨年度と同様に「知っている」と「ある程度知っている」の合計が最も高かったが，約 13%減少した。反対に，分子生命科学科では 10%程度上昇した。

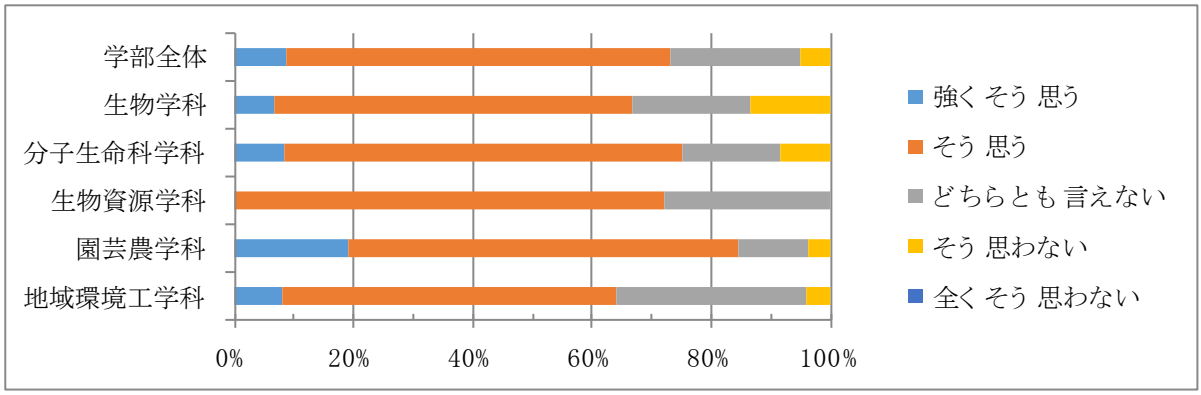
(2) アドミッションポリシーについて



図Ⅰ-3(2). 学科の入学者受け入れ方針の認識

学部全体では，「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 40%弱であり，過去 2 年間の結果とほぼ同程度であった。学科別では，分子生命科学科が昨年度は 23%と最も低かったのに対し，今年度は 50%にまで上昇し，最も高かった。

設問 4．(1) あなたが所属する学科の教育目標は添付資料の通りですが、学科のカリキュラム（21 世紀教育科目および専門教育科目）はその目標に合致していると思いますか。



図Ⅰ-4. 学科の教育目標とカリキュラムの合致

学部全体で見ると，肯定的な評価が約 71%で，平成 26 年度より約 5%上昇した（平成 25 年度は約 71%）。否定的な意見は学科間で大きな差がなかった。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない

【生物学科】

2　入学前と比べて目標に即した多様な知識が得られたように思うため。

2　専門科目では分子一集団レベルで幅広く勉強できたとおもいます。21 世紀科目も概ねそのように実感しています。

2　1 年次に白神観察園に行くことがあり，その後も幾度か実習が行われたため，また研究室によっては，白神山地の核心地域に調査にいくこともあると聞いたので，弘前大学の立地を生かせいると考えられる。他にも農場実習や臨海実習などがカリキュラムにあるため，教室や実験室だけでは学べないことも学べていると思われる。

2　生物学の基礎をはじめ，専門分野も幅広く勉強できるから。

2　2 年生の夏季休暇にある野外実習や白神山地への登山を通して自然を身近に感じることができると共に授業を通して知識を深めることができるから。

2　各分野の先生がしっかりしていて，実習も充実していたから。

2　実際に白神山地に足を運ぶような実習もあるし，授業科目も目標にそった内容だと感じたから。

2　1，2 年生時に座学での知識を身につけ，3 年生時から研究室に配属されることによって，実践的な知識が得られたから。

3　生態学の分野は十分学べたと思うが，分子生物学的な学習や一部の分野の学習が少し足りなかったと感じた。

4　自分がそこまで達成できていないから。

4　教職員と生徒に学ぶ意欲・考える意欲がなく，授業の技術が乏しい。専門科目を自ら取得し

ないと農業実習など農学に関する知識を得ないまま「農学生命科」として卒業してします。人材育成→具体的にどう何を育成しているか不明。ただ教科書の一部をテストするのみの授業しかない。

【分子生命科学科】

1　物理化学や生物学の基礎からしっかり学べ，学年が上がるごとにつれその基礎がどのように研究や科学，生活に応用されてきているかを学べたから。
1　その通りだから。
2　教育目標で挙げられた必要な科目と学科のカリキュラムは合致しているから。
2　他の学科よりもバイオ系の科目に力をいれていると感じるため。
2　沢山の教科を深く学んだため。
2　専門教科を学ぶ上で，必要な基礎知識がしっかりと学べると思うから。
2　カリキュラムの内容は目標に合致していると思うが，学ぶ分野が多岐にわたるため，どうしても深くまで学ぶことができないと思う。授業の範囲では深くまで学びきれない。
2　生命現象に関する科目が多いから。
2　記載されているような授業があったため。
2　教育科目の内容通りに授業が進んでいると思ったため。
2　科目は適切だと思うが，総合的な印象で，もう少し深く追求できたら一番を選んだと思う。幅広いので難しいとも思うが出来たら嬉しい。
2　分子レベルでの物質の成り立ちやバイオテクノロジーについて学ぶ事が出来た講義だったから。
2　添付資料の____について学ぶ機会はあった。あとは，学生本人のやる気次第です。
2　必修科目の専門授業の内容と合致していると感じた。
2　教育目標を読んだとき，イメージしたようなカリキュラムが設定されていると思うため。
2　物理，化学，生物学，食品衛生等幅広い視点から農学について学ぶことができた。
2　教育目標に記載されている通り，様々な観点から研究を行っていると思う。
3　最先端は感じられなかった。
3　所属する研究室による。
3　教育目標が入学時と少し変わっている気がしたため，何も言えない。
4　国際的な視点に立つ機会があまりなかったから。
4　広範囲の知識を使うような目標だが，特に 21 世紀での教育は内容が無く感じた。

【生物資源学科】

2　目標にとりこまれてる研究室全部あるから。
2　植物や食品にかんして幅広く学べたと思うので合致していると感じた。
2　どの分野もバランスよく学ぶことができたと思うため。
2　専門教育科目の必修科目である程度，記載されている分野について学ぶことができるから。
2　授業内容が目標としているものを，網羅するものだと思うため。
2　生物学や食品学など幅広い分野の講義を行っているため。
2　先生方の講義が非常にわかりやすく，この 4 年間で広い知識を身につけることができたことか

ら。
2　学生実験や講義で，学習した通だから。
2　過去の事例から今後の対策を考えたり，現在の農業の問題点を指摘する授業が多いため。
2　カリキュラムに合致する内容が，必修の専門教育科目で学ぶことができたため。
2　受講した科目の内容と，生物資源の教育目標が一致しているから。
2　講義内容と一致しているから。
2　合致していないと思ったことはないから。
2　学科の教育目標に沿った内容のカリキュラムだった。
2　目標到達の為の学力が備わるから。
2　食品から植物育種等まで多岐にわたって学べるから。
2　専門教育科目で学んだ内容が，そのままかかれているから。
3　客観的に自分が今どの程度成長したのかがわからないため。
3　専門教育科目については，「そう思う」が，21 世紀教育科目についての目標はカリキュラムから読み取ることができないです。
3　21 世紀教育において，本学科の教育目標とはあまり関連のない内容が複数あるように思います。
3　目標達成のために，必修にしたほうが良い科目講義があるから。
3　思い出せません。

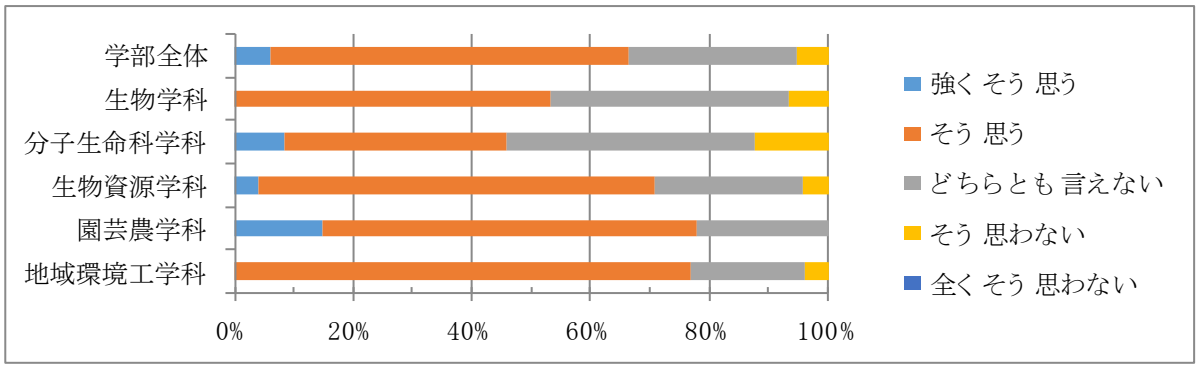
【園芸農学科】
1　座学のみでなく，実習も豊富に含んだカリキュラムで，農業に関わる様々な領域を総合的に学べたため。
1　全ての領域を手広く学べるように授業が点在し，それぞれの領域について最低限学べるように必修科目が設定されているから。
1　農学といっても生産技術から流通，政策，農村部の社会的な動きに至るまで，幅広い視野で学ぶことができるカリキュラムに 21 世紀教育，専門教育ともなっていると感じたから。
1　農業の専門科目を幅広く学べ，また，経済面・国際経済の面からも，総合的に学べたと思います。
2　実際に多方面での知識を得ることができたと思うから。
2　農学，生物の専門だけでなく，社会，経済，心理 etc と多岐にわたり学ぶことができたから。
2　専門教育科目が，生産系科目から流通系科目までをまんべんなく受講できるから。
2　専門教育科目については，カリキュラムに則していると感じる。
2　農業の現場から経済まで幅広く学ぶことができ，その中から研究室を選択してさらに専門性を高めることが 4 年間を通して達成できたため。
2　食と農について幅広く学ぶことができたからです。
2　実際に授業によって様々な分野を学ぶことができたから。
2　生産から消費までの幅広い視点で農業について学ぶことができたから。
2　自分の必要でない知識も専門的なものが増えた。
2　農業生産から経済流通まで幅広く学びという点が合致していると思ったため。
2　必修で指定されており，カリキュラム用の内容を必ず学ぶことになるから。

2　農業に関する知識を，いろんな角度（分野）から学べたから。
2　教育目標の大筋は必修科目によって学ぶことができると思うし，さらに，興味を持った科目に関しては選択科目で十分補えると思ったから。
2　座学だけでなく，実験や実習を行うことで，幅広く学ぶことができ，多くの知識を得られたため。
3　21 世紀教育科目は，そのときの凌ぎ感があるため，知識として吸収できているかわからない。
3　自分がそのカリキュラムどおりの人間になれたかというと，どちらでもないから。
3　よくわからない。
4　②と③を満たしていないと感じたため。

【地域環境工学科】
1　工学技術及び知識を得るに必要なものばかりだったため。
1　1 つの分野に偏らず，広く学べたから。先生も多く，各分野別にしっかり教育を受けたから。
2　21 世紀科目については，幅広い間考え方，専門科目については，技術系のことを細かく教わることができたから。
2　概ね合致していると感じたから。
2　それなりに結びついていると思う。
2　教育目標と今まで習ったカリキュラムを比べてみると，確かに合致しているように思ったから。
2　農業土木技術者を育成するためのカリキュラムが充実しているから。
2　JABEE コースがあり，中途半端な知識では卒業が難しいため。
2　21 世紀科目で基礎的な能力を習得し，専門教育科目で基礎から発展した能力を習得できたから。
2　添付資料の目標の内容と，実際の授業内容が一致していると感じるから。
2　様々な分野の授業が必修科目になっていて，かたよりなく知識を得ることができたから。
2　受講科目の内容が教育目標と合っていると思うから。
2　農業土木や生態系，農槽地域環境などについて，多面的に学ぶことができるカリキュラムであったと思われるため。
3　目標をあまり理解してない。
3　専門的知識の基礎は学ぶことができたが，実践的な取り組みが少ないと感じたため。
3　地域環境工学科の”Ｉ”の部分（土木）が強く，カリキュラム内で地域環境について触れる部分が少ないように感じた。
3　工学系科目が多すぎるように思う。
3　合致していると感じる面もあれば，そうでないと感じる面もあるので。
3　21 世紀は関係ない。
3　あまり宣伝されていないため。
3　卒業研究に拘束される時間が長く，他のことに興味を示す余裕がないため，よく分からない。
4　CAD など就職してから役立つことも教えて欲しいと思う。

[学科の専門教育について]

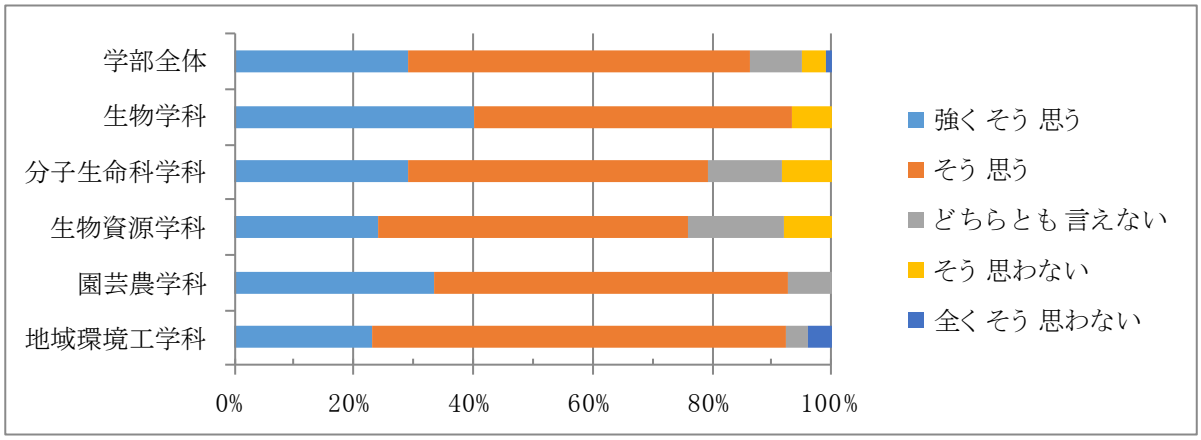
設問 5. 本学部では年度初めに学年毎にガイダンスを行っていますが、ガイダンスの内容は適切だったと思いますか。



図Ⅰ-5. ガイダンス内容が適切だったか

学部全体では，肯定的な意見の割合は約 66%で，過去 2 年に比べやや上昇した（平成 26 年度は 59%；平成 25 年度は 63%）。園芸学科および地域環境工学科で肯定的な評価が最も多く（約 77%），昨年度に比べそれぞれ 25%，14%上昇した。

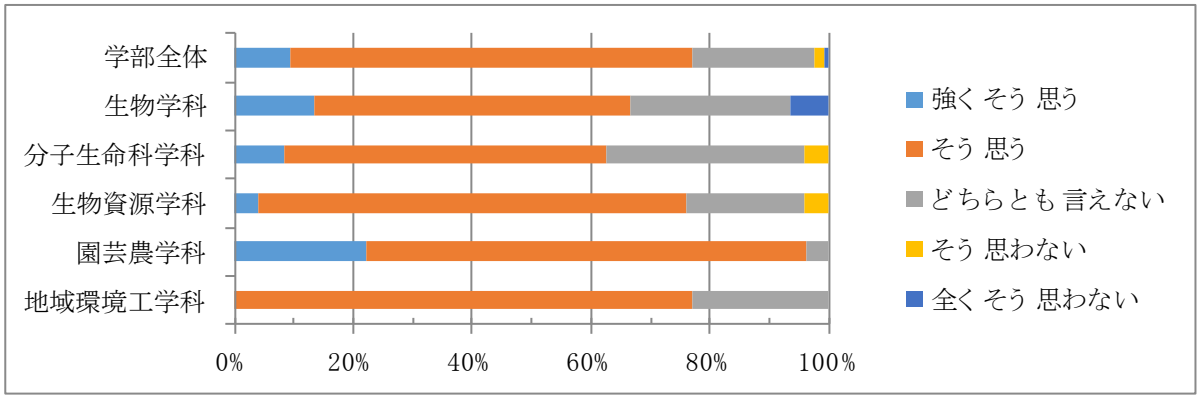
設問 6. シラバスは受講科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。



図Ⅰ-6. シラバスは役立ったか

学部全体での肯定的な意見は 80%以上あり，過去 2 年間とほぼ同じであった。生物資源学科での肯定的意見は昨年度に比べ 12%程度減少し，76%と最も低かった。シラバスの内容をさらに充実する必要がある。

設問 7. (1) あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか。



図Ⅰ-7(1). あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか

学部全体では肯定的意見が 77%であり，過去 2 年間に比べ 4%ほど上昇した。昨年同様，分子生命科学科で満足度が最も低く（約 63%），「どちらともいえない」との答えも多かった（約 21%）。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない

【生物学科】

1　知りたかった以上のことを知り得ることができたため。

1　専門的な授業を興味をもって学べたから。

2　特に不満に思うこともありませんでした。

2　とても興味深く楽しかったから。

2　生物の知識を深められるような授業だったから。

2　学びたいとおもっていたことを学ぶことができたから。

2　熱心な態度であったし，内容もわかりやすかった。ただ，板書の字が汚い方はスライドを使うなど工夫してほしい。

2　幅広い分野から選択でき，自身の知識を深めることができた。

2　それぞれの教員が自分の専門分野について，分かりやすく指導してくれたと思うから。

3　大学毎に特色があるのは，大事なことだと思うが，昆虫学に関する講義が少ないのではないかと感じた。しかし，それ以外の自分の興味のない分野の講義でも知らないことをしれたのは満足できた。

3　自分が興味ある分野や，将来研究したい分野についてはよいが，それ以外の分野について深く勉強する必要性はないと思うから。

3　興味のない内容だったから。

5　扱う生物がマイナーなものが多い。もちろんモデル生物，基礎生物学実験などは行うが，機材はほとんどなく TA を使用するため実験の流れが不明瞭。また，一度やっただけで身に付く技術でもないのに，実験によってはそれ限りで頭に残っていないものが多い。

【分子生命科学科】

1　生命現象の基礎からその応用まで学びたくて，この学科を選んだので大満足だった。
1　不満がないため。
2　専門教科としては受講して良かったとおもった科目があったから。
2　自身が学びたいと感じていた分野について，よく学べたと思う。
2　レベルの高い勉強ができたから。
2　興味のわくものばかりで楽しかったので満足です。
2　自分で実験ができて楽しかったことと，興味深かったことから。ただ。金銭的な問題で学部で卒業するので，時間が足りなかったと感じて 1 番でなくて 2 番にした。
2　自分が学びたい分野だけではなく，色々な専門分野の人の話を聞くことができたから。
2　様々な分野の勉強が出来たと思うから。
2　選択の幅は広くない（必修が多くて他を選べない）が，学びたい科目は多くあった。
2　やりたいと思っていた研究ができたこと，また常に興味を刺激されるようなことに接することができたから。
2　基礎から応用まで広く触れ，興味の幅を広げることが出来たと思う。
2　研究室で学んだことが役立っているから。
3　とても興味をそそられる講義もあったが，ただの教授の自己満足のような講義があった。
3　授業を実験にあまり応用できなかったため。
3　満足した科目もあればそうでないものもあるから。
3　専門的知識をしっかり身につけられた科目もあれば，あまり実にならなかった科目もあった。
3　おもしろい内容のものも多かったが，学ぶ範囲（分野の範囲）が広いため，なかなか十分な理解ができない。
3　特に役に立ったと思わないため。
3　教授どうしで目的のまとまりや一貫性が統一されていない気がしたから。
4　私には難しすぎた。

【生物資源学科】

1　今の卒業研究に役立っているから。
2　広く学べたから。
2　自分が興味があったことを広く勉強でき，また，新に関心を持てる分野ができたため。
2　研究室に所属する上でも役に立ったと思うから。
2　任用資格取得のために必要な講義が就職活動とかぶっていたのが大変だったが，講義自体は，とても良い講義が多かった。
2　自分の興味を持つ分野以外も幅広く，学ぶことができるから。
2　基礎的な内容の他に先生やその知人の方の研究の紹介などをしていて面白かったため。
2　興味があった分野の話を聞くことができて，ためになった。
2　先生方の丁寧な授業のおかけで，頭に入りやすかった。また，日本の将来を担う農業について専門教育として学ぶことができたから。
2　設問 4（2）と同じ。
2　自分が興味のある分野だったから。

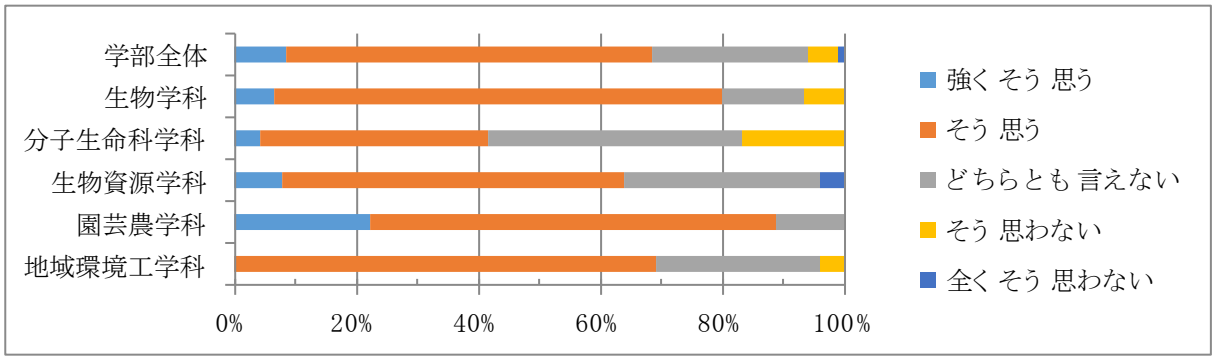
2　学びたかったことについて学べたから。
2　知らない知識を得たことは何かに役立つと思うので，学科にかかわらず受けた専門教育に満足している。
2　各教科で専門的な知識を身につける事ができた。
2　身近な事象を深く学ぶことが出来て，究理の道が開けた。
2　多くの事柄について詳しく学べるから。
2　全てを社会で活かせるわけではないが，身についた知識は財産だと思うから。
3　食料開発に興味があったが，必修科目でその内容以外の科目があったから。
3　先生によって授業の行い方や内容の深度が異なり，良い授業もあればあまり満足できない授業もあった。
3　広く学べたのですが，自分が全く興味ないものが必修だと辛いところがあった。
3　教員ごとに講義の形式や教え方に差があったため，理解しやすい分野とそうでない分野があった。
3　研究室に所属してから必要になる知識をもう少し専門教育科目で得ることができればいいと感じるから。
4　必修科目よりも科目選択に，結局なるから。

【園芸農学科】
1　専門的な知識を学べたため。
1　自分が学びたかった分野を深く学び知ることができたから。
1　自分に役立つ授業以外に興味をひかれる内容が多く，視野が広くなれた気がするので。
1　レポートや研究・実験に関する知識が増えた。
2　1つの分野にかたよらず，園芸農学科では他学科よりも様々な知識に触れられたと思うから。
2　社会に出ていては学べなかったことが知ることができたと思うから。
2　幅広い科目を受けることができたため。
2　農業に関係するほぼ全ての分野をまんべんなく受講できたから。
2　専門の授業は楽しかったから。
2　学びたい内容を含んだ講義で知識を得ることができた。ただ，内容が 15 回に収まらない講義も多かった。
2　様々な領域を学べたため。
2　食と農について深く考えることができたからです。
2　幅広い分野の内容を聞くことができ，よかったと思います。
2　実習や企業見学等フィールドワークが多く，様々な座学だけでは得られない知識を得られたから。
2　座学だけでなく，実験・実習の内容も豊富だと思ったため。
2　幅広く学べたとおもったから。
2　「生産技術」「流通経済」という特定分野に偏らず，幅広い視点で農学を捉えることができたから。
2　幅広い分野の勉強ができたので，興味深かった。
2　なんとなく。

2　広い範囲の内容を知ることができたことに満足しているから。
2　専門のことを詳しく学べたと思います。実習があったり，現地に訪れる機会があったので，充実していたと思います。海外研修に行けなかったのが心残りです。
3　完璧には理解はできない科目が多かった。

【地域環境工学科】
2　卒業後の進路を決めるときの参考となったから。
2　全ての先生から細やかな受けられて，授業内容をしっかり理解できたから。
2　概ねわかりやすい講義であったから。
2　それなりに役立ちそうだと思った。
2　あまり知らなかったことを知れて良かったから。
2　専攻する分野について学べたから。
2　充実した授業科目であったから。
2　最初はあまり興味がなかったが，後々専門教育が面白いと思ったから。
2　特に不満がないので。
2　今まで学習してきた基礎を生かして学べ，なおかつ理解できたため。
2　就職活動の時にも役立てたから。
2　内容を大体理解することができたから。
2　インターンシップでも困らずに過ごせたから。
2　他の学科では絶対に習えないから。
2　満足しているが，さらに実用的な内容も授業で取り上げてもらえたら，より理解しやすかったと思う。
2　専門的で難しい点もあったが，基礎もきちんと学ぶことができたため。
2　演習等が的確にあった。
2　自分にとっては，少しレベルの高いものであったが，公務員試験に役立った。
3　設問 4 とほぼ同様の回答になるが，座学中心だったため，理解することが難しい授業が多かったことが理由である。
3　学科の名前にも入っている「環境」に関する授業が少ない。
3　講義はためになる知識を得られた。しかし，研究室にいる時間，卒業研究に拘束される時間が苦痛であり，耐えられない。
3　県内の土木に関わる会社や県民局の部署等では，環境のことを配慮してというように強く言われているが，大学の専門教育では理論的なことがほとんどで，実際現場で働いた時に役立つのか不安に感じた。
3　満足できた面と満足できていない面もあったので。
3　まだそれを活かしてないから。

[教員の指導について]
設問 8.（1）所属する学科の教員の、講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応に満足していますか（卒業研究については設問 15 で別に聞きます）。



図Ⅰ－8．教員の指導や対応に満足か

学部全体で肯定的な意見の割合は約 69%で，過去 2 年間とほぼ同様であった。生物学科および園芸農学科での肯定的な評価は，それぞれ 10%，23%ずつ上昇したが，他の 3 学科では 7～14%の減少がみられた。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない

【生物学科】

1　卒業できるレベルにはしてくれるから。
2　質問にもしっかり答えてくれるから。
2　それぞれ講義などで内容等しっかり説明してくれていたから。
2　各個人により癖はあるが，丁寧な先生は多いと考える。
2　とても熱心な先生ばかりだったので，満足しました。
2　実習では好奇心を刺激するようなテーマが多かったため。
2　ほとんどの教員が分かりやすい講義をしてくれるように心がけていることが伝わったし，実習などの手引きも充実していたから。
2　誠実かつ丁寧であったため。
2　特に不満に思うこともありませんでした。
2　問があって 1 つの答えが存在するだけの分野ではないため，試験の採点が全体的に甘く感じたが，良いのか？と疑問に思う反面，確実に助けられたので満足している。
3　教員によって，指導や対応が異なるため。
4　人それぞれだから。

【分子生命科学科】

1　質問にいった際に，わかるまで教えて下さるから。
2　たまに学生をばかにするような発言をする人もいたから。
2　分からないことがあった時に聞きにいける環境だったため。
2　専門英語など授業時先生はやさしかった。
2　分からない所を聞きにいっても，適切に対応してくれたから。
2　特に不満はなかったから。

2　不満を持ったことがないから。
2　元々大学は，自主性によって身につける場だと思っていたから。
2　学生に対して丁寧に対応してくれました。
2　的確な指導をしていただいたから。
3　指導方法が良い教員と悪い教員が混在するため，どちらとも言えない。
3　学生とあまり関わりを持ちたがらない教員もいたから。
3　やる気のある先生，ない先生に分かれていたため。
3　満足な対応の教員もいたが，少し不快な対応をされる教員もいらっしゃいました。
3　良い人もいるが，良くない人もいる。
3　1コマだと対応が変わる人もいたため。
3　良い指導もあったが，そう思わなかった教科もあったから。
3　教員によって指導の内容のわかりやすさに大きな差があったため。
3　（ある程度は当然と思うが）教授によって内容にかなり差がある。実験というより大半の時間を作業についやすものである。
4　授業が面白くない。
4　教員によって指導の仕方に差がある。
4　教員の指導力に差がありすぎる。
4　わかりにくい内容の講義が多かった。また，テストの範囲などが莫大すぎると思う。

【生物資源学科】
1　他の学科の先生と比較してクレイジーで理不尽な人が圧倒的に少ないから。
1　各先生方のパワーポイント，配布プリントの随所で工夫がわかり，非常に分かりやすく，そして丁寧なご指導だったから。
2　直感です。
2　中には内容が難しすぎる先生もいらっしゃったが，どの先生もわかりやすく指導してくれた。
2　わからないことを優しく教えていただいたから。
2　指導の仕方は満足ですが，スライドの場合は文字を後ろの席でも見えるような大きさにしてほしいと思うことがありました。
2　講義などでわからなかったところを質問したときに，詳しく丁寧に教えてくれたため。
2　質問にも答えてくれたり，講義中に重要な点は強調してくれた点は有り難かったです。
2　問題もなかったため。
2　丁寧な対応をしてくれる印象があったから。
2　分かりやすかったため。
2　特に不満を感じたことがないから。
3　各教員によって指導等，裁量が異なるため言いがたい。
3　他大学の教員の指導を受けたことが無いので，どちらとも言えないが，不足は無かった。
3　わかりやすい指導がある実習もある一方で，TA との意思疎通ができていないように思えたり，実験の流れでグダグダになるものもあったため。
3　講義などでわかりにくいこともあった。
3　内容がよく分からなかった教科もあった。

3　教員によっては，授業の内容を理解することができなかったため。
3　真剣に対応してくれる先生もいれば，そうでない先生もいる。
3　十分満足できた教員もいれば，そうでない教員もいたため。
5　学生実験では，その教員の専門分野中心の内容ばかりでなく，もっと実際に研究室で行う実験に近い内容にするべきだと思う。

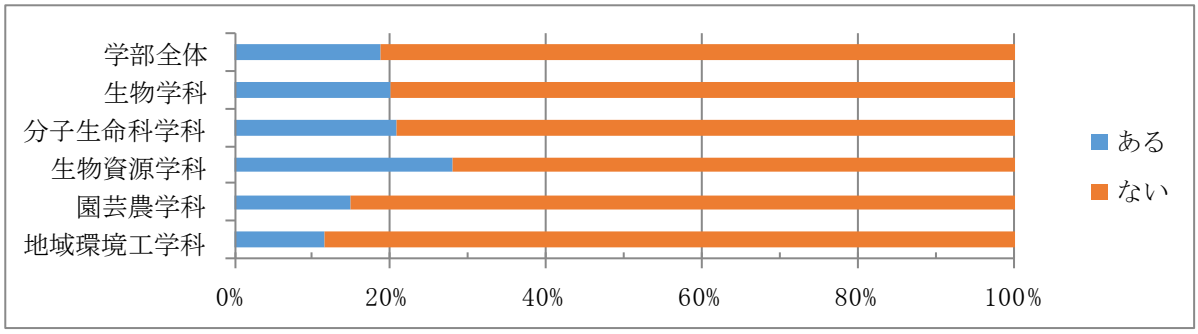
【園芸農学科】
1　やさしいから。
1　講義の内容が面白いことが多かったからです。
1　テストやレポート課題を明確に提示してくれましたし，授業外での訪問にも丁寧に対応してくれたので。
1　授業内容は勿論であるが，レポートの書き方を丁寧に説明して下さったから。
1　学生が興味をもつような講義内容が多かったと感じたから。
2　科目によりますが，学んでいて楽しいと思ったので，満足しています。
2　実習は細かく教えていただいた。
2　身近な事例を多く講義で取り上げていたので，理解しやすかった。
2　疑問点など，ある程度親身に導いてくれるから。
2　就職活動の際，所属する研究室以外の教員からの指導や声がけをしてもらい，合格に繋がった。
2　親身になって下さる先生方が多かった。
2　特に問題なく授業は進行していた。
2　他学科と比べ，学生想いの熱心で優しい先生が多いと感じたため。
2　ゼミなど丁寧に指導していただいたから。
2　アドバイスをたくさん頂き，サポートしてくださったので。
2　良く対応してくれたと思ったから。
2　先生方は熱心で，かつ学生に対して寛容な心をお持ちだったと思います。単位が危ない学生に対しても救済措置を与えてくださっているので，とてもいい学科に入れたと思っています。
2　教科書を使用しない講義が多かったが，レジュメや次回の講義内容を知らせる等があったため，とても分かりやすかった。
3　質問に親切に答えてくれる先生もいれば，そうでない先生もいたから。
3　教員によって差があるとおもいます。
3　講義のヘタな人がいるから。

【地域環境工学科】
2　難しいところ，細かいところも丁寧に説明してくれたから。
2　丁寧な授業をしてくれた。
2　特に問題がないから。
2　適度に学生の理解度の確認を行っていたため，そう思った。
2　講義がわかりやすいから。
2　教員だけでは，全学生の面倒を見ることが大変なときは，学生をサポートにつけるなどして，

対応していたため。
2　とても親切に接していただいたため，満足である。
2　特に不満がないので。
2　わからない部分があった場合，相談に行けばきちんと解説してくれたから。
2　講義の統合などにより，十分な時間がとれず，十分な知識をえられたとはいえないため。
2　質問への対応が丁寧だったから。
2　どの先生も質問すれば丁寧に対応して下さったから。
2　演習（実験）の手順などを用意してくれる先生がおり，取り組みやすかった。
2　質問をしに行ったところ，きちんと答えてくれたため。
3　指導・対応とかあまり気にしてなかったから。
3　教員によって差が大きく感じたから。
3　教員によって変わるので，一概にどうといえないから。
3　スライドが見づらい教員がいた。
3　平均的に考えて。
3　教員間の連携をもっとしかり行ってほしい。
3　講義での配布資料など，理解しやすく見やすいもの工夫されたものがいくつかあった。
4　講義や指導に関して，理不尽さを感じることがある。

設問 9. 履修した科目の成績評価について質問します。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

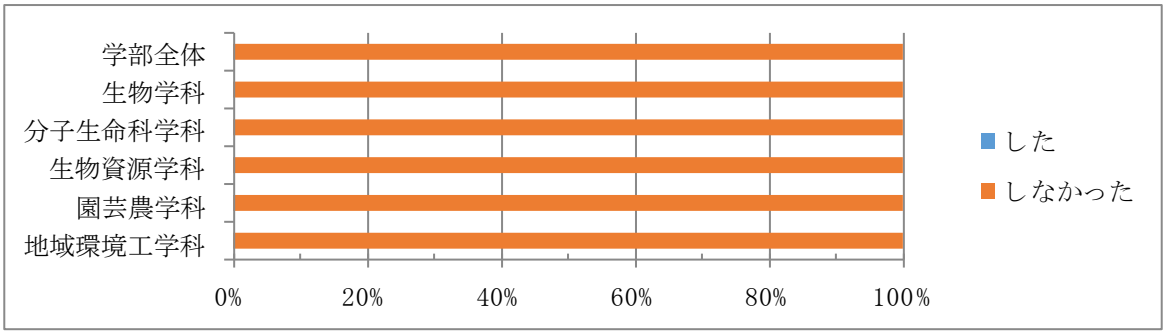


図Ⅰ-9(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはあるか

学部全体で成績評価に疑問があったと回答した学生の割合は 18.8%であり，過去 2 年間にくらべ 5～10%程度減少した。生物資源学科で「ある」と答えた割合が高かったが（28%），昨年度に比べ 15%減少していた。

(2) 疑問や異議があったときは、学部教務に「成績評価の問い合わせ」を提出し問い合わせできることになっていますが、あなたはそれをしましたか。した場合、その回答に満足しましたか。具体的に記入して下さい。

1. した　2. しなかった



図Ⅰ－9(2)．成績評価の問い合わせをしたか

学部全体では成績評価について 100%の学生が問い合わせていなかった(H25 年度は 96%，H26 年度は 95%)。

【生物学科】
なし

【分子生命科学科】
2. その制度自体知らなかった

【生物資源学科】
2. 事前の説明やシラバスに記載されている点数配分とちがったんですけど。出席時の毎回の小テストを 50 点満点換算+期末 50 点満点換算のハズだったんですけど。救済あったら，問い合わせなかったけど，そもそも一発合格だったハズの人もいたと思う。
2. 問い合わせできることも知らなかった。
2. 結局，直接教員に言うのと変わらなかったから。問い合わせがどの程度の人に知られたか，わからないから。
2. 教員の講義内容が抽象かつ断片的だったので，問い合わせることが億劫になったため。

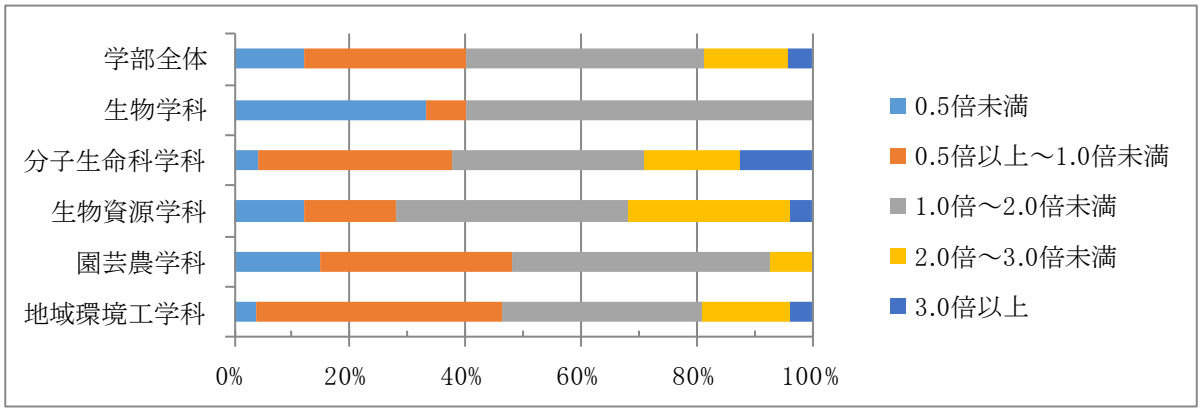
【園芸農学科】
2. 成績評価の結果に疑問や異義をもったことがなかったため。

【地域環境工学科】
なし。

[学生の主体的学習について]
設問 10. 講義や演習の受講に当たり、その講義の受講期間中にあなたは講義室での受講時間の何倍程度の時間を、講義室外での学習（予習や復習など）に当てましたか。大学設置基準に、「１単位は 45 時間の学習を必要とする内容」と規定されています。２単位の科目の場合、90 時間の学習が必要な計算になりますが、講義室では 30 時間(90 分を 2 時間として扱い×15 回＝30 時間)の学習時間しかありません。そこで、講義室外での学習が必要になります（講義室での 2 倍の時

間）。学習時間にはインターネットを利用した関連情報の収集、課題や実験レポートの作成、外書講読・文献講読・専門英語の予習、小テストのための勉強、中間や期末試験のための勉強、研究室内でのプレゼン準備なども含めても構いません。ある 1 科目を想定して回答しても構いません。

1. 0.5 倍未満　　2. 0.5 倍以上～1.0 倍未満　　3. 1.0 倍～2.0 倍未満
4. 2.0 倍～3.0 倍未満　　5. 3.0 倍以上



図Ⅰ－10. 1日平均どの程度の時間を予習や復習に当てたか

学部全体で学習時間が「1～2 倍未満」と回答する割合が最も高く 41%であり，次いで「0.5～1 倍未満」の 28%であった。「2～3 倍未満」および「3 倍以上」の合計は 19%であり，昨年の 5%よりも上昇した。学科別見た場合，2 倍以上の割合はそれぞれ，0%（生物学科），29%（分子生命科学科），32%（生物資源学科），7%（園芸学科），19%（地域環境工学科）であり，生物学科と園芸農学科で低い傾向が見られた。授業外学習時間が短いことは依然続いていることから，テスト内容を難しくするなど厳しい対策を取らなければ全体学力低下の状態を招く恐れがある。

設問 11. 大学教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。
(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

主体的・意欲的学習を，学生自身が講義室外で学習したことを示す記述の有無を基準として判断すると，回答総数 104 件のうち，該当したのは以下を含め 12 件(11.5%に相当)のみであった。

回答例：「講義毎の復習をかかさないように行い，内容の理解に努めた（生物学科）」，「図書館を利用し，友人と勉強会を行い，教員に質問し課題にとりくんだ（分子生命科学科）」，「紹介された参考書を読み，予習・復習をして取り組みました(生物資源学科)」，「講義の内容を鵜呑みにせず，自分で考えることを心掛けた（園芸学科）」，「前列で講義を受講し，予習と復習をきちんと行った（地域環境工学科）」など。

これに対して，単位を取得のみを目的とし，以下のような，受動的であることが明白な記述は 28 件（27%に相当）であった。

回答例：「板書を取らなければいけない授業は毎回出ていたが，出席をとらない授業や試験が簡単なものは出なかった（生物学科）」，「単位取得のため授業を受けた（分子生命科学科）」，「なるべく寝ない(生物資源学科)」，「単位を落とさない程度に取り組んだ（園芸学科）」，「最低限のやる

べきことをやった（課題など）（地域環境工学科）」など。

設問 10 で示したとおり，1 日当たりの予習と復習時間の合計時間が講義時間の 1 倍未満と回答した学生の割合が 40%にのぼることからすると，「意欲的」とは講義時間内のことに限定してのこととも受け取れる。教員から見ると受動的と思われる学習姿勢が多いというこの傾向は，昨年度と同様であった。大学での学びにおける「主体的・意欲的な学習」のあるべき姿勢について入学直後に積極的に指導する必要があると思われる。

残りの回答は，以下の回答例に示すように，「真剣」，　「真面目」，「意欲的」という言葉を使っているが，具体的内容が書かれておらず，受動的な学習との区別ができなかった。

【生物学科】

・ テストで点をとれることを目的に取り組んだ。
・ 真剣にとりくんだ。
・ いい成績をとりたい。
・ 学んだことをしっかり身につけようと集中するようにしていた。
・ 講義によって異なる。やる気の無い教授の話を聞くのは無駄である。居眠りしたことはないが，つまらない雑談を入れる先生の時は違う作業（他のレポート）をする。
・ 必要な知識を得るため。

【分子生命科学科】

・　死ぬ気で。
・　「よし，今日も頑張るぞ」と思いながら。
・　期末テストに向け日々の講義に集中。
・　研究室決めに成績が関わるので，熱心に取り組んだ。
・　その講義について学ぼうとしていた。
・　好きな授業はまじめに取り組んだ。
・　聞き逃しがないよう。
・　内容の理解と，試験でどのように出題されるかを考えて授業を受けた。
・　必要な知識を吸収できる様に積極的に取り組んだ。
・　新しいことをどんどん学べるように取り組んだ。

【生物資源学科】

・　真剣に取り組んだ。
・　単位を落とさないよう，ではなく，どの講義も秀・優を目指して取り組みました。
・　知らないことを吸収しようと意欲的に取り組んだ。
・　前向きな姿勢で取り組んだ。
・　板書をしっかりとり，教員の話すことをメモした。
・　学年が上がるにつれ，意欲的に取り組めた。
・　なるべく友人と情報を共有士合うこと。出席は必ずして，ノートもしっかりとること。
・　興味のある科目については，積極滴に取り組んだ。
・　１コマ１コマ何か知識を得ようと集中して取り組んだ。

- 先生の発言（黒板にかいてないこと）を可能な限りメモをとるようにした。
- 要点を聞き逃さないように集中して取り組んだ。
- とにかく単位を落とさないようにした。
- 興味関心のある分野において積極的に拝聴した。
- 知識を頭の中に入れようと臨んだ。
- 単位取得ができるように取り組んだ。
- 講義での疑問を解決する。

【園芸農学科】
- 先生の発言もメモするつもりで受けていた。
- 板書以外の重要な部分をメモする。
- その日の講義の内容を忘れないようにメモを必ず取るようにしていた。
- 大学では勉学を第一優先にするつもりで入学したので，自分なりに真剣に取り組んだ。
- ちゃんと話をきいてメモをとるようにした。
- 単位をとる。
- 講義のスタイルいあわせてプリントでの学習，ノートをとる等行った。
- 寝ないように頑張りました。
- できるだけ理解して自分のものにできるよう取り組んだ。
- 重要なことはメモするなどして真面目だったと思う。
- 必ず出席し，内容理解に努めた。
- 単位を落とさないように。
- 興味をひかれたものは意欲的に，他は受動的に。
- 総合大学という点で，幅広い分野の授業を取ってみようと，2 年生以降は感じていました
- 内容を理解しようとしていた。
- 授業内で，内容を理解出来るよう，取り組んだ。
- 専門的な内容が多いので，教員の話で重要な部分はなるべくメモをとるようにし，理解することに努めた。
- まじめに取り組んだ。

【地域環境工学科】
- 最低限の知識は得ようという姿勢。
- 良い成績がとれるよう努力した。
- 意欲的。
- 常に真面目に取り組んでいた。
- 興味があれば意欲的。
- 勉強しに大学に来ているという意識をもって。
- 要点だけをおさえる姿勢。
- 積極的に取り組んだ。
- 教員の話す内容（説明）に集中した。
- 板書の他に，先生が言ったこともノートに書き，理解を深めました。

・　できるだけ集中して取り組もうとした。

(2) 実験・実習についてはどうですか。

全回答数 104 件中，37 件（35.6%）は下記の回答例のように自身が行った取り組みや学習成果を具体的に記述していた。

回答例：「実操作や得られた結果の理解ができるように勤め，レポートの提出期限を守った（生物学科，実験の目的を理解し，結果の考察で理解できなかった所は，教員に相談した（分子生命科学科）」，「同じ班の人たちと意見を交換し合いながら実験を進めていく中で，主体的，意欲的な学習が行えていたとおもう（生物資源学科）」，「実験実習の意義や理解に力をいれた（園芸学科）」、「グループで協力しながらうまく実験が進むように努めた（地域環境工学科）」など。

しかし，大多数（58 件，55.8%）は「真剣に取り組んだ」，「積極的に行った」，「ミスをしないように集中した」など，具体的な記述が無かった。

少数（9 件，8.7%）ながら，以下の回答例のような受動的取り組みや否定的な記述もあった。

【生物学科】
・　指示に従って行うだけという印象だった。実習は楽しく印象に残る学びになると思われる。
・　実験は苦手だたため積極的にしなかった。実習は意欲を示してやった。
・　実験：ひたすらつまらなかった。与えられたものをこなすだけで創造性がない。実習：五感をを使って生物学を学べる機会がもうけられているのはない。

【分子生命科学科】
・　眠かった。レポートが大変だった。

【生物資源学科】
・　できるだけ休まないようにした。

【園芸農学科】
・　単位をとる。

【地域環境工学科】
・　何のためにやっているのかが全く分からない実験実習があり，そういったものには意欲がわかなかった。
・　実験設備が不十分で意欲的になれなかった。

(3) 大学在学中のカリキュラム（21 世紀教育も含む）の中で，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

講義の内容や教授法のすばらしさが理由で印象に残っている科目，代えがたい体験を理由に印象に残った実験実習科目，および単位取得に苦労した科目が記入されていた。これらの科目のう

ち，3 名以上の学生が記入した科目は，学部全体では「農場実習」(7 名)，「生化学 I」 (5 名)であった。学科別では，生物学科で「臨海実習」(3 名)，分子生命科学科で「生化学 I」(3 名)，「生体物理化学 I」(2 名)，生物資源学科で「応用昆虫学」 (4 名)，「食品栄養学」(2 名)，園芸学科で「農場実習」(6 名)，地域環境工学科で「地域環境工学実験」(4 名)の回答が多くみられた。印象に残った理由は以下の通りである。

【生物学科】

- 細胞生物学Ⅰ：毎回のレポートに加え，自分が借りたファイルを元にプレゼンテーションをする機会があり，分厚い教科書を無駄なく学べたから。また，この分野を興味深く思ったきっかけとなる授業であったため。
- 退官された城田安幸准教授の昆虫生態学：自身が監修したムシまるQという番組を見せられるだけだったことと，私自身が昆虫好きなこと。
- 進化生態学：ビデオがおもしろかった。
- 野外実習：楽しかったから。
- 臨海実習：実験に興味がもてるようになった。
- 臨海実習：とても良い刺激になったから。
- 農場実習：普段の生活で体験できないことを経験することができたから。
- 教職実践演習：グループワークが多かったから。
- 特になし。

【分子生命科学科】

- 白神学入門：マタギの人の話をなど，普段の生活，講義では聞けないような話を聞くことができとても興味がもてた。
- 生物有機化学Ⅰ：授業は工夫されていたが，全 15 回の授業であの厚い本を理解することは難しい。
- 生化学Ⅰ：学生のためにすごく工夫して講義をしてくれていて感動したし，わかりやすかったし，生化学が楽しいなと思えたから。
- 応用微生物学：基本知識を学ぶ科目が多かった中，バイオマスなどこれからの私たちの生活につながる内容が多く，印象的だった。
- 生体物理化学：内容が難しく恐かった。でもあればあれでよかった。
- 人を育む営み：意味がわからなかった。卵を一週間育ててレポートを提出して，その人の何を見ているのか理解できない。
- 生体物理化学Ⅰ：学科内で，1・2 を争うほど難しい授業であり，緊張感が異常だったため。
- 細胞生物学（石黒先生担当）：生徒ごとに担当することになった範囲を生徒自身が学び，まとめて発表，また，毎回次の授業範囲を自分でまとめて提出という形式だったのだが，石黒先生が一人一人の努力をきちんと見て下さる方だったため。
- 糖鎖工学：わかりやすい説明と，内容のおもしろさが一番だった。
- 食品加工・貯蔵学：食品について知る良い機会だったから。
- 文献講読：英語が好きで，やっと研究に近づいた気になったから。
- 生化学Ⅰ：おもしろかったから。

- 免疫学実験：実験なのに，ただ絵を描いているだけだったからです。
- 学生実験：初めて体験することばかりだったから。
- 分子構造解析学：最も講義が楽しかった。
- 学芸員資格取得の為の講義：博物館（科学館）に来館する人にとってわかりやすい科学館の展示，説明とは何か等，考えさせられた。
- 生化学Ⅰ：講義がとても面白かった。自分がこの分野の研究室に入りたいと思ったきっかけとなった。

【生物資源学科】
- 植物バイオテクノロジーⅠとⅡ：興味があるからです。
- 学生実験では，実際に自分たちで行ったので，研究に使う器具の使い方を覚えることができたので良かった。
- 生化学Ⅰ：先生のユーモアあふれる講義でした。
- 植物育種学Ⅰ：大学の講義の難しさを知った。
- 食品学実験：自分が学びたいと思う内容の実験だったため楽しかった。
- 応用昆虫学：昆虫の生態を理解することで，農業や医療など幅広い分野に役立てるとわかって感動したためです。
- 学生実験：農学生命科学部に入学して初めて実験器具に触れ，実験を行ったため。
- 菌類。
- 生化学Ⅰ：毎回楽しめるような時間を作っていて，とても楽しく受講できた。
- 食品栄養学：授業がわかりやすく，興味がある分野だった。
- 植物病理学：内容にも試験にも満足した。難しい試験を突破するために勉強した内容が後々ためにあるものが多いし，先生の人格が素晴らしいです。
- 応用昆虫学：講義のスライドがすべて英語で内容も自分にとっては非常に難解であり，また試験対策にも多く時間を要したため。
- 食品栄養学：自分が興味のある内容だったから。
- 生化学Ⅱ：自分の体内で行われていることを学べたため。
- 植物病原学：ノートが多い割に，内容がわかりやすかった。
- 「文学の基礎」：誰しもが読んだことのあるおとぎ話を古典で探究することに面白みを感じた
- 農場実習：座学よりもよく頭に入るから。
- 応用昆虫：スライドがすべて英語。テスト持ち込みなんでも可というのは衝撃だった。
- 応用昆虫学：スライドが全て英語なのには困った。
- 特になし。

【園芸農学科】
- 青森の歴史についての授業がおもしろかった。十和田湖？の。
- 農場実習：今まで体験したことのないことも自分で動くことで体験できた。
- 地域ブランド農産物概論：さまざまな分野の視点から地域の「ブランド」を学ぶことができたから。
- 食料経済論：ニュースで取り立てられたＴＰＰなどの問題を，色々な角度から学ぶことがで

き，世界の食料経済事情を知ることができた。また，レポートに大変苦労したので印象深い。

- 果物学：おもしろかったから。
- 中国語：先生がやさしい。
- 畜産学汎論：畜産の基礎的なことをしれたので，印象に残っている。
- 農場実習：より現場に近いリアルな農業を学べたため。
- 農場実習：外で作業をすることがとても楽しかったです。
- 英語：高校の授業みたいに分かりやすかったし，理解もできた。宿題もやりごたえがあった。
- 農場実習：座学では得られないものが得られた。
- フランス語Ⅰ：前期で不可となり，後期再受講したが，先生の良し悪しで授業の楽しさや理解度が大きく変わるのだと感じたため。
- 世界史：1 次大戦から 2 次大戦までのドイツについて，先生のお話がとても面白かった。
- 津軽学：けの汁がおいしかった。
- 私自身は受講していなかったのですが，被災地（岩手県野田村）で行っている交流活動に参加することで，単位取得する科目で，被災地を自分の体で感じる機会を提供している点に注目しました。また，この活動は学生だけではなく，弘前市民も多く参加するため，弘前に感心を持つきっかけにもなると感じます。
- 2 年の時の通年で行われる農場実習：農業に関わる学科なので，座学よりも実習の方が学べることも多く，満足できる内容だと思った。
- 農場実習：初めて体験するものが多く，友達と外で牛を誘導したり，りんごの木。
- 特になし。

【地域環境工学科】

- 実験実習：何が目的か最後まで分からなかったため。
- 地盤工学，農地工学，水利造構学，人を育む営み。
- 英語：教員によって難易度に大きな差があると感じたから。
- 生物学の基礎：単位を落としたから。
- 学生実験でやったことのない実験をしたから。
- 21 世紀の医学分野について学んだが，大学以外では学ぶことができない内容を見ることができたのでよかった。
- 地域計画学：実際に対象地に行って調査した現場を発表し，改善案をグループで考えて見出すことが面白かった。
- 国際農業論：諸外国の農業の現状を学ぶことができ，とても印象深かった。日本だけでなく他の国に焦点を当てて見ることが大変面白く興味を持つことができた。
- 測量学実習：実習が楽しかったので。
- 地盤工学：理由としては，細かい所まで解説し就職試験等の知識を得られたから。
- 地域環境工学実験：様々な器具を用いて，普段，気にもとめなかった事柄を実験することが新鮮だった。
- 社会とジェンダー：専門分野と関係ないが，視野が広がっておもしろかった。
- テーマ科目「市民生活と地域社会」：学科では学ばない子育てを学びました。子供と触れ合う機会もあり，子供が好きなのでとても楽しかったです。

・　白神山地入門：マタギについての内容が興味深かった。
・　芸術の基礎（B）：自分が今までもこれからも学ぶことのできないであろうことを知ることができたから。
・　生物の科学・技術：教員の話が良かった。
・　特になし。

[学生への教育支援，施設・設備について]

設問 12. 本学部や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，下記のような 10 のルートを用意しています在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。(　) 内に番号を記入して下さい。

(1) 学業

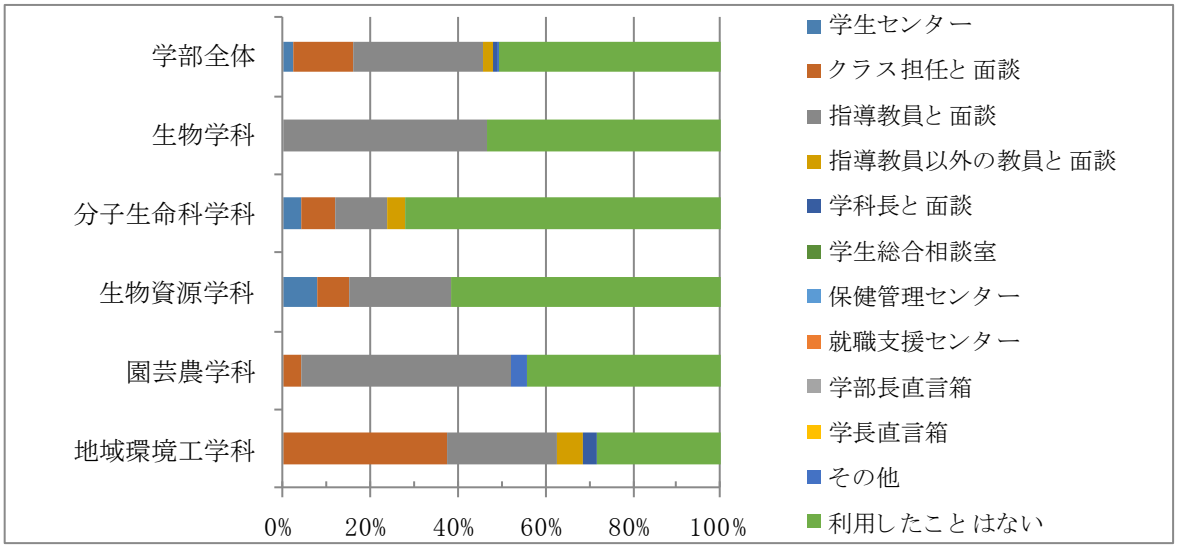
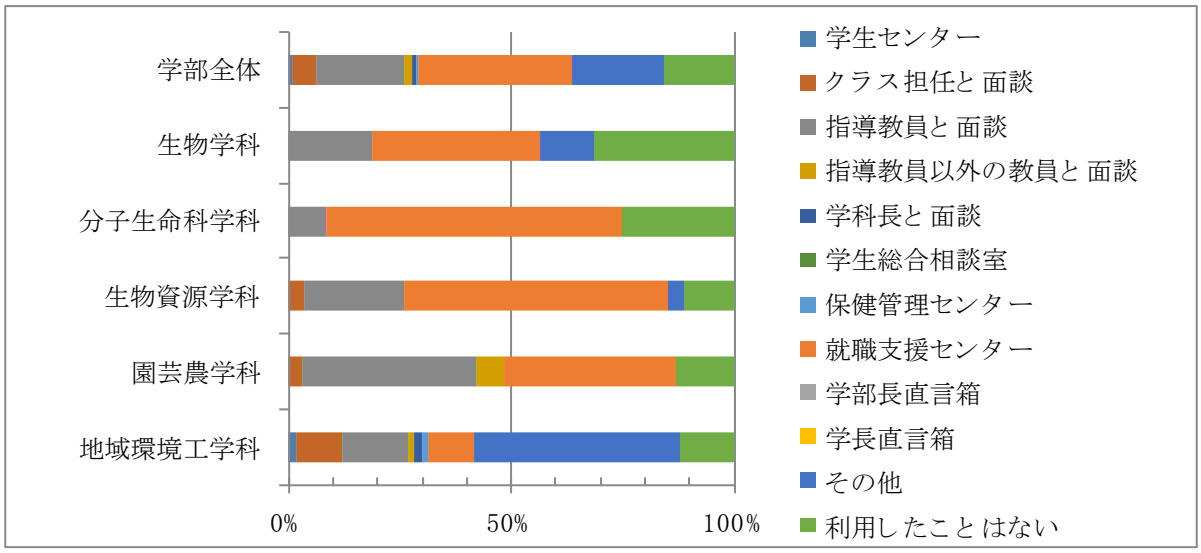


図 I－12(1)．学業に関する相談窓口

学業に関する相談の場合，学部全体では，「利用したことはない」(50%)，「指導教員と面談」(29%)，「クラス担任との面談」(14%) の順に高く，過去 2 年間とほぼ同じ傾向であった。学科単位で見ると，園芸学科および地域環境工学科では「クラス担任と面談」と「指導教員と面談」の合計が，それぞれ 52%および 63%と，他学科と比較して高いことが特徴であり，相談窓口の利用率が高いものと考えられた。特に地域環境工学科では，この合計値が 55 %（平成 26 年度），71%（平成 25 年度）と継続して高いことから，学科として積極的に取り組んでいることが伺える。

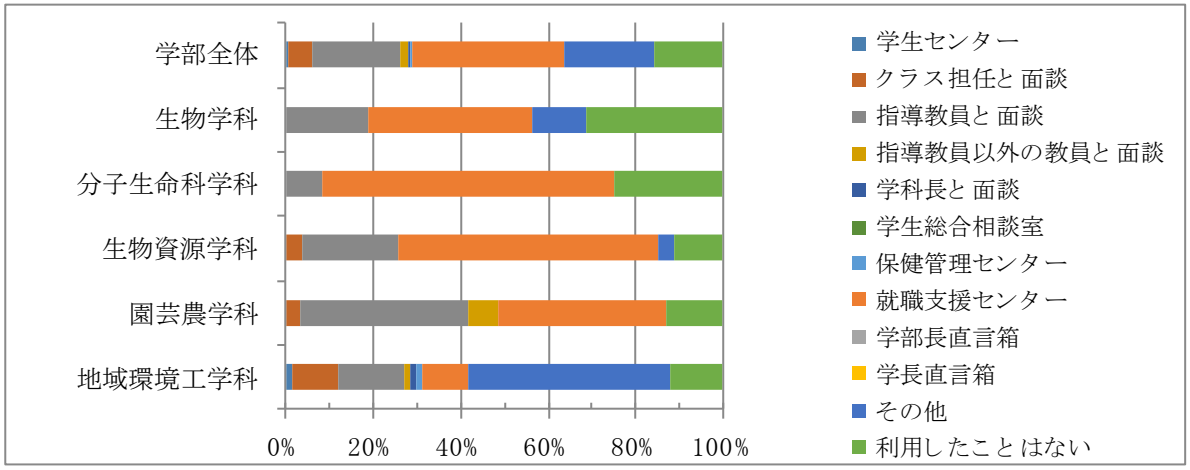
(2) 学生生活



図Ⅰ－12(2)．学生生活に関する相談窓口

学生生活に関する相談の場合，学部全体では，「利用したことはない」（55%），「保健管理センター」（20%），「指導教員と面談」（11%）の順に高く，過去 2 年間の傾向と同様であった。地域環境工学科では他学科に比べ「就職支援センター」の利用率が高い(17%)というのも昨年度と同様の傾向であった。

(3) 進路

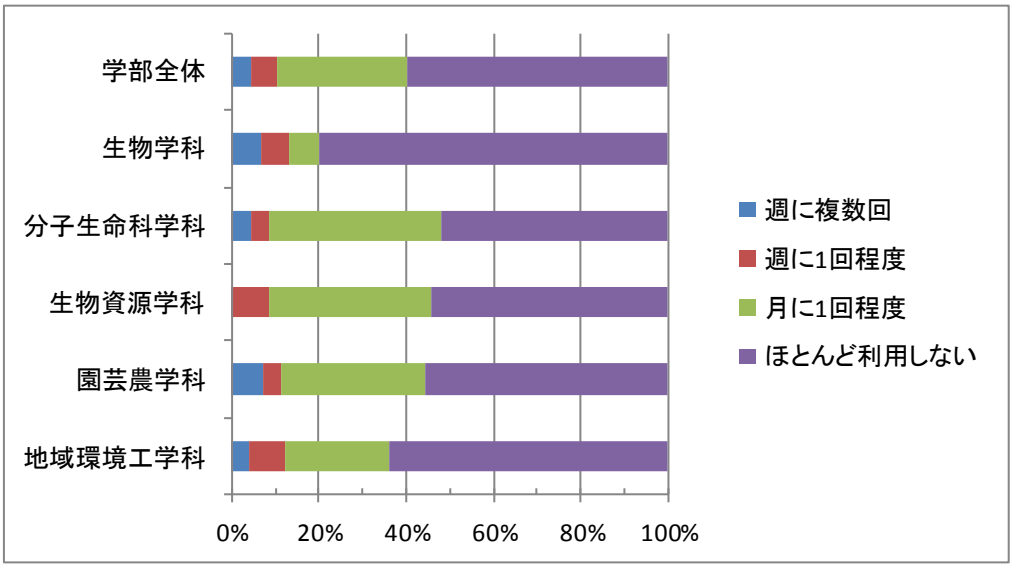


図Ⅰ－12(3)．進路に関する相談窓口

進路に関する相談の場合，学部全体では，「就職支援センター」(35%)が最も高く，昨年に比べ 3%上昇した。2 番目に多かった「指導教員と面談」(20%)は昨年に比べ 5%低下した。例年多かった「利用したことはない」は，H25 年度や H26 年度では 28～30%であったのに対し，H27 年度では 16%に減少したことから，何らかの相談窓口を利用していることが伺える。地域環境工学科では，昨年度同様，他学科と比べ「就職支援センター」の割合が低かった（10%）。

設問 13. 本学部図書閲覧室の利用について質問します。

(1) あなたは在学期間を通して，平均どのくらい利用しましたか。

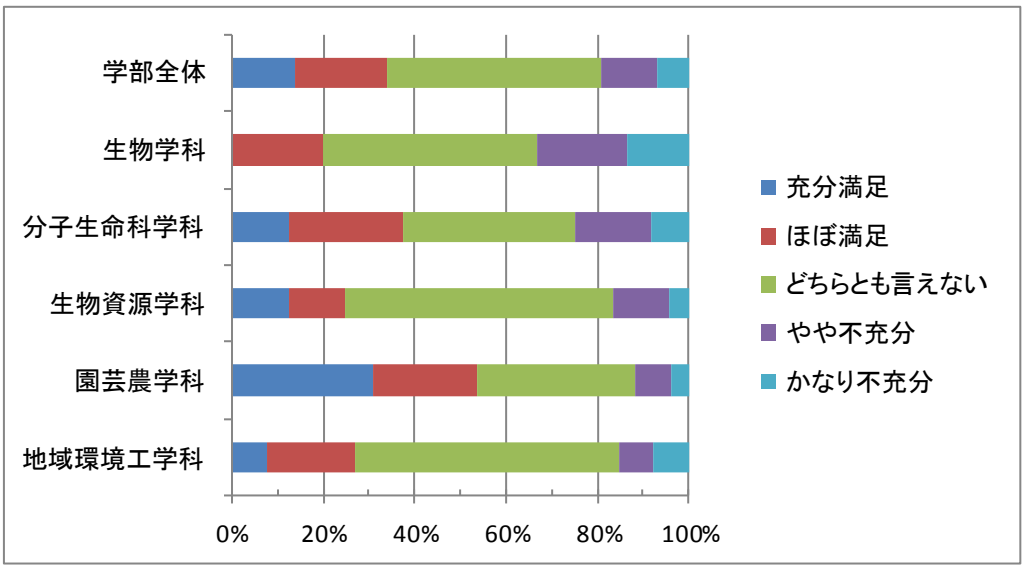


図Ⅰ-13(1)．本学部の図書閲覧室の利用頻度

本学部の図書室の利用頻度は，学部全体で見ると，「ほとんど利用しない」が 60%で最も多く，「月に１回程度」の 30%と合わせると，９割の学生が月に１回以下しか利用していないことになる。「ほとんど利用しない」学生の割合は，昨年の 64%から若干低下したものの，最近数年間は増加傾向にある。自習スペースを拡大するなどの改善を図っているが，利用頻度の増加には至っていないと考えられる。学科単位で見ると，生物学科の利用が他学科より若干低い傾向がある。

(2) 以下の項目について，どのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

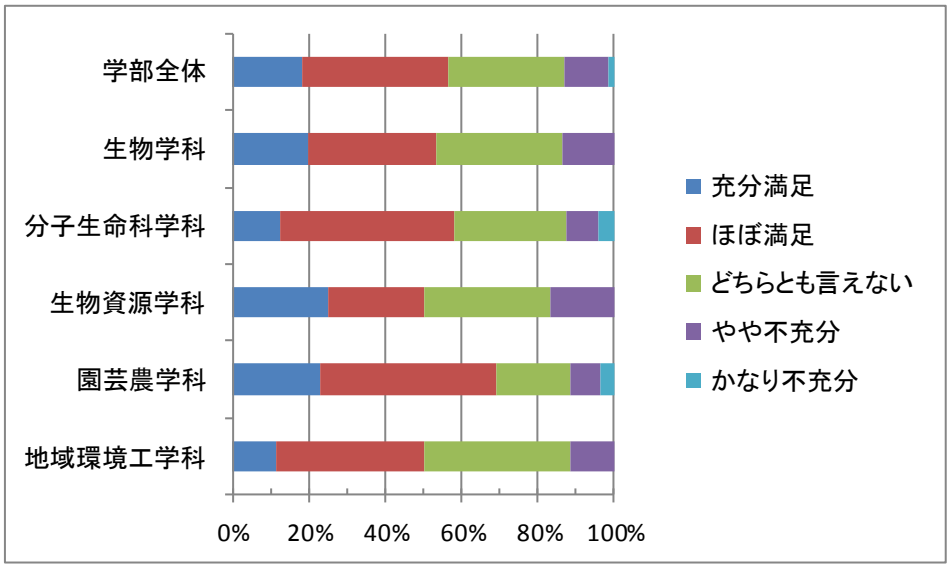
1. 所蔵図書（和書および洋書の単行本）



図Ⅰ-13(2)-1．所蔵図書

図書閲覧室の所蔵図書について，学部全体では「どちらとも言えない」が 47%で最も多かった。設問 13（1）で図書室をほとんど利用しないという回答が 60%に達していることから，「どちらとも言えない」という回答は所蔵図書の現状を十分に把握していないためとも考えられる。一方，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 34%であった。平成 24 年度まで 40%程度で推移し，平成 25 年に 27%に低下したが，平成 26 年度（31%）に続いて回復する傾向が見られる。現在の図書閲覧室は自習室としての利用が主流になっているが，その中で蔵書の満足度を改善しようとするなら，授業科目の参考図書や学部学生向けの専門図書を計画的に拡充していくことが望ましいと考えられる。

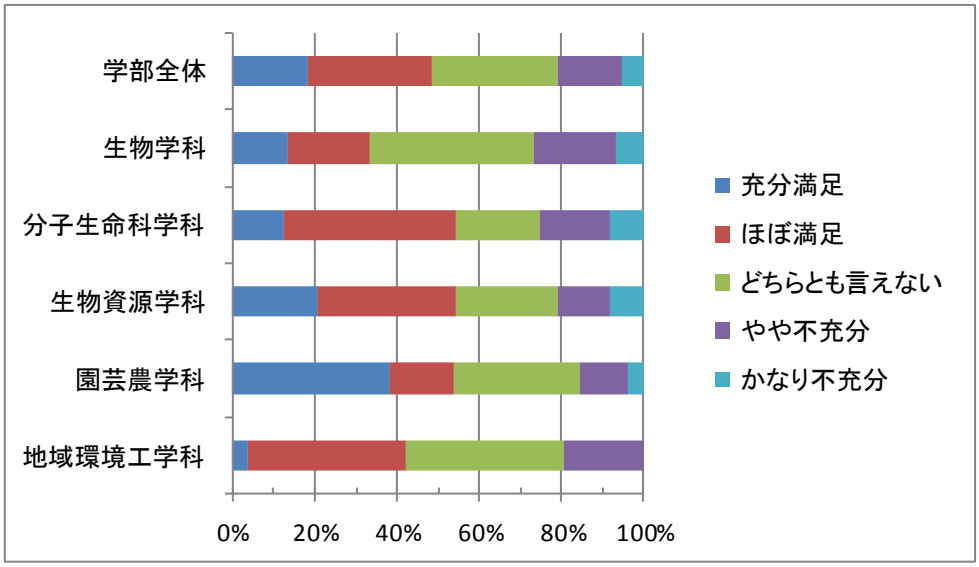
2. 閲覧スペース



図Ⅰ-13(2)-2. 閲覧スペース

図書室の閲覧スペースについて，学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 57%で，「やや不充分」と「かなり不充分」の合計（13%）を大きく上回った。「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は，平成 22 年度には 29%であったが，平成 24 年度以降は 52～60%で推移している。このような評価の上昇は，農学生命科学部後援会の援助により，閲覧スペースの整備改善を行ってきた結果であると推定される。自習室としての利用が主流になっている実態を踏まえると，閲覧スペースでなく自習スペースとしての満足度を問うように設問を変更することが望ましい。

3. 開館時間



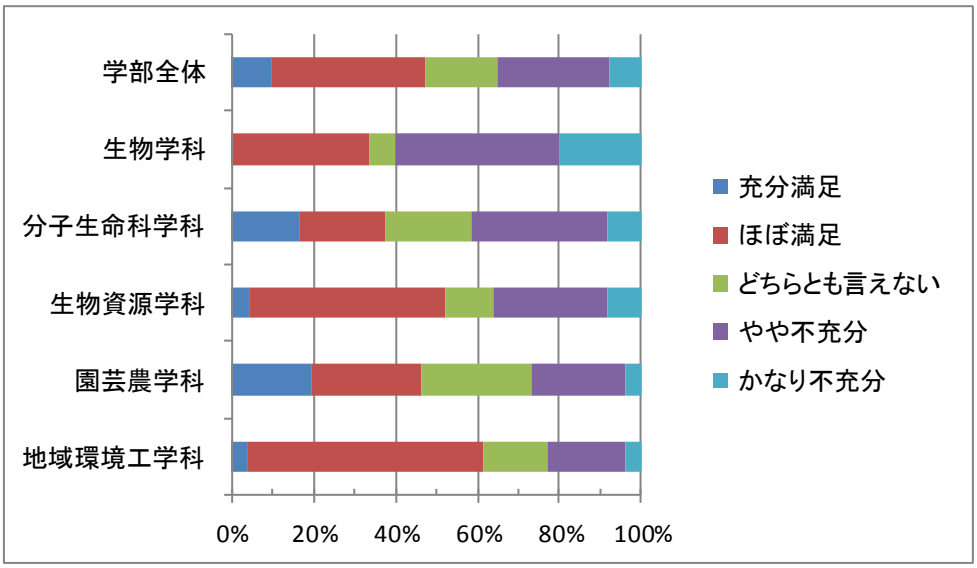
図Ⅰ-13(2)-3. 開館時間

図書閲覧室の開館時間について，学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 49%であり，「やや不充分」と「かなり不充分」の合計（21%）を大きく上回った。平成 24 年以降，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 47～52%，「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は 17～27%で推移している。この設問も，自習室としての利用実態を踏まえ，開館時間でなく利用時間を問うように変更することが望ましい。

設問 14. 本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。

(1). 下表の該当する欄に〇を書き込んで下さい。

1. 講義室

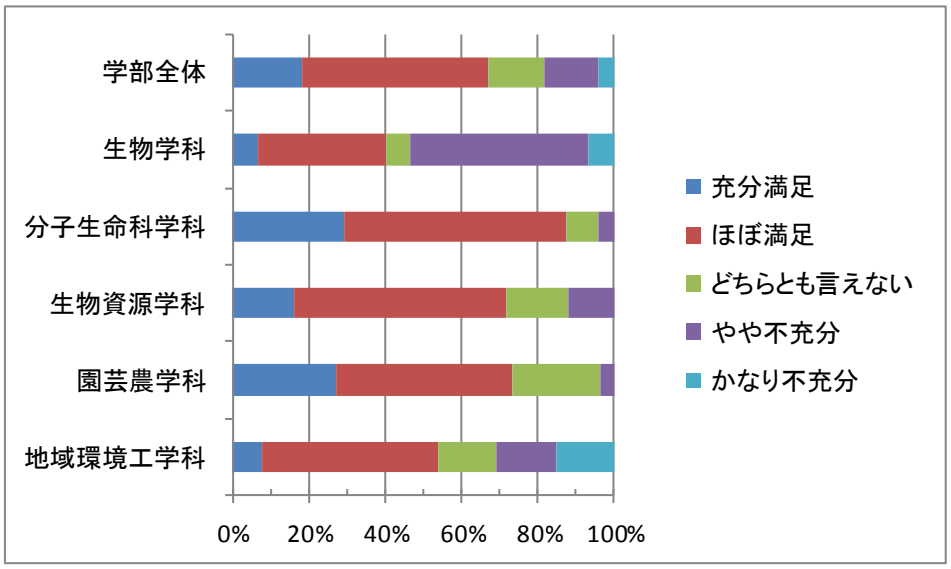


図Ⅰ-14(1)-1. 講義室

講義室について，学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 47%であり，「やや不充分」と「かなり不充分」の合計（35%）を上回った。しかし「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は，平成 22 年には 64%に達していたが昨年から 50%を下回っている。また「やや不充分」と「かなり不充分」の合計も，平成 22 年は 17%であったものが昨年から 30%を上回っている。まだ満足度が不満足度を上回るものの，経年的に満足度が低下し不満足度が上昇する傾向にある。

設問 14(2)より，近年は８月上旬まで授業があるのに冷房設備がないこと，冬季は暖房の温度管理が不充分で暑すぎたり寒すぎたりが激しいことが不満足の主要な原因と考えられる。また，机や椅子の老朽化を指摘する記述も見られる。

2. 実験・実習室

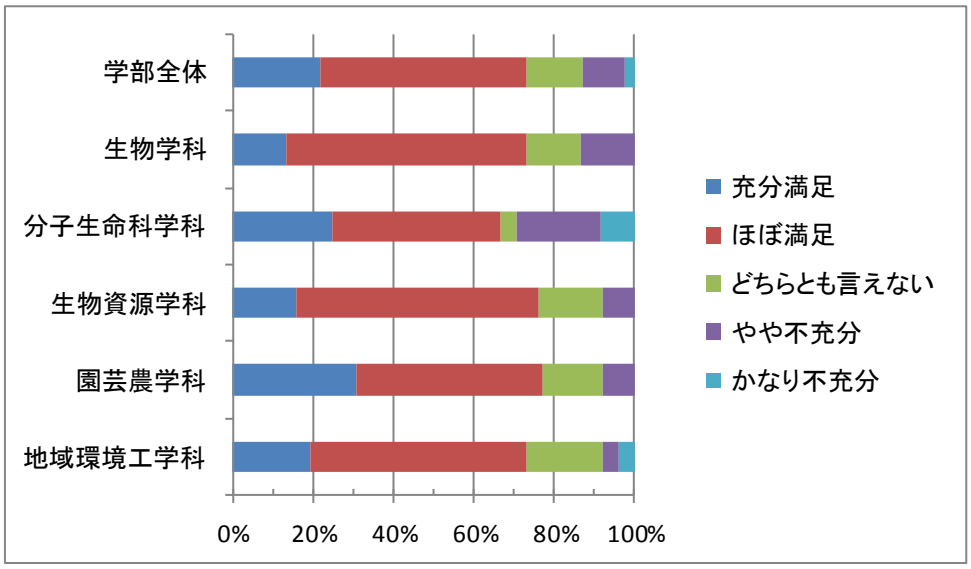


図Ⅰ-14(1)-2. 実験・実習室

実験・実習室について，学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 67%であり，「やや不充分」と「かなり不充分」の合計（18%）を大きく上回った。平成 24 年度以降，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 64～71%，「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は 11～18%で推移している。

学科別に見ると，平成 25 年度以降生物学科では「やや不充分」と「かなり不充分」の合計が 40%を超えていたが，本年度も 53%に達し，他学科に比べて突出して不満足度が高い。その理由は本年度の設問 14（２）からは読み取れないが，過去に学科実験室の面積不足や機材の破損が指摘されていた。

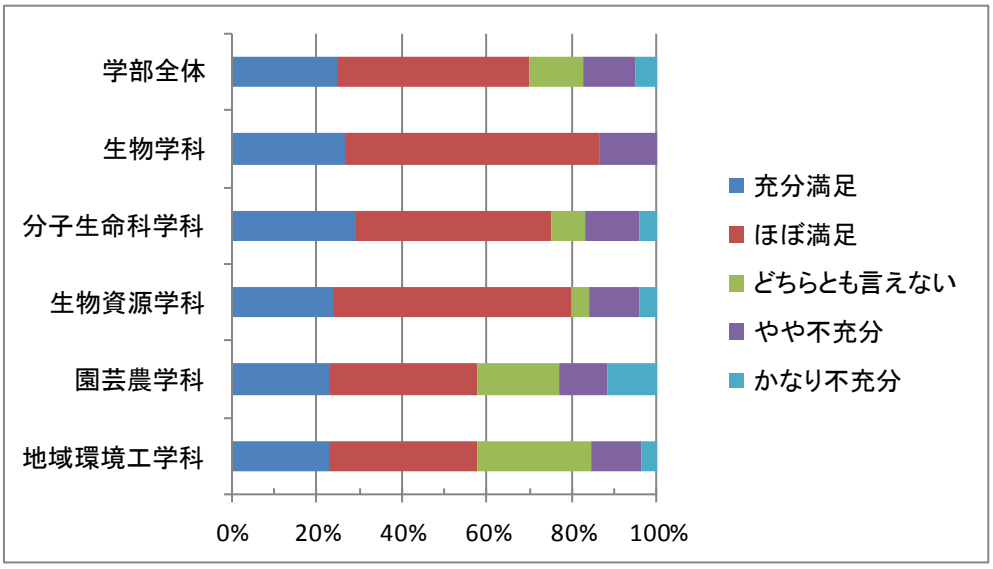
3. 情報処理演習室



図Ⅰ-14(1)-3. 情報処理演習室

情報処理演習室について，学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 73%であり，「やや不充分」と「かなり不充分」の合計（13%）を大きく上回った。情報処理演習室は過去にも満足度が高く，平成 24 年度以降，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 71～79%で推移している。学科別で見ると，分子生命科学科のみ「やや不充分」と「かなり不充分」の合計が 29%と高かった。分子生命科学科だけ不満足度が高かった年度は最近なく，原因は必ずしも明らかでないが，設問 14（２）では同学科の学生から面積不足や印刷枚数制限が指摘されている。

4. 卒業研究を行った研究室



図Ⅰ-14(1)-4. 卒業研究を行った研究室

卒業研究を行った研究室について，学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 70%であり，「やや不充分」と「かなり不充分」の合計（17%）を大きく上回った。しかし「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は，平成 23 年以降 74～82%で推移してきたので過去５年間では最低であり，満足度の低下が示唆される。本年度はコラボ棟が主体の生物学科で「充分満足」と「ほぼ満足」の合計が 80%を超える一方，農生棟が主体の園芸農学科や地域環境工学科では 60%を下回るなど，学科間で若干満足度の差が見られた。

(2)．各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

今年度は延べ 64 件の要望があったが，そのうち 30 件は冷暖房に関するもので，経年的にその割合が増加しており，学生の切実な要望であることがうかがえる。また 30 件のうち 14 件は講義室の冷暖房に関する要望であり，講義室の満足度低下の主要原因が冷暖房であることが示唆される。また建物内の Wi-Fi の電波環境の改善要望が４件あった。

【生物学科】

＜講義室＞

- 各教室の温度管理をもっとしっかりしてほしかったです
- 教室（講義室）の暖冷房設備が不十分だとおもいます（農生棟）
- 講義室に時計がないのが困る。他学部の講義室にはあるのにどうして農生にはないのか･･･
- 講義室に時計を設置してほしい。廊下が暗い
- 講義室の机の傷や落書きをどうにかしてほしい。特に，針やカッターでつけられたような傷は，プリントに文字を書くときに引っかかる
- 講義室の冷暖房を節約するのはおかしい。寒いし暑い。よく使う講義室には冷房がついてなくて授業に集中できない。ありえない。酷いゴミ

＜その他の施設＞

- 夏の冷房
- 夏は暑くて冬は寒い施設が多い
- 冷房設備

【分子生命科学科】

＜講義室＞

- 講義室：受講する生徒数に対して席が足りないと感じることが多かった
- 講義室が汚い
- 講義室にクーラーをつけてほしい
- 講義室の暖房は入れて下さい。寒すぎる日があります。情報処理室は少し狭い（席が足りてない）
- 講義室が狭いし，イスが壊れてることもある。
- 暖房が暑すぎたり，止めるとすぐ寒くなったりと極端すぎと感じた。
- 冬の講義室が寒かったので，暖房をつけてほしい

＜情報処理演習室＞

- 情報処理室は少し狭い（席が足りてない）
- 情報処理演習室が汚い。引き出しにゴミが入っていたり、キーボードやマウスがべたつく。印刷可能枚数が年々減って（1 年生は 100 枚）不便

＜卒業研究を行った研究室＞

- コラボ弘大内の研究室について：冬場はかなり寒いので暖房が稼働してくれるとより快適になると思いました。できればでいいですが・・・
- UV モニター，遠心機，シェイカーを直して下さい（研究室）

＜その他の施設＞

- エアコンを導入できるよう，建物自体を早急に新しくするべきだと思う。トイレも流れが悪い
- 温度管理が微妙暑すぎること寒すぎるときが激しい
- 寒い（冬）熱い（夏）
- 寒いです
- 全体的に光が差し込まず，学部が暗い印象を受ける。
- インターネットの Wi-Fi が屋外でも繋がりやすくなればさらによい。
- 図書館でカラー印刷ができないのはとても不便だったので改善してほしい
- 農生のトイレ　水漏れ，流水音ならない，前の人が使用した後，トイレが流れていないなどの不備がある。毎日トイレ掃除の人が頑張って掃除してくれているけど，以上の様な不備があるため不潔感がある

【生物資源学科】

＜講義室＞

- 講義室の床や机にゴミが落ちていることが多い。学部全体が寒く，集中して講義を受けることができないことがあった
- 特に講義室では，夏は冷房がはいっておらずかなり暑くなる一方で，冬は暖房が効きすぎてかなり暑かった印象があるので，冷暖房をもう少し効率良く使って欲しいです
- 夏は仕方ないが，冬の講義室の暖房がききすぎて暑い
- 冬，1 コマの講義の時に，暖房が壊れていたのか講義が終わるまで寒いままだったことがあり，勘弁してほしかった
- 冬寒すぎる（農学生命科学部の講義室が）

＜卒業研究を行った研究室＞

- 全体的に狭い。特に研究室は実験スペースと食事のスペースが近すぎる。分けて欲しい

＜その他の施設＞

- クーラーが欲しい
- 増築して下さい。校内が寒いです

- 冬期のエアコンが OFF にある時間が早すぎる。16：00 あたりに OFF になります。やめて 19：00 くらいまでつけてください。学内 Wi-Fi の電波が弱すぎる。特に平日の日中。一番調べ物をしたいときに，ネットが使用出来ないです。改善のほど，よろしくお願いします
- 図書館の土日の開館を 9：00 からにしてほしい
- 農生全体が暗い気がする
- 農生たてかえてください！！暗いし寒いし暑いし。研究設備があるから完全移設でないといけないんでしたっけ？校庭のところとか体育館の所に新しい農生つくりましょう！！

【園芸農学科】

＜講義室＞

- 講義室によって暖房・冷房設備に違いがあるので，学習しやすい環境を整備してほしい
- 冬の講義室が寒いです。

＜卒業研究を行った研究室＞

- 学生控え室が狭い。遺伝子実験施設へ行かないと実験できないものがあり，少々の負担がある
- 研究室の人数に対して，机の数が足りないと思います
- 実験器具を潤沢にしてほしい。試験管やピペットのチップなど
- ゼミ室を広くしてほしいです
- 夏場の夜間は室温が高いため，窓を開けて換気を行いたいが，部屋の照明を点灯していると，虫が侵入するので，断念したことがありました。実験用途で使用しない部屋にも網戸を設置して下さると助かります。各部屋に複数組の窓がある場合は，1 組だけに限定して導入する形であれば，コストも抑えられるかと思います
- 2F 控え室のコンセントを増やして欲しいです。

＜その他の施設＞

- 21 世紀の授業で使う教室は，机の面積や座席間隔が狭いと思う
- エアコンをつけてほしい。全体的に暗い。廊下にいてもすぐに電気が消えてしまう
- 各施設で Wi-Fi の電波が不安定な所がある。大学内どこにいても充分に Wi-Fi を利用してインターネットを使用できるようにしてほしい
- 空調。ものすごく寒いときもあれば，体調が悪くなりそうなほど暑いこともあった（特に冬場）
- 自動販売機のジュースの種類を豊富にして欲しいです
- 昼食時の混雑。ロードヒーティングは効果があったのか？

【地域環境工学科】

＜講義室＞

- 夏期やや冬期で各講義室で温度差が激しい
- 教員にわかりやすいよう講義室の設備を整えないと，講義が円滑に進まない
- 講義室：机が可動式なので，動きやすく，イスと机の間が狭くなるときがあった

＜卒業研究を行った研究室＞

- 実験器具が欲しかった
- 実験施設と冷暖房をもっとしっかりしてほしい
- 農生棟の研究室付近 Wi-Fi 接続を改善してほしいです
- 普段学生室として使っている部屋で，大学の Wi-Fi の接続が悪くてすぐ切断されるので，もっと安定した回線があるべきだと思います

＜その他の施設＞

- 暖房をもう少し高めに設定してほしいです
- 農生棟裏にある実験棟が寒い
- 冷房欲しい。PC の処理遅すぎ

［卒業研究について］

設問 15. (1) 卒業研究を行ったことに満足していますか。

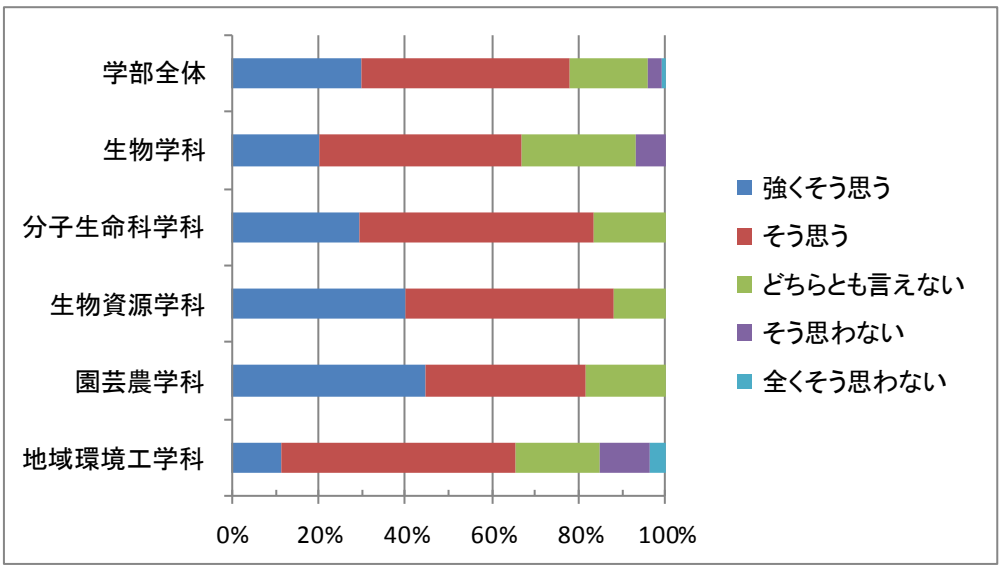


図 I -15. 卒業研究を行なったことに対する満足度

卒業研究を行ったことに対する満足度は，学部全体では「強くそう思う」と「そう思う」の合計が 78%に達し，23 年度の 84%，24 年度の 80%，平成 25 年度の 86%，平成 26 年度の 84%に比べるとやや低いものの，極めて高い値であった。卒業研究は好評であることが判る。学科間でも大差なく，全ての学科で満足度が高い。満足した理由（設問 15（2））を見ると，研究活動を通して自己の成長を実感したり，大きな達成感を得たりする学生が多いことがわかる。

一方で，回答した 117 人中 21 人が「どちらとも言えない」，5 人が「そう思わない」および「全くそう思わない」を選択した。その理由として，「就職活動との同時進行に苦戦し，納得のいく研究結果を出せなかった」「期間が短く物足りなさを感じた」「良い結果が得られなかった」などの時間的制約や研究成果に対する不満，「入学時に学びたいと思った分野で研究できなかった」「自分が取り組みたい内容ではなかった」「農生に合ったテーマではなかった」などテーマ設定へ

の不満，「ノルマが研究室毎にまちまち」「指導教員にひどい言葉で叱責される」など指導体制への不満があげられていた。これらの指摘の中には，教員と学生のコミュニケーション不足に起因する事例もあるように思われる。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない
5. 全くそう思わない

【生物学科】

1　自身の大学生活 4 年間での集大成だと実感できるため
1　学生生活の締めくくりとして重要
1　以前から勉強したいと考えていた分野の勉強ができたし，満足のいく結果も得られたから
2　1 つのことを深くほりさげる楽しさや難しさが分かったためです。また，今まで学んできたことの集大成にふさわしかったとおもいます
2　研究室の資料や自分で探すことで様々な情報に触れられ且つ先輩や後輩とのコミュニケーションを取ることにもなる。自信がつく
2　大学院に進学するにあたり，1 つのステップとして重要であると考えているため
2　自分自身を高めることできたから
2　自分の人生において，良い経験になったと思うから
2　興味のある分野での研究を行えたから
3　実験が好きではなかったが，まとめる上で Excel などの技量はえられたため
3　研究そのものに興味がないから
3　少し内容が薄くなってしまったようにかんじるから
4　病気になり集中して満足の得られる業績を残せなかったから

【分子生命科学科】

1　研究をしたくて大学にきたので，十分できて満足である
1　本当に厳しく大変だったが，自分の力が確実に成長したことが実感できたので，感謝している。ただ，卒業研究はいつまでやればいいのかわからない
1　大学生の締めくくりになった
1　先生と Discussion して研究を進められたから
1　ためになった。やりがいがあった
1　今まで学んだことを十分に活かせる研究ができた
2　多少なりとも自身で研究しているという気持ちが芽生え自主的に動くようになったから
2　1 つのテーマに対し自分で目標を立て実験し，深く考えることができたため
2　人に恵まれたから（先輩，同期，後輩，先生）
2　自分の成長を感じることが出来たため
2　何か 1 つ自分で課題を持って取り組む事で，講義や学生実験とは異なる充実感を得られたから
2　自分が入学時からやりたいと思っていたことをテーマにできたため
2　自分で世の中でまだ解明されていない新しい事について調べるのが面白かった

2　学部卒の場合は，ポスター発表なしで卒論のみでも良いのではないかと思ったので 1 でなく 2．実験時間が削られてしまうので少し惜しい
2　自分が入りたい研究室に入れたから
2　とても貴重な体験だとおもうから
2　この先，研究をすることはまずないと思うので，最後に楽しめた
2　大学で学んだ集大成になる。就職活動のせいもあり，実験が十分行えなかった
2　実際に自分でスケジュールを組んで実験をし，新しい発見をすることができて良い経験になった
3　色々なことをしてきたが，原理だったり取り組み方が不十分だったから
3　卒業けんきゅうという実感がなかったため
3　行った研究に関しては，満足感もあるが，期間が短く，物足りなさも感じたから
3　思うような結果が得られなかったから

【生物資源学科】
1　その分野だけでなく，資料の作り方や，発表の仕方など，多岐に渡り成長できていると感じているため
1　実験することが自分に向いていることだと思うことができた。卒業後，研究職に就く予定なので，今の経験がとても役に立っていると思う
1　1 年以上の間，1 つのことを追求できて，充実した学生生活を送れたと思えたから
1　大学生活で学んできたことを形に残すという意味でも大切がことだと思うため
1　卒業研究を通して, 実験の楽しさを学べたことはもちろん, 計画性や先の見通し考察力等, 自分の成長となることばかりであった気がする
1　大学院に進学する上で，とても重要だったから
1　初めて行うことだったので，自分にとって良い経験になったから
1　研究することの意味が明確であり，成果を得る達成感を感じたから
1　1 年かけて研究を行うことなど，なかなかできることではないから
1　大学で学んだことを他人へ説明しやすいため
2　やりたくて大学に入ってきたことがテーマだから。時間が足りないのだけが惜しい。就活早めてくれ。
2　少しでも専門的な知識を身につけることができたから
2　今まで明らかになっていなかったことを自分が行った研究によって明らかにできたことが楽しかったため
2　目標を持ち実験し，結果がでると，達成感が得られ，自信もついた
2　興味のある事を意欲的に取り組む事ができた
2　最終的に 1 つの結論がでるわけではないが，北海道や県内の農業に貢献できる内容だったため
2　研究を進めるにつれて新しいことがわかったり，工夫すべきことがわかったりすることがおもしろかったから
2　1 つのことにとりくみ，結果を出すということはなかなかない経験ができたと思う。学生実験によってとられる時間が去年よりも長くなったのに，卒論発表が去年より 1 週間も短

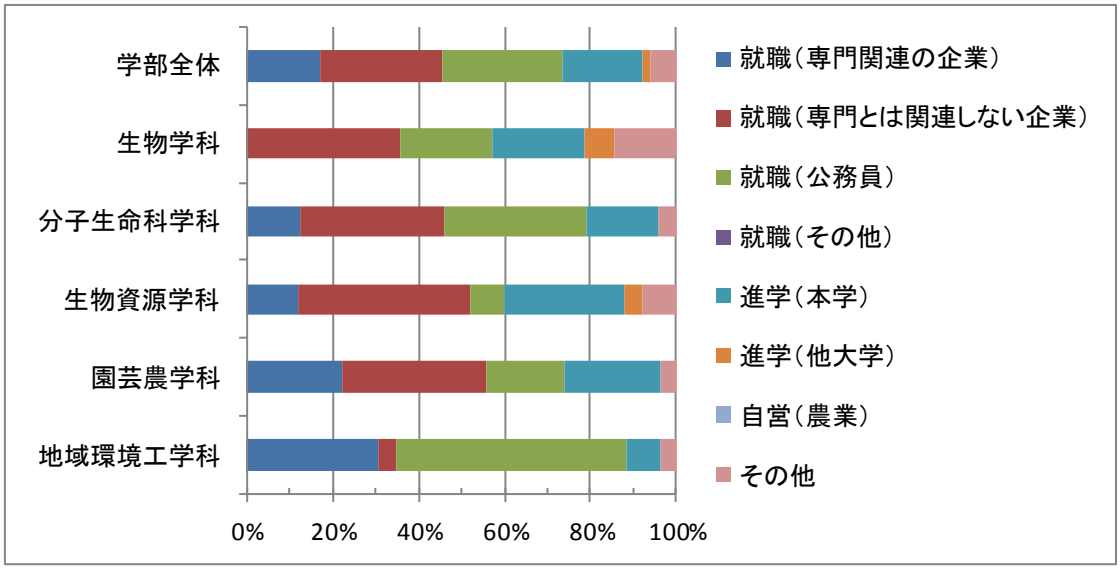
いのはつらいです。実験最終日の次の週に発表なのはつらいです。他の研究室に比べて不平等だと思います
2　主体的に計画，行動，考察ができ，達成感がある
2　やりがいがあったため
2　長期間（およそ 1 年）に渡って，1 つのテーマについて自分で調べるという経験が初めてで，良い経験となった
3　大学入学時に学びたいと思った分野で研究することができなかったため
3　長期間体調を崩してしまい，十分な結果にならなかったから
3　やってみたい事の研究ができたのは良かった。しかし，研究室ごとにやらなければないけない事の量がまちまちのような気がしたから

【園芸農学科】
1　自分のしたい研究をするというのが夢だったから。研究という行いができたことがよかったと思う
1　自分の研究に結果がでたのがうれしかったから
1　自分の向上につながった
1　自分のペースで，できるだけ自分の力で作業をすすめることができ，責任感ややりがいを感じたし，また，その分野について理解を深めることもできた
1　内容にかかわらず，1 つのことをやり遂げること，そしてそのプロセスで様々なことを学んだように思うため
1　農家調査を通して，アポイントメントの取り方を学ぶことができた
1　目的は充分に達成できたと感じるから
1　興味のあるテーマをやらせてもらえたため
1　やっているうちに，どんどん興味が湧いてきて，院でも楽しくできそうなので
1　自分で問題点を探り出し，インタビュー調査や実験を通して，どうしたら解決に向けて取り組みができるかを一貫して考えることができた良い機会となったからです。本題からは，話が外れますが，「卒業研究」の成果をもう少し積極的に行う事も，地域への貢献を考える上では，大切だと思います。園芸農学科食農経済コース，地域環境工学科農山村コースでは特に学生自らが地域の取り組みに参加する中で，研究を進めていくアクティブラーニングの形も多いと思うので，「卒業研究」のレベルだとしても，研究成果の開示ができる環境は重要だと考えています。（現在の学科規定では，卒業研究の内容を学科外の人に知らせることは抵触する）
1　大学生活でもっとも頭を使った。学ぶものが多かった
2　知識が増え，興味を持って取り組めた
2　植物栽培のことだけでなく，成分やＤＮＡなどの分野も学ぶことができ，「ブランド」になるまでの道のりを見ることができたから
2　学生時代の集大成を形にできるため
2　専門的な知識を学ぶことができたほか，働く上で必要な経験も積むことができた
2　より専攻する分野の理解が深まるため
2　色々な作業があって面白いと思ったからです

2　自分で計画をたて，自分で考え，まとめあげるという経験をすることができたから
2　充実した内容で，一年を通して，自らかなり成長できたと思います
3　テーマとしては自身は良かったと思うが，農生に合ったテーマではなかったと思う
3　授業アンケートも含め，成績を確認してからでないと正確な評価は出せないため
3　就活との同時進行に苦戦し，納得のいく研究結果を出せなかった
3　満足のいく結果と自分でも言うことが難しいが，自分なりには精一杯やったため

【地域環境工学科】
1　日本の農業が抱える問題を提起し，卒業研究を通してその解決策を見出すことが大変興味深く，今後役に立つものだと感じた。多方面から物事を考える力が身についたと思う
1　貴重な実験ができたため
1　良い経験をさせてもらったと思う
2　やりたいこと（テーマ）をやることができた
2　大変な作業だったので
2　実用的な研究内容について研究できたから
2　探求心や向上心を養うことができたから
2　卒業研究を行っていれば，将来仕事するうえでも，一連の流れを把握
2　充実した大学生活となりました
2　学生実験とは違い，一から十まで自分や仲間とともに行い，結果がきちんと出てきた所
2　学業的だけでなく精神的に大きく向上できたから
2　自分で考え，行動する力がついたと思うから
2　興味をもっていたことを研究できたから
2　研究がしたくて大学へ進学したため
3　様々な実験ができた。しかし，秋冬になると，建物が古いのもあり，とても寒く，学生側の衣類の調節だけでは限界があるため，大学側としても寒さ対策を行ってほしいから
3　まだ終わってないから，よく分からない
3　良い結果が得られなかったから
3　まだ終わってない
4　実験設備と冷暖房に不満があったから
4　自分が取り組みたい内容ではなく，先生の希望内容になったから
5　指導教員から，研究に関してアドバイスをもらうが，次の週に入ると，先週言っていることと真逆の事を言い始める。卒業研究の試料数を 2 倍の量にするよう言われる。そのことを疑問に思うと，「そういう話になっていた」「おまえは何も話聞いていない」等，叱咤される。「学生にプレッシャーをかけ，学生が青ざめて慌てる所を見るのが楽しい」，学生に対し「おまえはバカだ」と言う。指導教員に対して不満があります。

設問 16. (1) あなたの卒業後の進路は次のどれですか。

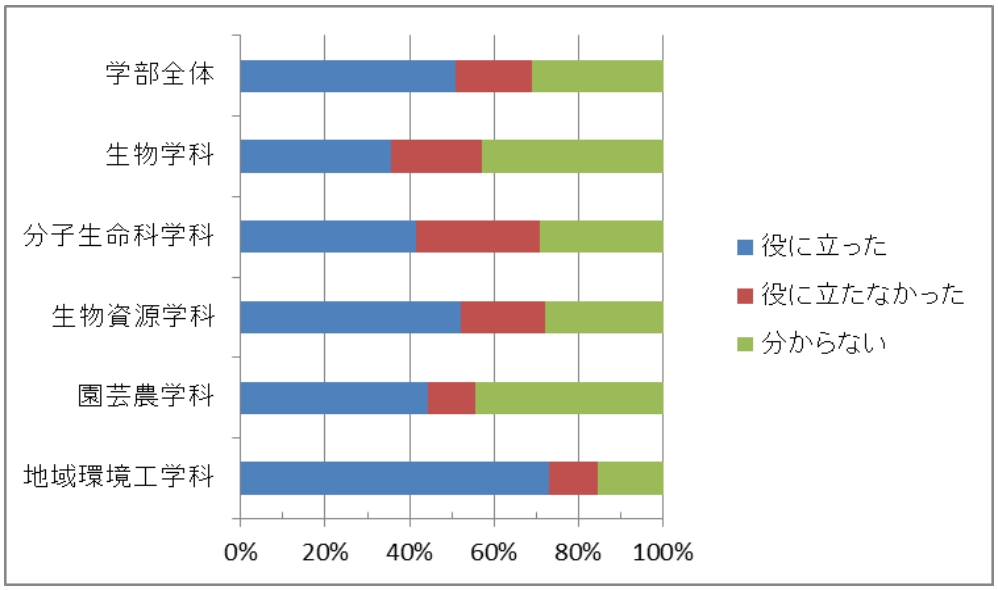


図Ⅰ-16(1). 卒業後の進路

学部全体では就職した者の割合は 73%であった。就職した者の割合は平成 23 年度から 26 年度まで 58%，63%，59%，71%と推移しており本年度は過去５年間で最高であった。一方進学（本学と他大学）した者の割合は平成 23 年度から 26 年度まで 30%，30%，37%，22%と推移してきたが，本年度は 21%で過去５年間で最低となった。他大学への進学者も 2%で，平成 23～26 年度（7～10%）と比較すると激減した。自営（農業）に進んだ者は平成 23～25 年度には１名ずついたが，平成 26 年度と本年度は無かった。

学科単位でみると，就職した者の割合が高いのは地域環境工学科の 88%，分子生命科学科の 79%，園芸農学科の 74%であった。分子生命科学科における就職した者の割合は平成 25 年度約 40%，平成 26 年度約 60%であり，経年的に割合が急増している。特に公務員に就職する者の増加が顕著である。また地域環境工学科でも，本年度は公務員に就職した者が 54%であり，平成 25～26 年度に比べて急増した。一方，進学（本学と他大学）した者の割合が高いのは生物資源学科の 32%と生物学科の 29%であった。両学科で進学（本学と他大学）する割合が比較的高い傾向は，この３年間で変わっていない。

(2) 本学部のカリキュラムで学んだことは，進路の決定にどのように影響しましたか。

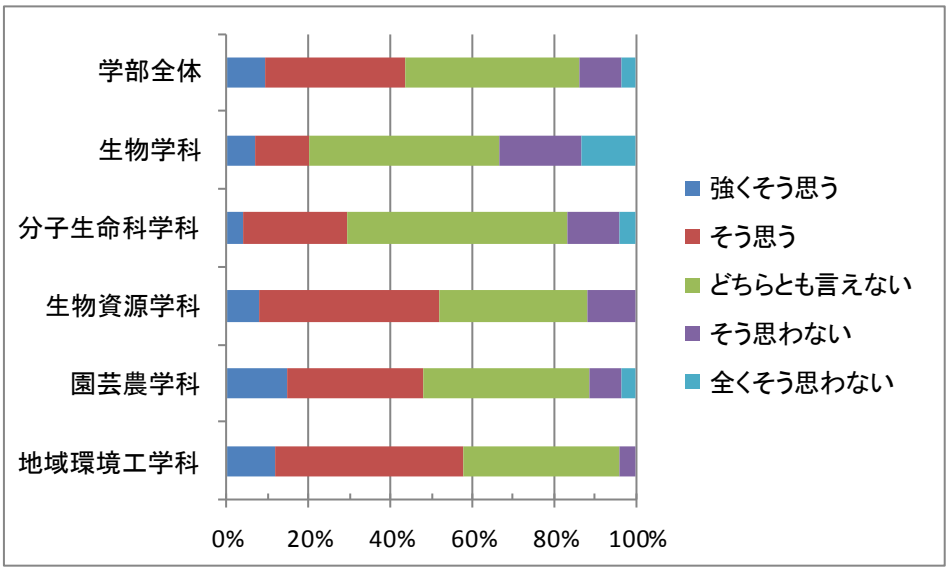


図Ⅰ-16(2)．カリキュラムで学んだことはどのように進路に影響したか

カリキュラムで学んだことはどのように進路に影響したかについて，学部全体では「役に立った」は 51%，「役に立たなかった」は 18%であった。「役に立った」は平成 23～26 年度に 47～61%で推移しており，傾向は変わっていない。

学科単位でみると，「役に立った」割合が最も高いのは地域環境工学科の 73%で，「役に立たなかった」割合が最も高いのは分子生命科学科の 29%であった。これは，専門関連の企業に就職する者の割合が地域環境工学科で最も高く，分子生命科学科で最も低いことと関連している可能性がある。

(3) 本学および本学部の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。



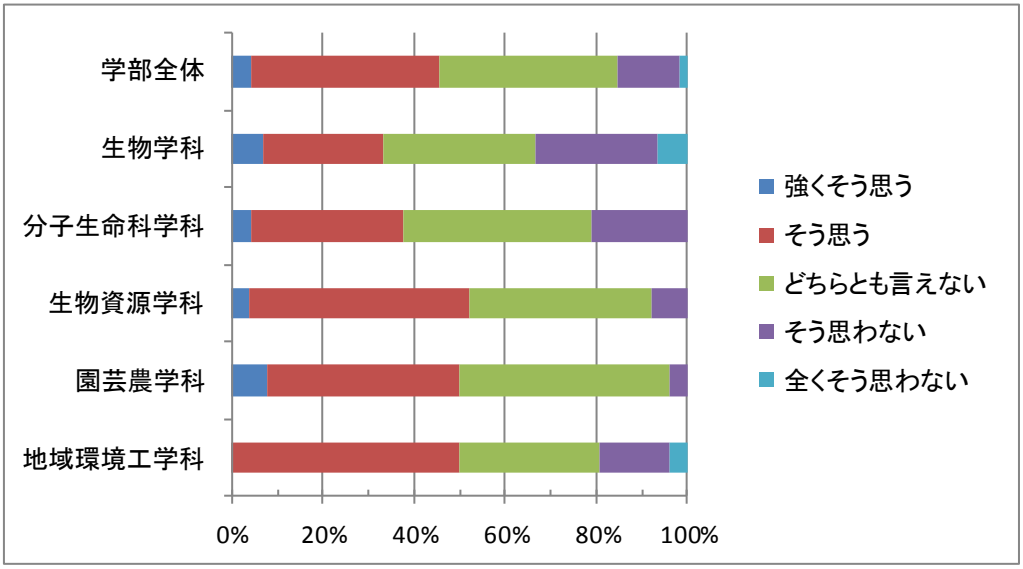
図Ⅰ-16(3)．本学部の進路支援の取り組みは充分か

本学部の進路支援の取り組みは十分だったかに対して，学部全体では「強くそう思う」と「そう思う」の合計は 44%，一方「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計は 14%で，肯定的評価が否定的評価を大きく上回った。肯定的評価の割合は過去５年間で平成 23 年度（45%）に次ぐ高い数値であり，否定的評価の割合は過去５年間で最低であった。希望通り就職できるかどうかは毎年の雇用情勢にも大きく左右される。平成 27 年度は大卒者の就職内定率が全国的に高く，このことがアンケート結果に影響した可能性もある。

学科単位で見ると，生物学科では「強くそう思う」と「そう思う」の合計が 20%で５学科中最低，「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計が 33%で５学科中最高であった。これと対照的に，地域環境工学科は「強くそう思う」と「そう思う」の合計が 58%で 5 学科中最高，「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計が 4%で 5 学科中最低であった。この相違は，進路に関する相談先に関する設問 12（3）で，地域環境工学科ではクラス担任や指導教員など教員に相談した件数が延べ 20 件でアンケート回答者数の 77%に達したのに対して，生物学科では 3 件，20%であったことなど，教員の指導体制が関連しているかもしれない。

[本学部の教育のあり方について]

設問 17.（1）あなたが本学部を卒業するに当たり，大学卒業者に相応の知識や学力を身に付けたと感じていますか（大学卒業者に相応の知識・学力は自分のイメージしたもので結構です）。



図Ｉ-17．大学卒業者としての知識や学力を身に着けたか

大学卒業者としての知識や学力を身に着けたかに対して，学部全体では「強くそう思う」と「そう思う」の合計が 46%で，「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計の 16%を大きく上回っていた。平成 23～26 年度において肯定的評価は 43～49%，否定的評価は 13～19%であり，本年度も同様の数値になっている。

学科単位でみると，「強くそう思う」と「そう思う」の合計が最も高かったのは生物資源学科，最も低かったのは生物学科で，その差は 19 ポイントであった。この学科間のポイント差は最近 5 年間では 2 番目に小さい。肯定的評価に関する学科の順位について，年度を超えた傾向は認められない。

「そう思わない」や「全くそう思わない」理由としては，自身の努力不足，知識や学力不足あるいは社会人基礎力の不足が挙げられている。

⑵ 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない
5. 全くそう思わない

【生物学科】

1　理論的思考力が身についたと感じるため
2　卒業に必要な単位を修得できたし，自分でも相応の知識が身に付いたとおもったので
2　大学院への進学をする上での知識を得られたから
2　生物学一般について広い知識を得ることが出来たし，自分の研究した分野の知識や研究方法の理解もできたから
3　大学卒業者に対応した知識や学力を身につけられなかった部分もあるし，自分の研究分野については，それ以上に勉強したから
3　自分の興味の無い分野も学んでおきたかったから
3　自分の苦手とする分野に関して，対策しきれなかったから
4　単位を得た段階から流出している知識ばかりだったため
4　学力が上がったと実感するほど勉強していないから
4　単位取得後授業内容はほぼ覚えていないから。また専門授業も高校の内容をかぶるものも多かった
4　忘れてしまった知識が多いから
5　基礎科目に一般教養ビジネスマナーや業界研究を必要単位にしていないから

【分子生命科学科】

1　伝える能力や専門知識は，並の人に負ける気がしない
2　専門学などは大学卒業者程の学力が身に付き，簡単なことなら人に教えられるとおもったから
2　大学入学時よりも自分の専門分野についての話がなんとなく理解出来るようになったと感じるため
2　専門は良いが，専門外（文系）の知識は乏しいと感じている
2　高校では学べなかった専門知識を得ることが出来たし，社会人（専門関連企業）になってからも，役立つような知識を身につけられたため
2　人とのつき合い方を学べた
2　自分がイメージしていた程度の学力はついたと思うから
2　研究を通して高校の時に得られなかった知識を得られたし，経験を積むことができた
3　入りづらい（利用しにくい）印象を持っているが，漠然としているので
3　自分の習ったことを生かしてのしゅうしょくではないため，知識を生かす場面がなくイメージできないため
3　覚える内容が多かったため記憶が抜けて喪失感が大きいため（？）

3　わからない
3　大学卒業者に相応する知識というのがわからない
3　社会人としての知識等は不十分と感じている
3　どのくらい入学当初と比べ，知識がついたかが実感しにくいため
3　考えたことがありません
3　知識を得てもそれを利用する術がないので
3　21 世紀教育に関しては様々な分野の学問に触れたり，社会の問題を知ることができて興味の幅が広がった。専門に関しては学部 4 年間だけでは時間が足りないことが多いと思う
4　ちゃんと努力しなかったから
4　実験をする期間が短かったから（生物学科のように研究室配属は早いほうが良いのではないかとおもったから）
4　1 つのことだけ勉強していて，一般的な大学生の思考になっていないから。色々な事を学べば良かった
4　自分の力不足
4　すでに覚えていないことが多々ある

【生物資源学科】
1　自ら学んだから。周りの学生よりも積極的だったから
2　社会に出る前に基礎的なことを学べたと思うから
2　専門的な知識については，深く学ぶことが出来たと思うため
2　基礎教育などは高卒時点よりも深まったとかんじているため
2　就職活動の筆記試験を通過することができたため
2　新たな知識を身につけるための努力や，自分なりの方法が身に付いた
2　専門的な知識を深められたと感じるから
2　自分が学んでいる分野に関するニュースを知ったときに，そのニュースの内容が良く理解できたから
2　教養を学べたから
2　講義を受けていく中で，自然と学習に対する姿勢が上向きになり，みずから図書館等の施設を利用し，学んできたから
2　大学でレポートを書いたり，データをとりまとめることで，文書作成の能力は向上したと思う
2　特に専門分野において，高校では学ぶことの出来ない高度な知識を身につける事ができた
2　文系や他大学，専門学校の友人の知らない知識があるため（雑談などで・・・）
3　高校の時の方が頭使ったような気がするから学力は衰えた。その分，発表とか予習とか研究とかあってスケジュール管理やプレゼンスキルなどの知識はついた
3　他大学の程度がわからないため
3　高校までの知識が抜け落ちたように感じるから
3　社会に出て発揮してから分かるものだと思っている
3　進学にしても，就職にしても英語力は必要になると思いますが，あまり身につけられなかったため。学校側で強制的に TOEIC 試験を行うべきだと思う

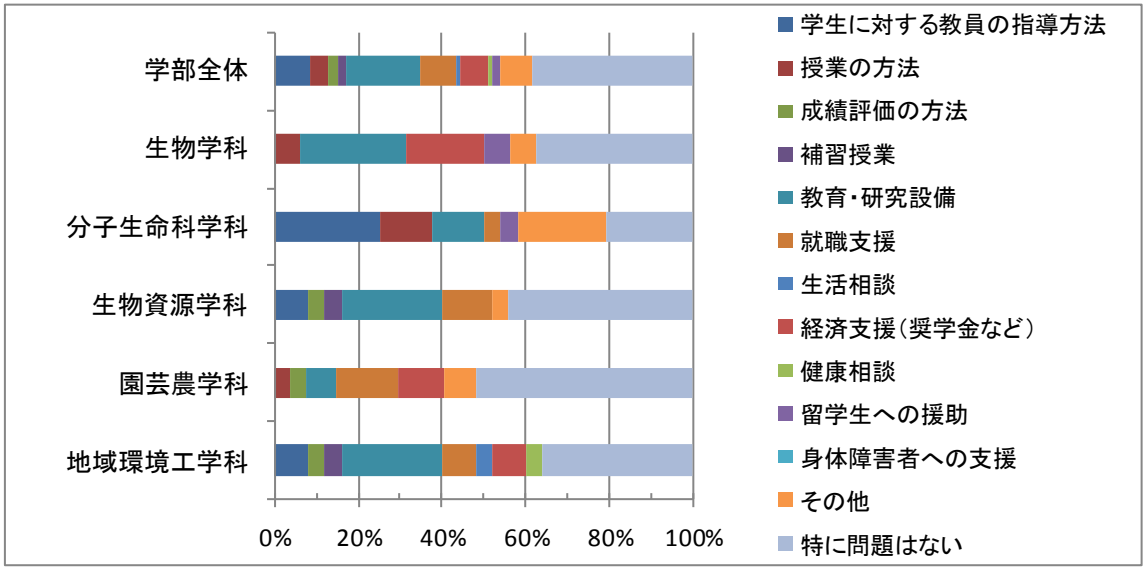
3　本学では様々な分野について学ぶことができたが，どれも試験のために短期間に身につけた知識で，あまり身になっていないようにかんじるが，多くの学生がこのような状況にあると考えると卒業生に相応な知識が身についたとも言えると思ったため
3　学んだ頃は多くの知識を持っていたが，今現在思い出せる知識は，その頃と比べて少ないから
3　専門分野については，深くなったと思うが，研究室配属後は特に一般教養に触れなくなったので，そちらが心配
4　まだ知識量が足りていないと思うため
4　大学で学ぶことにおいて，一般常識を学ぶ機会が少ない

【園芸農学科】
1　社会に出ても，かたちをかえて役立つ力となると思ったから。専門に関わる仕事につく人は，その知識自体も役立つと思うから
2　高校生時の時より，学んだ分野がひろくなったから
2　就活などでも知識を得ることができた
2　農業分野に関しては広く浅く学べたと思うから
2　授業や研究を進める上で，多くの事を学んだから
2　研究室に配属し，自ら研究をするようになってからは身についたと感じる
2　相応の力は身につけたと感じたため
2　実習・実験でしたら，大体の動きは覚えられたので
2　物事を一面的にではなく，多面的に捉えることができるようになったから
2　農業についての広い知識が必要な職場だと考えているので，その多くを学べたと思ったから
2　卒業研究やこれまでの学習を通して，入学時に比べ専門性が身につき，かつ成長できたと思います
3　多方面で学んだことが，どこかでリンクするのに 4 年生になって気がついたから，もっと早くに気がつき，広く学べたらよかったなと思ったから
3　大学で自分が成長できたか，分からない
3　わからないことがたくさんあるから
3　専門的な知識は深まったと感じる反面，その分，偏りが発生したように思える
3　もっと専門の勉強を一生懸命取り組むべきだったと思います。もっと知識を身につけたかったです
3　授業に関して，あまり理解できず，自分のものにできなかった
3　実際に知識等がついたかはわからないが，考え方や広い分野に興味をもつことなどは身についたと感じるため
3　実感がわかない
3　専門の学力は相応していると思うが，それ以外の学力は身についていると思えない
4　向上心を忘れないようにするため

【地域環境工学科】

2　普段の予復習，試験勉強，公務員試験勉強で何度も勉強して，ある程度は身についたと感じるから
2　概ね必要なものを身につけることができたと感じるから
2　知識が役に立つと思う
2　時間があり過ぎたから
2　十分だと感じた
2　専門知識がある程度は頭に入っている状態であるから
2　これまでは知識を身につけるだけで終わっていたが，在学 4 年間の中で，身につけた知識をもとにして考える，伝えるという応用の段階までステップアップできたためそのように感じる
2　世間の農業土木技術者がもっているような知識，例えば水理学のようなものを得たから
2　専門的知識を十分に得られたが，英語は少し不十分なため
2　知識が増えただけではなく，様々な人と関わりをもてたため
2　人生の糧になったと思います
2　知識は身につきました
3　OB，OG の方の話を聞いてそう思った
3　実践的な分野については，専門的に学んだ人を下回ると思ったから
3　どれくらいの知識や学力が適当なのかイメージできないため
3　ぬけている面もあるため
3　忘れてしまったところもあるので，復習が必要だと感じているため
3　大学卒業者と一般に言うと，専門と教養の知識阿あるイメージがあり，自分自身，専門の知識はそこそこ，教養はあまりみにつけられなかったため
3　まわりの人よりは，学力的に劣っているとおもうから
4　大学での勉強内容は，高校までの知識の応用がほとんどで真新しいことを学んだ感覚があまりないので
4　前に学習した部分で忘れている部分があるから
4　覚えたのはテストの時だけだから
5　個人の問題であり責任だから

設問 18.（1）本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を，次の項目の中から一つを選んで下さい。



図Ⅰ-18. 早急に改善すべき点

学部全体でみると，選択肢の中では「特に問題は無い」が 38%で最多であった。平成 23～26 年も「特に問題はない」が最多で 35～42%を占めている。早急に改善すべき点として選択された上位 5 項目は，学部全体でみると「5. 教育・研究設備」（18%），「6. 就職支援」（9%），「1. 学生に対する教員の指導方法」（8%），「8. 経済支援（奨学金など）」（7%），「2. 授業の方法」（5%）であった。平成 26 年度と比較すると，「3. 成績評価の方法」が抜けて「8. 経済支援（奨学金など）」が入ったが，残る 4 項目は平成 26 年度と同一である。平成 23～25 年度も，上記の 5 項目は順位こそ異なるものの，ほとんど上位 5 位以内に入っている。

学科別に見ると，分子生命科学科では「1. 学生に対する教員の指導方法」，「2. 授業の方法」および「3. 成績評価の方法」の合計が 38%にも達する。平成 26 年度は 39%，平成 25 年度も 37%に達しており，3 年連続で 3 人に一人が 最も早急に改善すべき点として指摘している事実を重く受け止め，改善を図らなければならない。なお，平成 26 年度は生物資源学科においても上記 3 項目の合計が 29%に達していたが，今年度は改善されている。

「5. 教育・研究設備」に関する具体的な要望は冷房設備の導入，暖房設備の機能向上，研究室面積の増加に関するものが目立った。そのほかに「トイレを増やした方がいい。講義の間の休み時間で激混みで講義に遅れたことがある」，「インターネットで Nature 等の有料ジャーナルを読めるようにしてほしい」，「自主学習スペースの確保をすべき」，「研究室ごとの机は，全員に平等に分配してほしい」などがあった。

「6. 就職支援」に対しては，他大学や他学部と比較しての本学部の意識や取組の低さ，県外の学生に対する支援の低さを指摘する意見に加えて，「就職支援センターの人員を増やし，面接練習に力を入れて欲しい」，「理系専門の就職支援（セミナーなど）を行ってほしい」，「企業説明会等

の案内をもっと目立つ所に掲載してほしい」,「教職等を目指す人もサポートしてほしい」といった要望があった。

「1.学生に対する教員の指導方法」や「2.授業方法」に対する要望や不満には,「断りのない専門用語や読めない文字での板書による講義を行う教員が数多く見られた。学生の理解を最優先した講義を行ってもらいたい」,「授業をもっと分かりやすくしてほしい。基礎的なところから慎重に学んでいきたい」,「研究室によって厳しさが違いすぎる。卒業論文が無しの研究室がある。就活への考慮が先生によって大きく異なる」,「学生に対して適切な指導をせず文句ばかり言う教員がいる」,「研究室は閉鎖的な空間であり，学生に精神的，身体的不調が出ても外部には分からない。指導教員が王様であるため逆らえず，1 人で苦しい思いをする。学生へのカウンセリング，自殺防止を行い，学生に逃げ道を作ってほしい。うつ病，不登校，自殺等が，学生のせい（自業自得）のように言われるような環境を直して欲しい」などがあった。

「8.経済支援（奨学金など)」については，手続きの簡素化への要望に加え,「親の年収だけで授業料免除が査定されるのはおかしい」,「本当に支援の必要な者とそうでない者をきちんと見極める必要がある」といった，支援対象者の選考に関する不満がよせられた。

(2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

1. 学生に対する教員の指導方法 2. 授業の方法 3. 成績評価の方法 4. 補習授業
5. 教育・研究設備 6. 就職支援 7. 生活相談 8. 経済支援（奨学金など）
9. 健康相談 10. 留学生への援助 11. 身体障害者への支援 12. その他（　　）
13. 特に問題は無い

【生物学科】

2　わからない
5　設問12（2）の通りです
5　クーラー・暖房の完備。ディスカッションが出来るような部屋を増やす
5　節電の影響で施設全体が暗い
5　冷房
8　親の年収だけで授業料免除が査定されるのはおかしい。親がギャンブラーで子供の学費を払わない親だっている
12　所属研究室の決め方。成績順で決めるならそれを入学当初に伝えるべき

【分子生命科学科】

1　教員によって指導の仕方にかなり差があると思うので，できるだけ統一してほしい
1　研究室によって厳しさが違いすぎる。卒業論文が無しの研究室がある。就活への考慮が先生によって大きく異なる
1　教員の熱意の向上
1　中には学生に対して適切な指導をせず文句ばかり言う教員がいたため，一度学生への接し

方について指導していただきたい
1　嫌な先生がいる
2　面白くないから
2　教え方に差がある（熱意・態度等）
5　トイレを増やした方がいい。講義の間の休み時間で激混みで講義に遅れたことがある
5　クーラーをつけて下さい
5　インターネットでNature等の有料ジャーナルを読めるようにしてほしい
6　就職支援センターの人員を増やし，面接練習に力を入れて欲しい。より多くの人が練習に参加できるようにしてほしい
10　留学したくても，奨学金をかりてる人は，金銭的にできない
12　教員免許を取得するにあたり，各学部間で連携が上手く取れていないように感じる
12　教授，先輩，卒業生を交えた進路相談会があってほしい
12　研究室への所属時期を早めて欲しい
12　毎年のように研究室配属でもめることを考えると，入学時より成績で割り振られることを明示するべきだと思う。また，指導教員との面接を行うべきだとと思う
12　大学生活全般に関わる悩みを相談できる場を用意&周知してほしい

【生物資源学科】
1　「教える」ということが苦手すぎる教員がいる
1　恐らく，講義を受けているほとんどの学生が理解できないのではと思うような，断りのない専門用語や読めない文字での板書による講義を行う教員が数多く見られたため，学生の理解を最優先した講義を行ってもらいたい
3　模範解答のないテストを行う授業の場合は，基準を明確に表すもおんが必要だと思う
4　補習授業があるのはいいのですが，5：30以降に授業を組むのはどうかと思います
5　農生を建てかえましょう
5　受講することの出来る講義について，4年生からしか受講出来ない講義がたくさんあると，就活する学生はかなりツライので，カリキュラムを少し変えるとよいかもしれないと思います
5　夏の冷房や冬の暖房，ネット環境の整備
5　増築，各研究室の部屋の広さの増加，暖房
5　研究設備（GRCなど）をもう少しきれいにしてほしい
5　生徒の自主学習スペースの確保をすべきと考えます
6　あまり印象に残っていないから
6　理系専門の就職支援（セミナーなど）を行ってほしい。
6　できれば一室設けて，セミナーのポスターとか情報誌など（新聞とか），置いてもらえたらうれしかったです
12　私は寮生なのですが，やはり寮費が値上がりしたことはとても苦しいです。この場で言うことではありませんが，無理を承知でもう一度考えていただきたいです

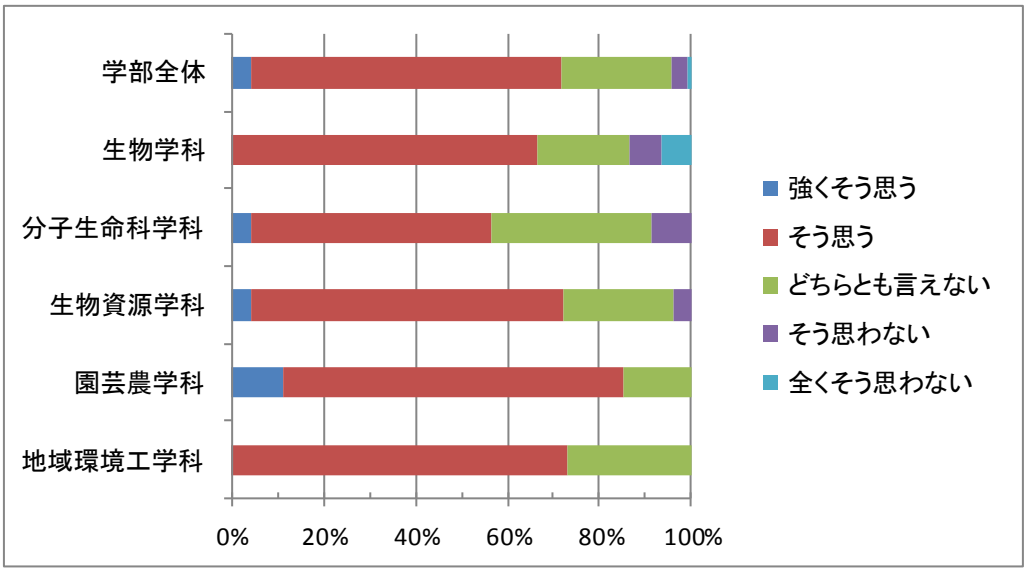
【園芸農学科】

2　もっと分かりやすくしてほしい。基礎的なところから慎重に学んでいきたい
3　上記の項目③は，先生の所属の学科によって，「落とす」前提で話を進める人がいるのを改善して欲しい
5　研究室ごとの机は，全員に平等に分配してほしいです
5　昼食時の混雑
6　他大学の就職支援はもっと手厚いから
6　都会の大学に比べ，就活に対する意識が薄いように感じるから
6　専門企業についての情報をもっと公開して欲しかったです
6　就職支援に対してあまり熱心に感じられなかった。他の学部より就活のスタートが遅いように感じた
8　返済しなくていいタイプの奨学金をうけとれる指定校からほとんどはずれているので，給付型奨学金をもっと増やして欲しいとおもいました
8　学びの裾野を拡げることが大学には求められていると思います。そのためにも，経済・教育格差是正しなければ
8　実験で使用するものなど高い
12　教職取得希望者への対応
12　学生を修士や博士として育成している教員，赴任直後や若手の教員が，他の教職員や外部のカウンセラーなどに相談できる（しやすい）体制の整備（農生に限らない問題ですが･･･）を要望します。残念ながら，この学年で本学の研究科に合格し，修士課程の入学が決まっていた人が突然辞退をするというケースが本学部で出ています。周辺の情報を総合すると，指導教員がその学生に過度な期待をして，大きなプレッシャーを感じたことも辞退の一因ではないかと考えています。指導教員は若手であり，その学生を片腕として育てていて，早く研究成果を出さなくてはという焦りを1人で抱え込んでしまったことが，大きなプレッシャーを学生に与えてしまうことになったのではと思っています。このようなケースをなくすためにも，一早し対応を望みます

【地域環境工学科】
1　「居残り禁止」などと言い，学生に無理をさせていないように外へアピールすることはできる。しかし，「早く大学から出て家で作業をしてろ」などと言われ，研究に支配されている。研究室は閉鎖的な空間であり，学生に精神的，身体的体調が出ても外部には分からない。指導教員が王様でるため逆らえず，1人で苦しい思いをする。学生へのカウンセリング，自殺防止を行い，学生に逃げ道を作ってほしい。うつ病，不登校，自殺等が，学生のせい（自業自得）のように言われるような環境を直して欲しい
3　科目によって評価に差があったり，授業の教え方も先生によって大きく異なる場合があるため改善してほしい
3　基準がシラバスと違うのではないかと思う教科があったため
5　実験室の寒さ対策（外にあって秋冬はかなり寒い），暖房や建物自体の断熱性。学生控え室のWi-Fi環境の向上
5　設備を充実させてほしい。冷暖房の使用出来る時間をのばしてほしい
5　実験が大変だった

5　より実験や研究を深くでき，大学内外とわず成果を還元できるので
5　冷房
6　県外の学生への就職支援が少ない（県外の情報が入ってこない）ことが不満だった
6　企業説明会等の案内をもっと目立つ所に掲載した方が良いと思う
6　本学部に入ったからには専門関連の就職をするのが良いと思うが，やりたいことは人それぞれであるため，専門関連以外（教職等）で就職したいと言っている人もサポート（配慮）するべきだと思う
7　雪が降ったときなど学校の対応（電車の遅延など）
8　より簡易的な手続き
8　本当に支援の必要な者とそうでない者をきちんと見極める必要がある
9　学生生活の中で，あまり健康のことを気にしなかったから

設問 19.（1）総合的に判断して，本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。



図Ⅰ-19．本学部・学科の取り組みに満足か

本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますかという設問に対して，学部全体では「強くそう思う」と「そう思う」の合計が73%で，「そう思わない」と「全くそう思わない」は計5名で4%に過ぎなかった。 平成23～26年度において肯定的評価は62～79%，否定的評価は2～8%で推移しており，本年度も変化はなかった。

学科別にみると，肯定的評価の割合が最も高いのは園芸農学科，最も低いのは分子生命科学科であり，その差は28ポイントであった。肯定的評価に対する学科間の順位は年次によって異なり，一定の傾向は認められない。

(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない

【生物学科】

2　3年生から研究室に配属されるため，より専門的な知識やスキルが得られたから
2　4年間特に不自由に思うことはなかったので満足した
2　自分の勉強不足が悔やまれるため。他学科の授業を受けて自分の学科の理解が深まることが多く，横断的な取組みがあるともっと良いと感じたため
2　住めば都
2　大学で学ぶべきことは学ぶことが出来たと考えているし，目標としていた進路に進むことができたから
2　取り組みや姿勢はよいが，学生の意見も取り入れるべきだ
2　何について学んでほしいのか分かりやすく考えるようにしていたことや，終盤でその講義に関してアンケート調査をして改善に向けた取り組みが良いとおもったから
3　評価方法や採点基準，研究に関してが，教採によって異なりすぎる
4　学生に対する情報の伝達方法をもう少し工夫した方がよいから
5　PR活動がゴミ。Whyヒロダイ～云々とかセンスが全くない。札幌の駅広告とかもっと違うところにお金をかければ？

【分子生命科学科】

1　弘前大学が好きだから
2　自身が学んだことから，この大学に入学して本当に良かったとおもいます。卒業研究でも自身が動いて研究しているという感覚が味わえ，自主的に行動できるようになりました。それは，この学部の教育方針，研究に対する取り組み，姿勢が合ったからだとおもいます
2　指示されたカリキュラムをこなせば，基礎的な知識から専門的な知識まで一通り身につけることができたから
2　卒業させていただけるのはありがたいことだと思っています
2　地域活性化に向けた取り組みが多いと感じたため
2　4年間楽しかったので満足
2　研究室での実験がとても充実していたため
2　どの研究室も研究による成果をだしているから
2　自分のためには確実になったと感じている
2　特に不満に思うことがないため
3　大学に進学した目的がはっきりしている人は，やる気があり，支援がなくても十分に意欲的な活動をするが，目的がはっきりしていなくて「とりあえず大学に行っておこう」という人が大多数である。なので，うるさいと思われるくらい支援など積極的にしていかないと今の学生は活動しないと思う
3　教育・研究の取り組みや姿勢は，各教員によって様々であり，それぞれ取り組み方が異なっていると感じるので，一概に満足しているとは言えない
3　取組・姿勢が感じられないため
3　自分の研究に対しても，他人の研究に対して明確な基準がなく判断することができないから
3　良い部分悪い部分含めて弘前大の良いところ

3　様々な問題で進級・卒業出来なくなってしまう学生が多い
4　学生とともに学生の将来を考える機会がもっと多くあってほしい
－　教育目標を達成するための指導がしっかりされているとおもったから

【生物資源学科】
1　大学側の取り組み，姿勢が自分にとって良い経験になったから
2　他とは比べられないが，自分としては十分満足していた
2　成長した気がするため
2　農学生命科学部に入学して良かったと思っているから
2　特に大きな問題・不満もありませんでした
2　特に不満がないため
2　この4年間は学業面で成長させてくれました。非常に大きい4年間でした
2　たくさんのことを学べたから
2　研究室の教員が積極的に相談に応じてくれるから
2　高度な専門教育によって探究する力や，主体性を培うことができた
2　不足は感じなかったから
2　学べる事が多かったから
2　思う存分実験ができたから
2　あまり不満に思ったことがないため
3　熱意はあると感じるのですが，姿勢があまり良いとは思いません。より良く発展していってほしいです
3　もう少し専門科目や学生実験を早いタイミングではじめても良いのかなと思います。私は，本学の大学院に進むので，学部4年の時点で大学院の授業をとれる制度はとても助かります
3　英語力を身につけるためにできることをやってほしいと思うから
3　上記のように，良い点も悪い点も講義ごと教員ごとでそれぞれなため
3　もう少し学生からの要望に答えてほしい
4　スケールが小さい

【園芸農学科】
1　途中入学の自分でも快適に学生生活を送れたので
2　4年間大きな不満はなかったです
2　青森ならではの農業についても学ぶことができ，面白かった
2　研究室・ゼミ配属までは専門的知識はあまり身につかないように感じた
2　この学部学科に進学して後悔してないので，そう思いました
2　様々な分野の授業を受けることができるため
2　様々な面で努力されているから
2　大学への交付金が毎年１割ずつ削減されるなど，年々大学全体の運営は厳しくなっているにもかかわらず，細かい点を除けば支障なく4年間大学で活動できたため，大変感謝しています
2　どの学科でも農業分野を幅広く学べるから

2　農と食について，広い分野にわたって学ぶことができ，とても良かったです
2　弘前大学農学生命科学部に来なければここまでリンゴについて詳しくなることは出来なかったでしょう
2　勉強は楽しかったから
2　学びたいと思っていた内容を学ぶことができた。また，単位の都合上，履修した科目も勉強して知識が深まった。これから海外研修等の科目が追加され，より自身のスキルを高められる学科になっていくと思う
2　理念通りの学習ができたと思う
3　授業をあまりものにできなかった
3　本当に自分がやってみたいと思ったことができなかったから

【地域環境工学科】
2　4年間通じて大きな支障もなく充実した生活が送れたから
2　感謝しています
2　基礎と応用を教えるだけでなく，さらにその上の知識を得るための足場も得られたから
2　教員の指導に工夫
2　この学科で学べて良かったと思っているから
2　この学科に来て，講義を受けたりしたことにより，自分のやりたいことが見つかったため
2　この場所でやりたいことを見つけ，やりたいことをやれたから
2　これまで特に不満がないから
2　先生方がいつも丁寧に接してくれるから
2　大変困ることなく大学生活を送ることができたから
2　不満に思うことがなかったため
2　ほどよく忙しく充実していました
2　理論的なことを教えていただくことに関しては大変満足しているが，私の学科に関しては，もっと環境のことに焦点を当てた講義・教育をしていった方が，将来より役に立つと感じる。理論ではこう言っているのに現状は～・・と思うことが多々ある
2　教授の指導のもと，自由に研究を行えた上，将来働く上で役立つ様々な事を学べたので，満足している。自分の学びたいことを自由に学ぶことができた
3　気にしたことが無かった
3　設備には不満であったが，教育研究に対する取り組みは概ね満足したから
3　他の研究室より早い時期から実験を始めて，大変な時もあったが，やりがいがあった
3　良くも悪くも強い印象がない

Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート

１．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学研究科の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，2 年間本研究科で教育を受け今まさに修了しようとしている学生を対象に，研究科における教育について総合的な評価を得ることを目的とした。

調査方法：教員をとおして研究室所属の研究科学生にアンケート用紙を配布し，無記名方式で行った。

調査対象：平成 28 年 3 月研究科修了予定者 47 名

調査期間：平成 28 年 1 月 18 日～1 月 29 日

有効回答者数：31 名

調査項目：設問は以下のとおりである。（ただし，下記の[　]の項目名は，回答結果の分析にあたってグループ化のために設けたものである。）

設問 1．あなたの所属コースをお答えください。

[研究科・コースの教育目標等の認識]

設問 2．本研究科の教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3．あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが，概要および入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

(1) 概要について

(2) 入学者受け入れ方針について

設問 4．(1) あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが，コースのカリキュラムはその目標に合致していると思いますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[コースの教育について]

設問 5．シラバスは受講する科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

設問 6．(1) あなたが所属するコースで受けた教育（講義・演習など）について満足していますか（修士研究については設問 15 で別に聞きます）。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 7．本研究科では年度初めに指導教員がガイダンスを行っていますが，その内容は適切であったと思いますか。

[教員の指導について]

設問 8．(1) 所属するコースの教員の学生への指導や対応に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 9．大学院で履修した科目の成績評価についてお尋ねします。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

(2) 疑問や異議があったとき，あなたは実際にどこに相談し，その対応に満足しましたか。具体的に記入して下さい。

［学生の主体的学習について］

設問 10.（1）講義や演習の受講に当たり，その講義の受講期間中にあなたは講義室での受講時間の何倍程度の時間を，講義室外での学習（予習や復習など）に当てましたか。大学設置基準に，「1 単位は 45 時間の学習を必要とする内容」と規定されています。2 単位の科目の場合，90 時間の学習が必要な計算になりますが，講義室では 30 時間（90 分を 2 時間として扱い×15 回＝30 時間）の学習時間しかありません。そこで，講義室外での学習が必要になります（講義室での 2 倍の時間）。学習時間にはインターネットを利用した情報収集，講義や演習でのプレゼン準備やレポートの作成，研究室内でのプレゼン準備などに要した時間も含めても構いません。ある 1 科目を想定して回答しても構いません。

（2）学術特別研究（学術研究プログラム），実践特別研究（実践研究プログラム）あるいは課題研究（社会人入学者）に要した時間は 1 日平均どの程度ですか。実験に要した時間に加え，研究に必要な文献調査や文献講読に要した時間も含めて計算して下さい。

設問 11. 大学院教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。

(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

(2) 大学院在学中のカリキュラムで，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

［学生への教育支援，施設・設備について］

設問 12.（1）本研究科や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，以下のようなルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。（　）内に番号を記入して下さい。

(1) 学業（　　）　(2) 学生生活（　　）　(3) 進路（　　）

(2) それぞれの対応に関して改善すべき点があれば以下に簡潔に記入して下さい。

設問 13. 本学部図書閲覧室の利用について質問します。

(1) あなたは在学期間を通して，平均どのくらい利用しましたか。

(2) 以下の項目について，どのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

設問 14. 本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。

(1) 下表の該当する欄に○を書き込んで下さい。

(2) 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

［修士研究について］

設問 15.（1）修士研究について満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 16.（1）研究科修了後のあなたの進路は次のうちのどれですか。

(2) 本研究科のカリキュラムで学んだことは，進路の決定にどのように影響しましたか。

(3) 本学および本研究科の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

［本研究科の教育のあり方について］

設問 17.（1）あなたが本研究科を修了するに当たり，大学院修了者に相応の知識および学力を身に付けたと感じていますか。

（2）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 18.（1）本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を，次の項目の中から一つを選んで下さい。

（2）上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

設問 19. 本研究科で学生が期待する教育を受けるとともに充実した学生生活を送るために，希望する点や，大学または学部が改善すべき点があれば具体的に記入して下さい。

設問 20.（1）総合的に判断して本研究科・コースの教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

（2）上記のように回答した理由を記入して下さい。

２．調査結果

設問 1. あなたの所属コースをお答え下さい。

表Ⅱ-1. コース別アンケート回答率

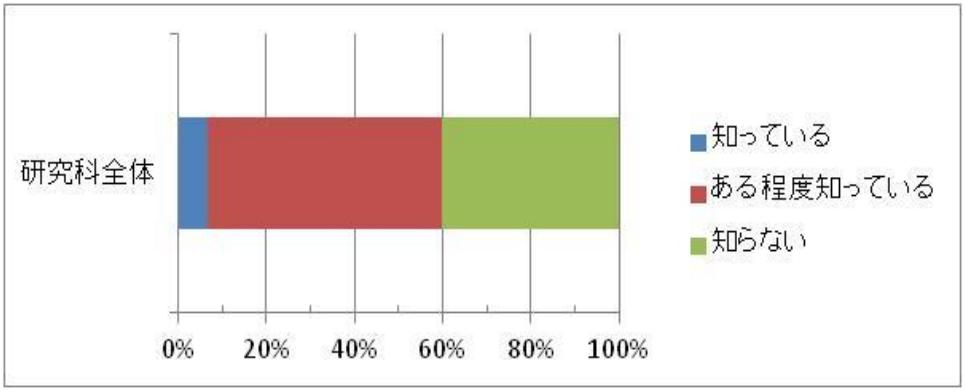
コース	対象者人数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
研究科合計	47	31	66
生物学コース	22	12	55
分子生命科学コース	11	10	91
生物資源学コース	8	6	75
園芸農学コース	6	3	50
地域環境工学コース	0	0	―

研究科全体の回答率は平均で 66%で，25 年度(76%)，26 年度（78%）と比べ明らかに低かった。最も回答率が高かったのは，分子生命科学コースで 91%であった。最も回答率が低かったのは，園芸農学コースで 50%であった。アンケートの目的を果たすためには，回答率を上げる努力が必要である。

回答者数が少ないため，以降の集計は研究科全体で行った。

［研究科・コースの教育目標等の認識について］

設問 2. 本研究科の教育目的および教育目標を知っていますか。



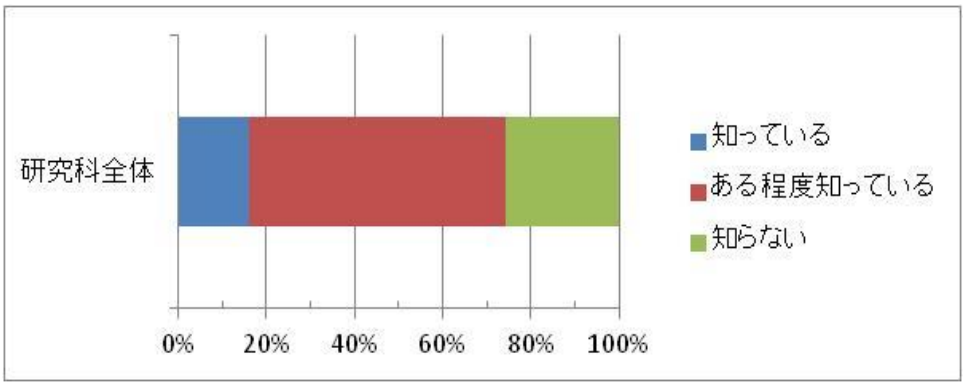
図Ⅱ-2. 本研究科の教育目的等の認識

「知っている」および「ある程度知っている」が，25 年度(76%)，26 年度(71%)から明らかに減少し，60%であった。

教育目的および教育目標の周知を図る努力が必要である。

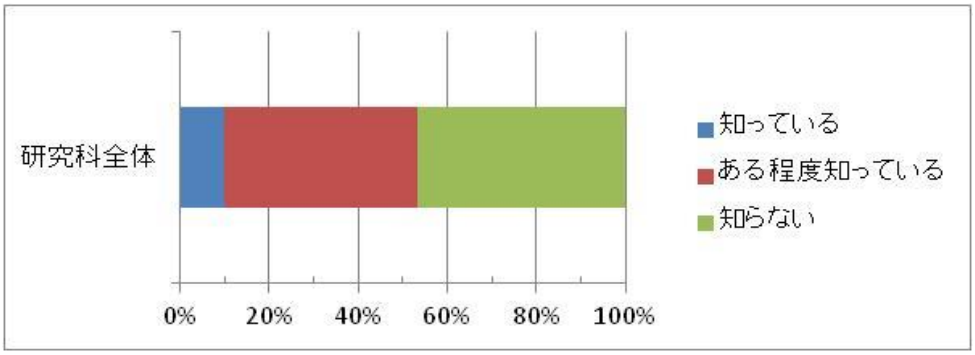
設問 3. あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが，コースの概要および入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

(1) 概要について



図Ⅱ-3(1). 所属コースの概要の認識

(2) 入学者受け入れ方針について

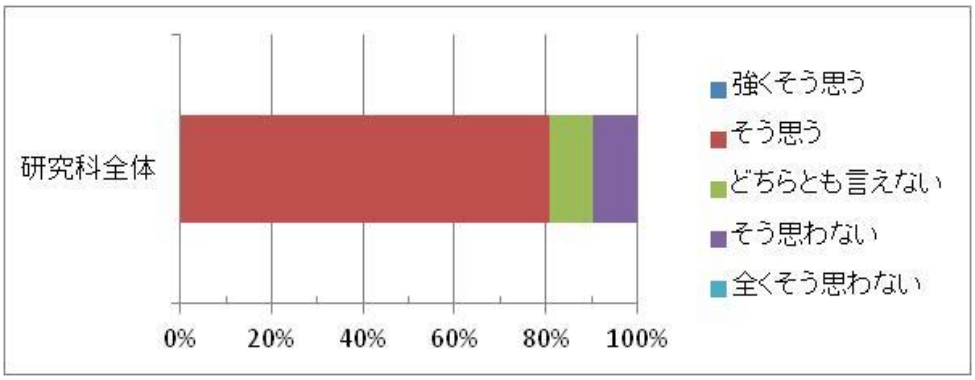


図Ⅱ-3(2). 受け入れ方針

概要については，「知っている」および「ある程度知っている」が 74%を占め)，25 年度(68%)，26 年度(76%)とほぼ同程度であったが，入学者受入れ方針については 53%と，25 年度(63%)，26 年度(69%)より大きく減少した。

大学院入試説明会等において，丁寧に説明する必要があると思われる。

設問 4. (1) あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが，コースのカリキュラムはその目標に合致していると思いますか。



図Ⅱ-4. 概要とカリキュラムの合致度

「目標に合致しているか」の問いに対し，「そう思う」は 80%で，25 年度(61%)，26 年度(56%)に比較して大きく改善している。大学院入試説明会等における説明の効果が顕著に現れたと思われる。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

[生物学コース]

2　生物多様性について研究したから。

2　教育研究の目的は達成できていると思うが，研究者や技術者の育成にはやや不十分だと感じた。

2　実際に受けていてそう感じたため。

2　生物学コースの中にもさらに分野が分かれているが，自分の学びたかった分野もちゃんとカリキュラムに入っていたので，自分の目標に合致していた。

2　専門技術を学ぶことができたから。

3　大学院に講義は必要ないという考えをもっているので，2 年間ガッツリ研究して足りない部分・知見を広げたい部分があったら，自分で勉強するか，個人的に教授に聞くなりすればいいのでは？

4　専門的な技術を学ぶことのできる実習を増やしてほしい。

[分子生命科学コース]

2　専門科目（選択）は，ある程度合致していたように思う。

2　幅広く学べるから。

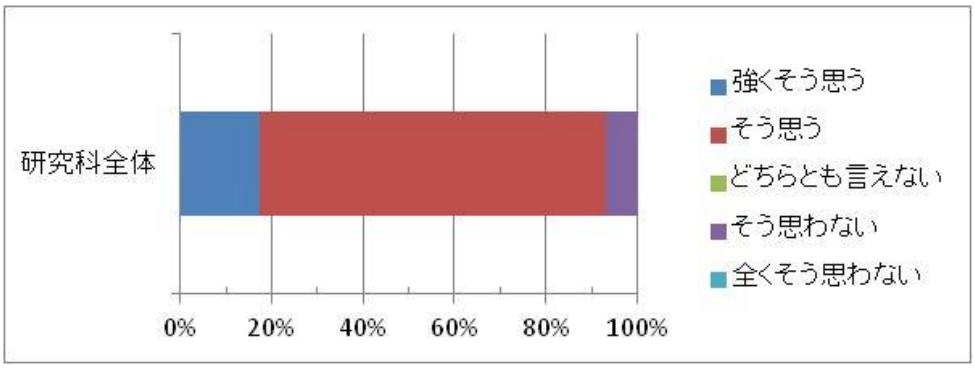
4　国際的視野のもと活躍できる研究者および博士課程に進学する人材の育成に関して，具体的な行動が見られないから。
4　博士課程へ進学するには不十分だと思う。

［生物資源学コース］
2　食品の知識や，育種，土壌，害虫や植物病理など，食料配給に関わる事を幅広く学べたため。
2　今まで学んできた分野と一致するから。
2　概要中に書かれている研究を行え，研究室が網羅的に配備されていると思う。

［園芸農学コース］
2　今まで知らなかったこと，知りたかったことを知ることができたから。
2　農業生産領域および経済流通領域の知識を踏まえ，生産現場に直結した研究ができるから。
2　専門分野の知識を習得できたから。

［コースの教育について］

設問 5. シラバスは受講する科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

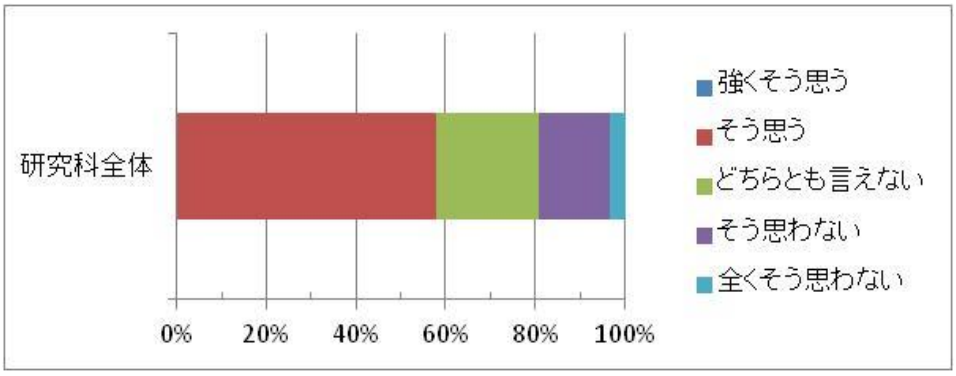


図Ⅱ-5. シラバスの有用性

「強くそう思う」と「そう思う」の合計が 93%で，25 年度(76%)，26 年度(86%)に続いて年々増加している。

教員の努力によって，シラバスの内容と講義の内容の乖離が是正されてきた結果であると考えられる。

設問 6. (1) あなたが所属するコースで受けた教育（講義・演習など）について満足していますか（修士研究については設問 15 で別に聞きます）。



図Ⅱ-6. 所属コースの教育に満足か

「強くそう思う」および「そう思う」の合計は58%で，25年度(36%)と比較すると大きく改善しているが，26 年度(61%)との比較ではほぼ横ばいであった。「そう思わない」および「全くそう思わない」は19%で，25年度(14%)，26年度(7%)より高かった。

講義・演習については，少数意見も取り入れた教育の改善が必要と思われる。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

[生物学コース]

2　プレゼンや論文発表など実践的な講義が多かったこと。就活に関与するプログラムや講義を増やして欲しかった。

2　学部生の講義と異なりディスカッションが多く取り入れられていたから。

2　講義の中で，普段自分が読まない論文も読むことができ，その点について満足している。

2　特に不満がないため。

3　問 4 (2) に同じ： 大学院に講義は必要ないという考えを持っているので，2 年間ガッツリ研究して足りない部分・知見を広げたい部分があったら，自分で勉強するか，個人的に教授に聞くなりすればいいのでは？

4　必要のない講義をとらなければならなかった。

4　専門的な技術を学ぶことのできる実習が少なすぎる。また，少ないにも関わらず，日程のかぶりによって片方しか受講できない事態に陥ったこともあり，後輩のためにも改善を求めたい。

4　もっと他のコースの講義を受けられるようにしてほしいと感じたから。

[分子生命科学コース]

2　特に問題なかったと思う。

2　自分の研究をする上で足りない部分を補えたから。

3　専門科目と副コース科目が同じ時間に開講されており，選択の幅が狭くなってしまったことは残念。

3　満足する授業もあったが，授業の目的が不明なものもあったから。

3　プレゼンテーション演習Ⅰは不必要。

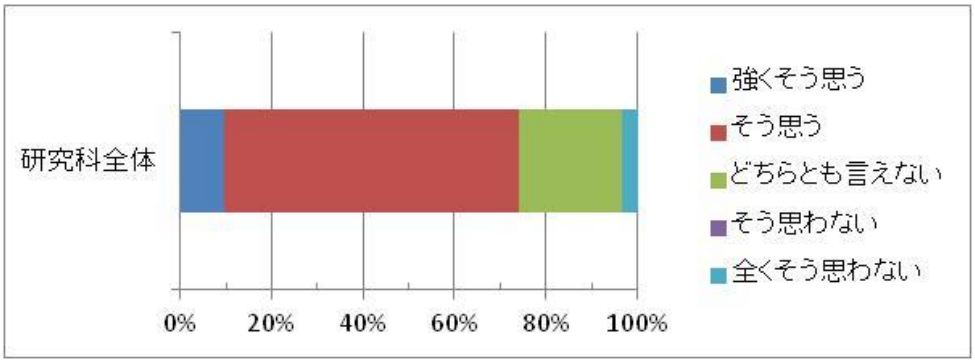
3　研究室に配属になってから改めて勉強し直してから，やっと本当の意味で講義内容が理解できたから。
4　プレゼンテーション演習Ⅰは必修の価値なし。

［生物資源学コース］
2　自分の興味のある事柄を，受動的にではなく，能動的に学ぶ事ができた。
2　自分が知り得なかったことについて学ぶことができたから。
3　発表形式の講義が多く，自分の力にもなると思うが，新しい事を聞いて学べる学部時の（ような）講義ももう少しあってもいいと思った。
5　不要な講義を受けなくてはならず，その準備等により研究の時間が減少したため。

［園芸農学コース］
2　授業で勉強できたことがいっぱいあった。
2　専門知識だけでなく，幅広い分野の知識を得ることができたから。
2　様々な分野の知識が得られたから。

肯定的な意見では，「広範囲な分野からの知識が得られた」等の理由が挙げられており，一定の教育効果があったと考えられるが，他方では「必要がない講義がある」「同時期の開講だったため，選択できない講義があった」等の不満が散見された。「プレゼンテーション演習Ⅰ」等の講義内容や開講時期等の検討が求められる。

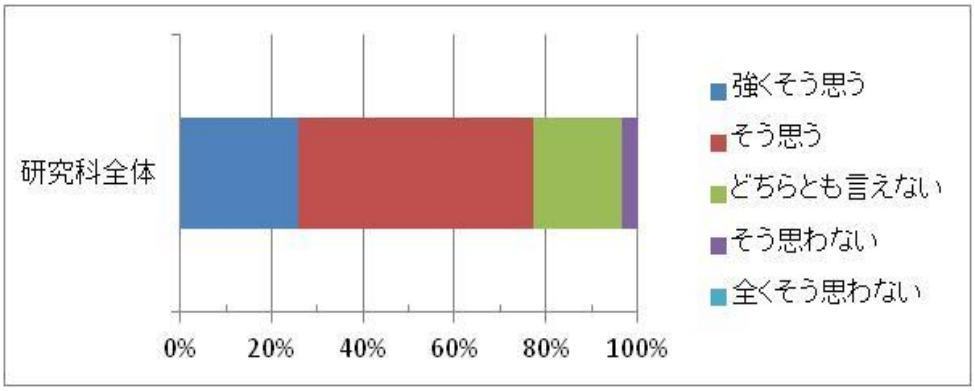
設問 7．本研究科では年度初めに指導教員がガイダンスを行っていますが，その内容は適切であったと思いますか。



図Ⅱ-7．ガイダンスは適切だったか

「強くそう思う」と「そう思う」の合計は 74%で，25 年度(74%)，26 年度(64%)とほぼ同水準であったが，「全くそう思わない」が 3%で，25 年度(4%)，26 年度(7%)より減少しているので，ガイダンスは概ね適切に行われたと思われる。

［教員の指導について］
設問 8．(1) 所属するコースの教員の学生への指導や対応に満足していますか。



図Ⅱ-8. 教員の指導や対応に満足か

「強くそう思う」「そう思う」の合計は77%で，25年度(93%)より低く，26年度（79%）とほぼ同じ水準にあった。

大学院生への指導や対応は概ね適切だったと思われるが，「どちらとも言えない」が 25 年度(3%)，26年度(14%)から19%に増加しているため，改善の余地があると考えられる。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

[生物学コース]

1　研究の相談等に対し適切な指導をして頂けるため。
1　多くのことを教えて頂いた。
2　丁寧に指導していただくことが多かった。
2　多数の指導を頂いた。
2　質問や普段接した際に丁寧に対応してくださっていると感じているため。
2　分からない部分は，丁寧に教えて頂けるので，満足している。
3　教員が雑務に追われていて，研究にもっと時間を割いて欲しいと思ったことが何度とあったので。
3　9割満足だが，実習の日程かぶりの際に，一部の教員にとられた対応が不満だったため。
4　特定のゼミの生徒への指導に偏っている。

[分子生命科学コース]

1　一人ではここまで到達できなかったと思うから。
1　研究する上で，必要な知識だけでなく，考え方や社会に出てからのことを教えてくれた指導をしてくれたから。
3　ある程度は，良かったです。時々，言うことが変わったり，何かをぐちぐち言われたりすることが少々。

[生物資源学コース]

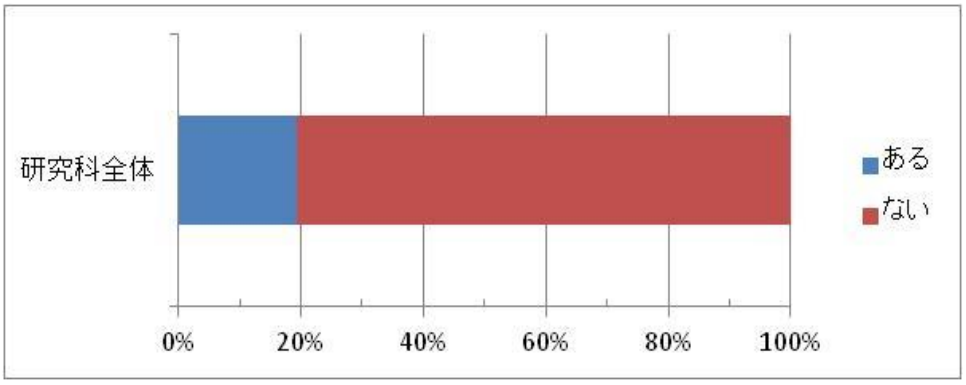
1　先生に多くの迷惑をかけてしまったが，助けられてきたから。
2　指導すべきところでは，しっかり指導して頂けたと思います。
2　学生が自分で学べるよう，工夫して教えて頂いたから。
2　所属する研究室以外の先生からも研究に対する意見が頂けました。

［園芸農学コース］
1　先生達がよく教えてくれた。
1　丁寧な指導をして下さったため。
1　丁寧に教えて頂けた。

概ね「丁寧で配慮ある指導を受けることができた」という回答であったが，一部に対応に難があったとの意見が見受けられた。

また，教員が雑務に追われ，大学院生の指導に充てる時間が少ないとの指摘もあり，改善が望まれる。

設問 9．大学院で履修した科目の成績評価についてお尋ねします。
(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。



図Ⅱ-9．成績評価に対する疑義

「成績評価の結果に疑問や異議を持ったことがある」が 19%で，25 年度の 0%より高かったが，26 年度の 19%と同程度であった。

大学院生にとって重要な項目であるため改善が望まれる。

(2) 疑問や異議があったとき，あなたは実際にどこに相談し，その対応に満足しましたか。

［生物学コース］
記述なし

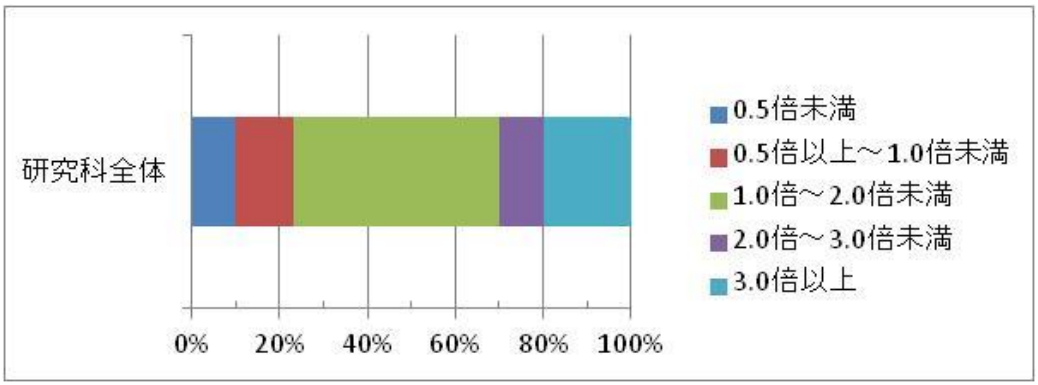
［分子生命科学コース］
1　相談していない。
1　専門以外の学外の講師（そのために相談しなかった）による講義の評価に不服。

［生物資源学コース］
1　結果に対する不満は持ったが，それに対して特に行動はしていない。

［園芸農学コース］
1　相談できなかった（プレゼンテーション演習Ⅰの授業で，外部講師だったため）。

疑問や異議があったときに実際に相談等の行動をした大学院生はいなかった。相談等がし易い環境を整備することが望ましいと思われる。

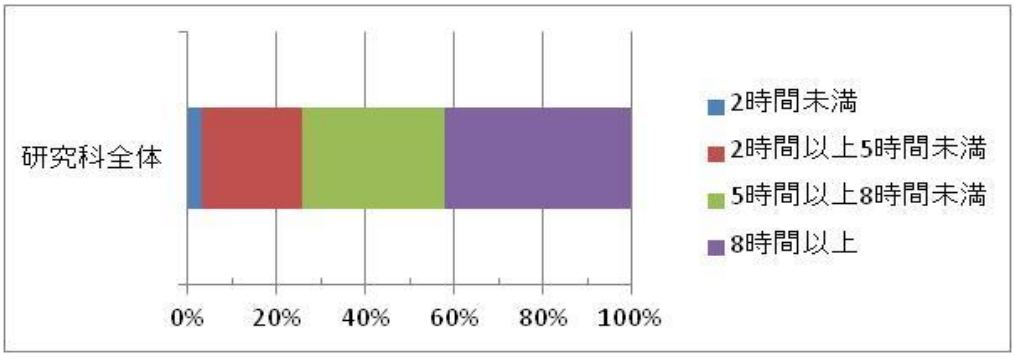
［学生の主体的学習について］
設問 10.（1）講義や演習の受講に当たり，その講義の受講期間中にあなたは講義室での受講時間の何倍程度の時間を，講義室外での学習（予習や復習など）に当てましたか。大学設置基準に，「1 単位は 45 時間の学習を必要とする内容」と規定されています。2 単位の科目の場合，90 時間の学習が必要な計算になりますが，講義室では 30 時間（90 分を 2 時間として扱い×15 回＝30 時間）の学習時間しかありません。そこで，講義室外での学習が必要になります（講義室での 2 倍の時間）。学習時間にはインターネットを利用した情報収集，講義や演習でのプレゼン準備やレポートの作成，研究室内でのプレゼン準備などに要した時間も含めても構いません。ある 1 科目を想定して回答しても構いません



図Ⅱ-10(1)．予習や復習の時間

講義時間の 2 倍以上の時間を予習や復習に充てたという回答は 30%であった。設問を改めた結果，大学設置基準を満たしていない大学院生が多いことが明らかになった。カリキュラムの見直しを含めた大幅な改革が必要と考えられる。

(2) 学術特別研究（学術研究プログラム），実践特別研究（実践研究プログラム）あるいは課題研究（社会人入学者）に要した時間は 1 日平均どの程度ですか。実験に要した時間に加え，研究に必要な文献調査や文献講読に要した時間も含めて計算して下さい。



図Ⅱ-10(2)．学術特別研究，実践特別研究，あるいは課題研究に要した時間

5 時間以上もしくは 8 時間以上と回答した大学院生が 74%を占めており，25 年度(72%)および 26 年度(70%)と同程度であった。多くの大学院生が研究に充分な時間を割いていると考えられる。

設問 11．大学院教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。
(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

[生物学コース]
・予習・復習をしっかり行った。
・真面目に取り組んだ。
・苦手な論文講義を克服する意識を常に持っていた。
・可もなく不可もなく。
・専門分野以外の最新の研究などについて積極的に学んだ。
・準備等，比較的意欲的に取り組めた。
・受講している講義の分野について，なるべく知識として取り組むように注意していた。
・真面目に取り組んだ。
・新しいことをしっかり学ぼうという姿勢で取り組んだ。
・積極的にとりくんだ。
・授業を落とさないようにした。

[分子生命科学コース]
・自分の専門だけでなく，基礎だけでも，他の分野に目を広げる機会として考えた。
・前向きに取り組んだ。
・主体的に取り組んだ。
・講義内容自体が主体的に取り組むべき内容だった。
・受け身にならないように。
・予習は必ずやる。
・自分の研究に生かすことを考え取り組んだ。

[生物資源学コース]
・辞書や教科書などを持ち歩き，わからない事があればすぐ調べるようにした。

・集中。
・与えられた課題をこなすだけで精一杯だったと思う。
・自主性をもって受けた。
・研究などで遅れるときに前もって連絡した。

［園芸農学コース］
・おもしろそうな授業を取った。
・講義の内容が分かるような，基礎知識の確認をした。
・1つでも多くの知識を得られるように努力した。

多くの大学院生が主体的および意欲的な姿勢で取り組んだと回答しており，教員の提示した要求に応えた結果と思われる。

(2) 大学院在学中のカリキュラムで，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

［生物学コース］
・プレゼンテーション演習Ⅱ：英語で楽しくプレゼン発表できる素晴らしい講義だった。
・プレゼンテーション演習Ⅰ：内容が悪すぎる。少なくとも理系院生向けではない。高い教科書も全く使われなかった。
・プレゼンテーション演習Ⅱ：英語でプレゼンテーションをするという経験を得ることができ新鮮だった。
・水理施設工学Ⅰ・Ⅱ：山地流域保全学Ⅱ：修了単位に含まれていない講義だったが，自分の研究内容だったため受講したが，非常に興味深く，とても実り多かったので，受講して大変よかった。
・分析技術法 J：共焦点顕微鏡を担当している教員の方が，私のした共焦点のコマンド等に関する質問の多くに「知らない」と答えていたこと。
・山地流域保全学Ⅰ：座学で学んだことを最後の講義で実際に山地に行き，目で見て学ぶことができたから。
・野生生物調査法：屋外での作業が面白く，印象に残った。

［分子生命科学コース］
・プレゼンテーション演習Ⅱ：とにかく辛かったです。身になったかどうか，あやしい。
・プレゼンテーション演習Ⅱ：英語での授業，プレゼンだったため，英語に向き合えたから。
・プレゼンテーション演習Ⅰ：講師の著書を買わせるためにやってるとしか思えなかった。
・プレゼンテーション演習Ⅰ：全く身にならなかった。
・プレゼン演習（集中）：専門とはかけはなれた無駄な講義だった。
・遺伝子制御学：予習の量がかなり多かった。

［生物資源学コース］

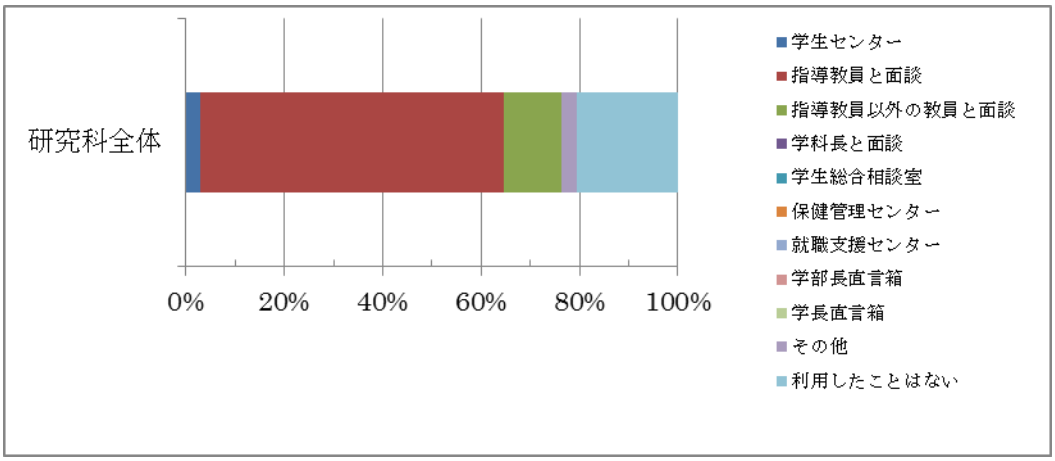
・プレゼンテーション演習Ⅱ：初めての英語のプレゼンテーションで苦労した。
・植物分子育種学：今年で退任。
・プレゼンテーション演習Ⅰ：外部から先生が来られ，2 日間という短い時間でチームでプレゼンテーションをしなければいけなく，時間がたりなくとても大変だった。

［園芸農学コース］
・特にありません。みんな良かったと思う。
・プレゼンテーション演習Ⅱ：外国人の講師の方に指導してもらい，実践的な英語力を身につけられたから。
・ストレス生物学特論：先生と 1 対 1 の授業で得られるものが多い講義だった。

プレゼンテーション演習Ⅰに対しては質に問題を感じる大学院生が多かった。一方，26 年度に内容に対する不満が多かったプレゼンテーション演習Ⅱは，有益との回答が増加した。

［学生への教育支援，施設・設備について］
設問 12.（1）本研究科や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，以下のようなルートを用意しています。在学中あなたは次の（1）～（3）の項目について主にどれを利用しましたか。（ ）内に番号を記入して下さい。

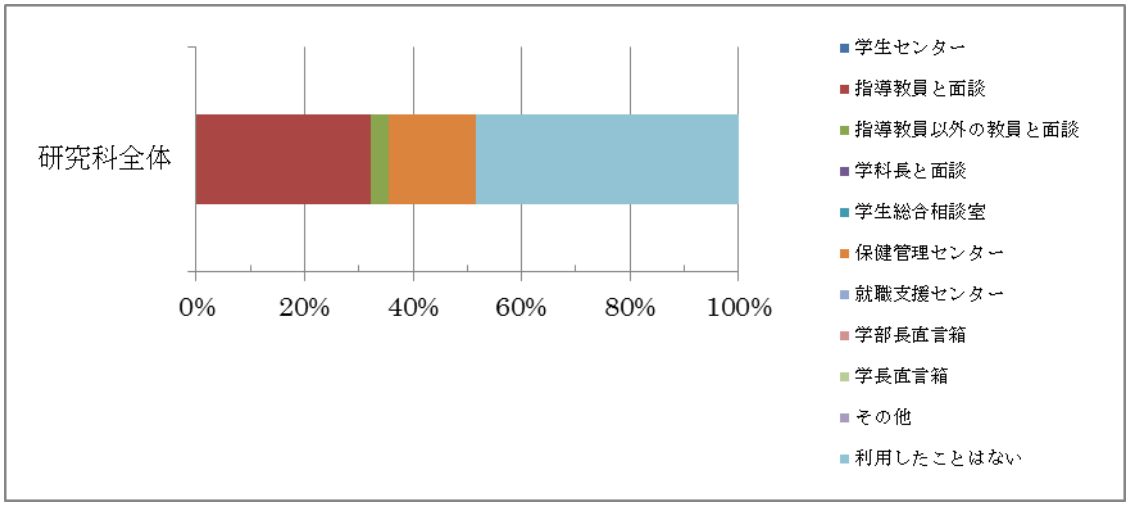
（1）学業



Ⅱ-12（1）．学業についての利用

「指導教員と面談」「指導教員以外の教員と面談」との回答が 74%であり，大学院生の多くが教員とのコミュニケーションを取っていると思われるが，20%の大学院生が利用したことがないと回答しており，教員と大学院生の間の垣根を低くする努力が必要と思われる。

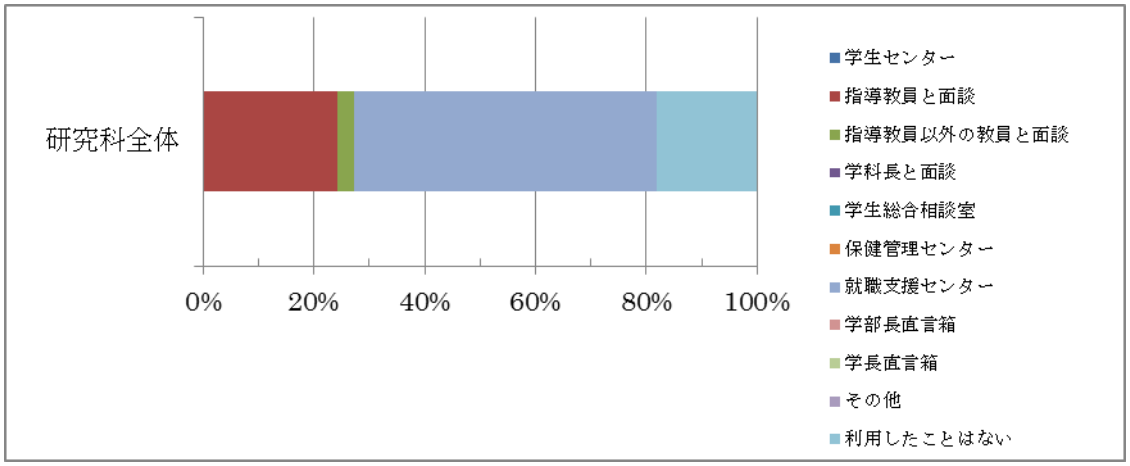
（2）学生生活



図Ⅱ-12(2)．学生生活についての利用

大学院生の半数が「利用したことがない」と回答している。学生生活に関する相談ができる窓口が複数用意されていることを周知する努力が必要と思われる。

(3) 進路



図Ⅱ-12(3)．進路についての利用

就職支援センターの利用は，26 年度の 35%から大幅に増加して 55%であった。「利用したことがない」との回答が，26 年度の 32%から 18%と大きく減少しているので，就職支援センターの認知が大幅に改善されてきた結果と考えられる。

(2) それぞれの対応に関して改善すべき点があれば以下に簡潔に記入して下さい。

[生物学コース]

・大変良かったと思う。問題ない。

・職員の対応が悪く，利用したくない。

[分子生命科学コース]

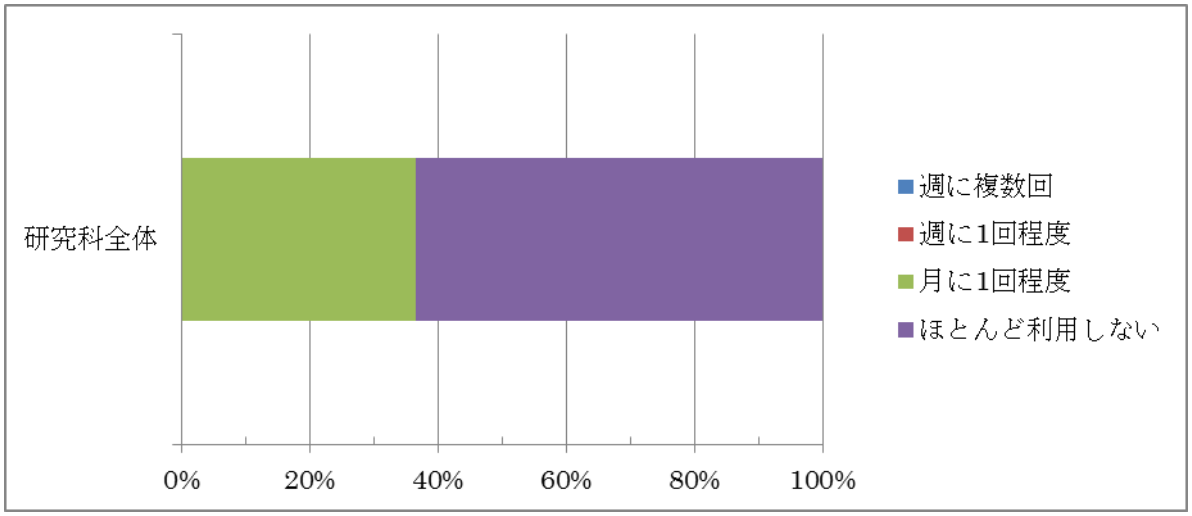
記述なし

［生物資源学コース］
記述なし

［園芸農学コース］
・ありのままより，いいアイディアがない。

回答数は少ないが，職員の対応が悪かったという意見があり，対策を検討する必要があると思われる。

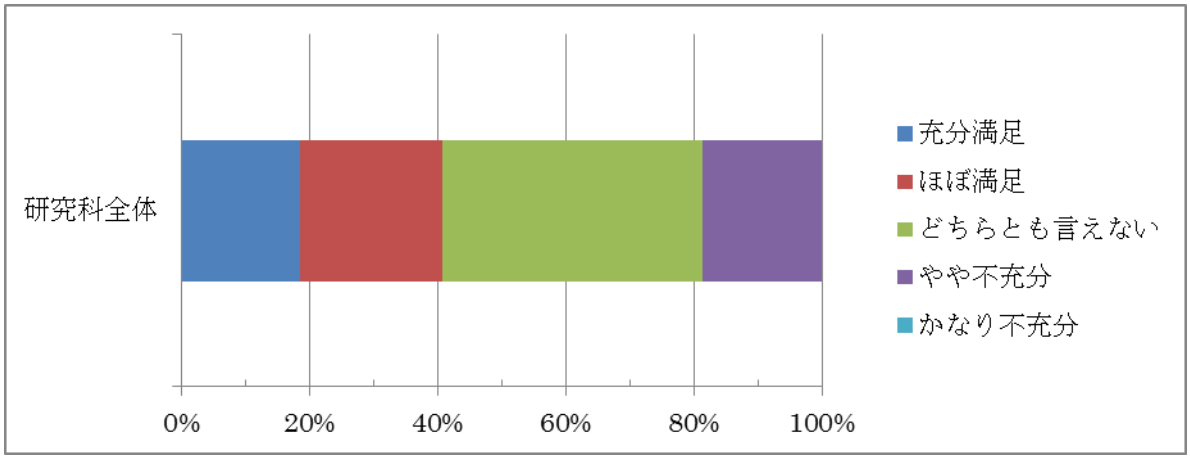
設問 13. 本学部図書室の利用について質問します。
（1） あなたは在学期間を通して，平均どのくらい利用しましたか。



図Ⅱ-13(1)．本学部図書室の利用状況

回答のうち「ほとんど利用しない」の割合は 63%であり昨年度（62%）とほぼ同じであった。残り 37%のうち週に１回以上（１回程度及び複数回）利用するとの回答はなく（0%），昨年度から 13 ポイント減少した。利用状況は減少の方向にあるとみられ，その理由としてはインターネット利用等，情報収集の仕方の変化が関係していると考えられる。しかし，「ほとんど利用しない」の割合が変化していなことから，今しばらく図書の整備状況等の改善を続け今後の推移をみていく必要がある。

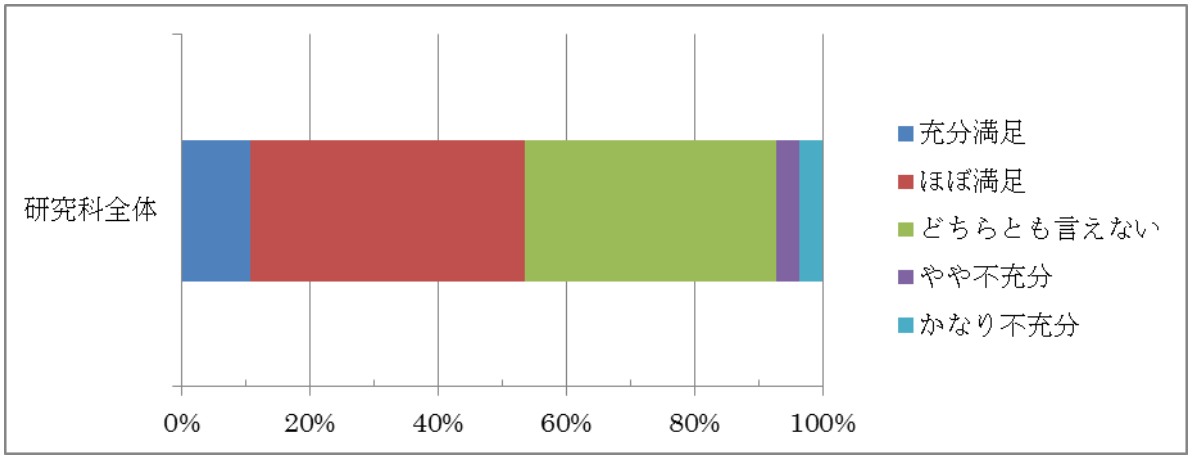
（2）以下の項目について，どのように感じていますか。該当する欄に〇を書き込んで下さい。
1．所蔵図書（和書および洋書の単行本）



図Ⅱ-13(2)．所蔵図書

研究科全体では，「充分満足」と「ほぼ満足」を合わせた肯定的評価が 41%であり，昨年度より 13 ポイント増加した。一方，「やや不充分」と「かなり不充分」を合わせた否定的評価は 19%であり，これも昨年より 7 ポイント増加した。満足度が大きく増加した理由としては新しい蔵書が追加された効果が現れてきたことが考えられる。今後も学部図書室の蔵書を充実させ，追加図書等の情報を伝達することにより，利用状況の改善を測る必要がある。

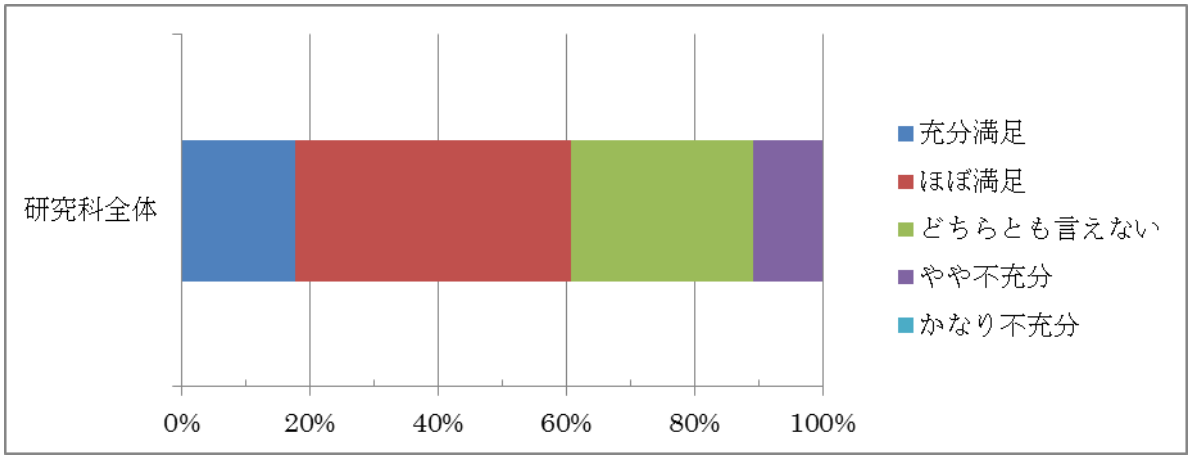
２．閲覧スペース



図Ⅱ-13(3)．閲覧スペース

研究科全体では肯定的評価が 54%と昨年度より 7 ポイント減少しているものの，一昨年度(55%)とはほぼ同等であった。「どちらとも言えない」との回答は 39%であり，昨年度（36%），一昨年度（38&）と同様に少なくない。近年，閲覧スペースのレイアウトを変更する等を行ったので，その効果がどのように出るか，今しばらく経過をみる必要がある。

３．開館時間

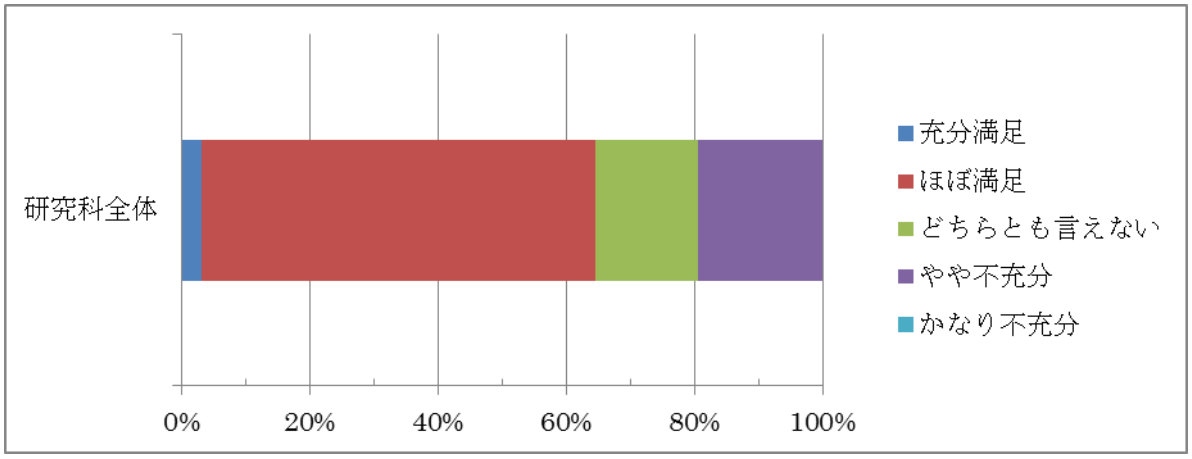


図Ⅱ-13(4)．開館時間

研究科全体では肯定的評価が 61%と昨年度（71%）より 10 ポイント減少した。ただし，否定的評価も 11%と昨年度（17%）に比べて 6 ポイント減少している。「どちらとも言えない」との回答（28%）が約 3 割を占め，一昨年度と同様の傾向にあった。

設問 14. 本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。該当する欄に〇を書き込んで下さい。

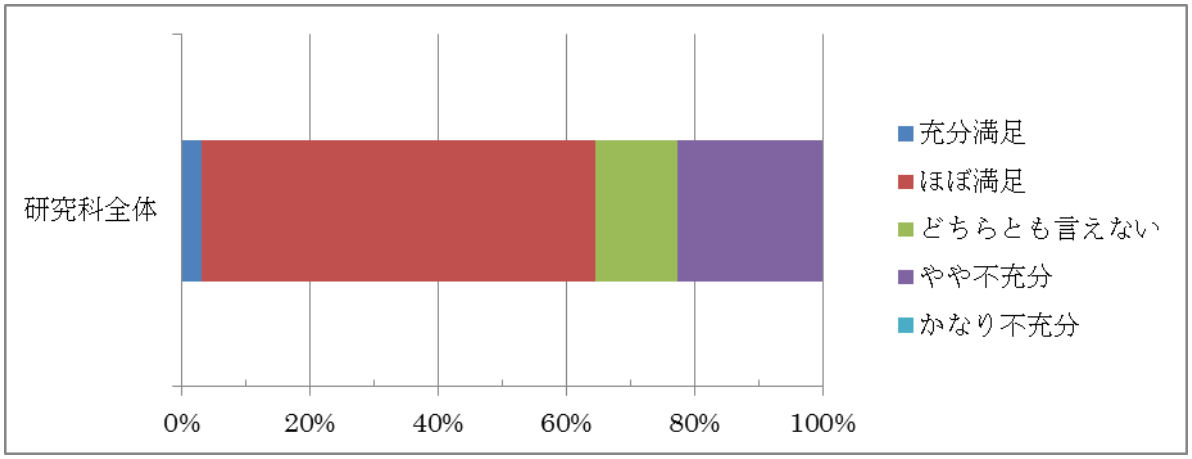
１．講義室



図Ⅱ-14(1)．講義室

研究科全体では肯定的評価が 64%であり，昨年より 13 ポイント増加したが一昨年（86%）に比べると低い。今しばらく動向をみて評価を把握する必要がある。

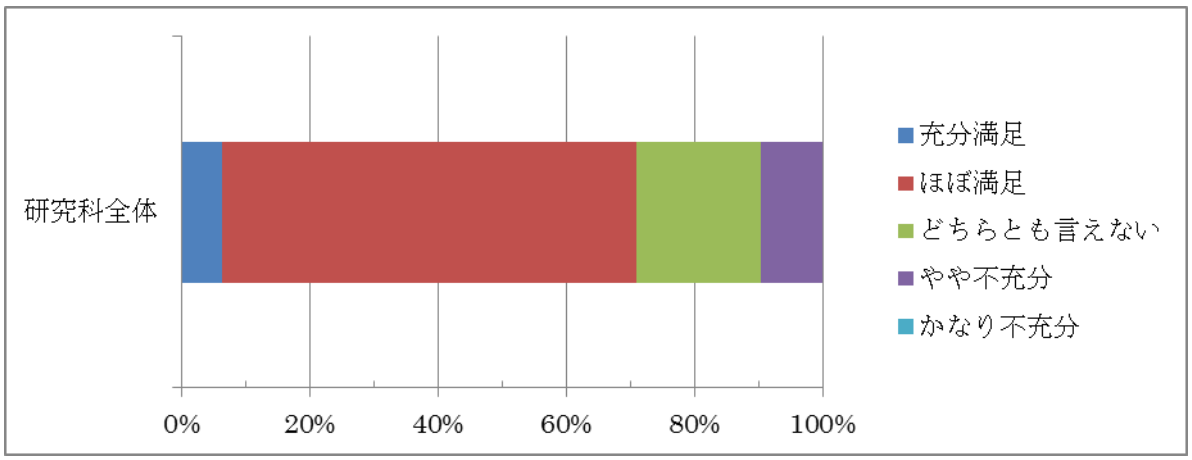
２．実験・実習室



図Ⅱ-14(2)．実験・実習室

研究科全体では肯定的評価が 64%であり，昨年度（72%）より 8 ポイント減少した。一昨年度（75%）からつづいて低下の傾向にある。今後も評価が低下するようであればその原因を探り，その対策を考える必要がある。

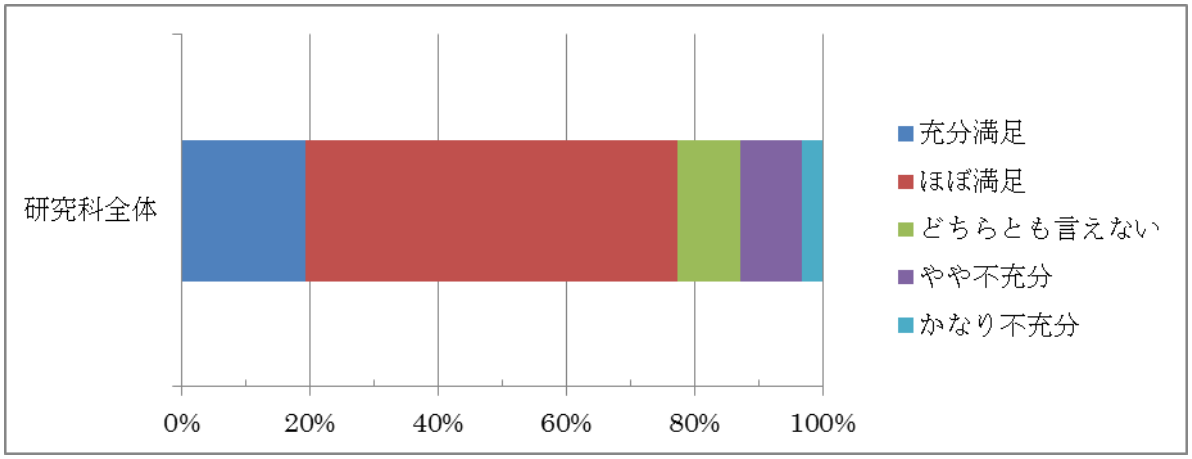
３．情報処理演習室



図Ⅱ-14(3)．情報処理演習室

研究科全体では肯定的評価が 71%であり昨年度(45%)より 26 ポイント増加した。一昨年度(64%)に比べても増加している。

４．修士研究を行った研究室



図Ⅱ-14(4)．修士研究を行った研究室

研究科全体では肯定的評価が 77%であり，昨年度（79%），一昨年度（76%）とほぼ同じであった。一方，否定的評価は 13%であり，昨年度に比べて 6 ポイント，一昨年度に比べて 3 ポイント増加している。

設問 14.（２）各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

［生物学コース］
・各講義室に時計があればよかった。
・予算がないから仕方がないとはおもいますが，諸所古すぎる。
・夏と冬の室温差が激しすぎる。
・図書館：長期休業（特に夏季）に，野外調査に出かけるために休業中も大学にいることが多かったが，調査帰りに図書館へ行った際には，閉館していたことが多かった。→長期休業中の開館時間の拡大があるとありがたいです。
・講義室が寒い。

［分子生命科学コース］
・寒すぎたり，逆に暖房つけすぎて暑かったりして，講義に集中できない時が多々ありました
・講義室に冷暖房設備が必要（特に 4F）。
・講義室にクーラーを設置してほしい。情報処理演習室は，椅子を統一してほしい。
・冬場は寒くて仕事にならない。実験室はまだまし，勉強部屋など暖房が入らない。
・講義室の暖房の風がプロジェクターに直接あたり，プロジェクターがオーバーヒートして講義がストップした。どうにか改善してほしい。

［生物資源学コース］
・もっと広い研究室が欲しかった。
・実験・実習室の実験台の水道が蛇口の水漏れや流しのつまりがあった。

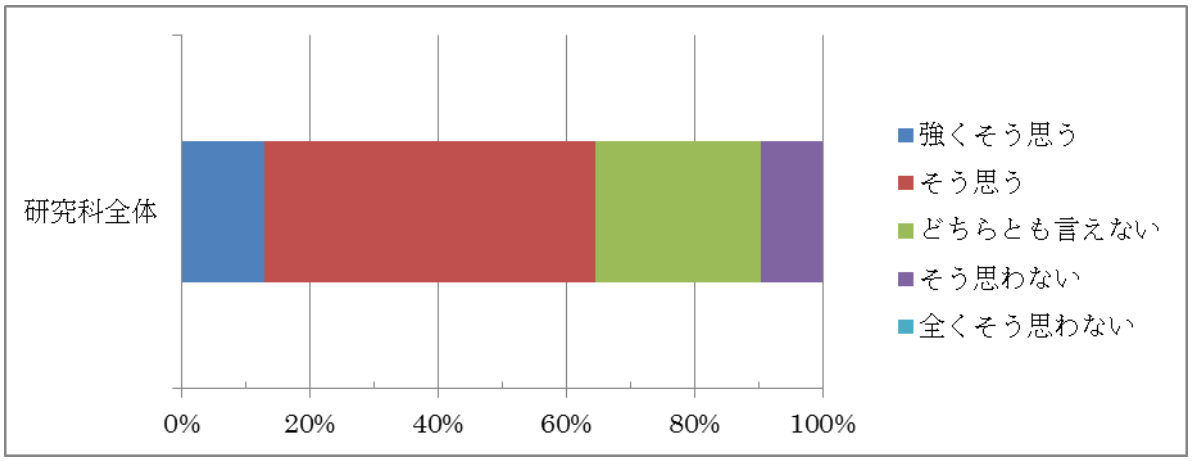
［園芸農学コース］

・冬の暖房期間をもっと早めからにしてほしい。
・　研究室が狭い。

昨年度と同様に講義室や研究室の冷暖房管理（特に冬場の寒さ対策）に関する要望，研究室のスペースに関する要望が複数あった。様々な制限のもとでこれらの要望に即座に答えることは容易ではないが，学生への理解を求めるとともに，何らかの方策を持って少しずつでも改善を図ることが必要である。

［修士研究について］

設問 15.（１）修士研究に満足していますか。



図Ⅱ-15．修士研究に満足か

研究科全体で「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた肯定的評価は 65％であり，半数以上が修士研究に満足しているとの結果であった。しかし，昨年（76%）からは 11 ポイント，一昨年（82%）からは 17 ポイント減少しており，代わりに「どちらとも言えない」との意見が 25%と増加した。今年度の「そう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた否定的評価は 10%となっており，昨年度（13%）より 3 ポイント減少，一昨年度（約 8%）よりわずかに増加した。

（２）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない
４．そう思わない　５．全くそう思わない

［生物学コース］
1　やりがいを感じて研究することができた。
1　学会発表など多くの経験ができたため。
2　講義の数が多すぎず研究の時間を十分とることができたから。
2　研究のテーマを決める際に，指導教員の先生には，最大限聞いていただき，大変感謝している。また，実際に調査に出かけるときなどでも便宜を図っていただけた。
2　学士のころから継続して行ってきた研究で，一定の成果を上げることができたため，また，研究の過程で，自身が成長できたことを強く感じるため。

3　受けた講義には満足しているが，自身の心の中で学部生の延長のように感じてしまい，私自身の姿勢として足りなかったと反省している。
3　就職活動のせいで季節に関係する調査などに行きづらかった。
3　努力はしたが，研究題材が学生にとって，扱いづらい部分があった（サンプルが国の天然記念物に指定されていた）。
3　己が満足したところで，周りが納得しないと意味がない。

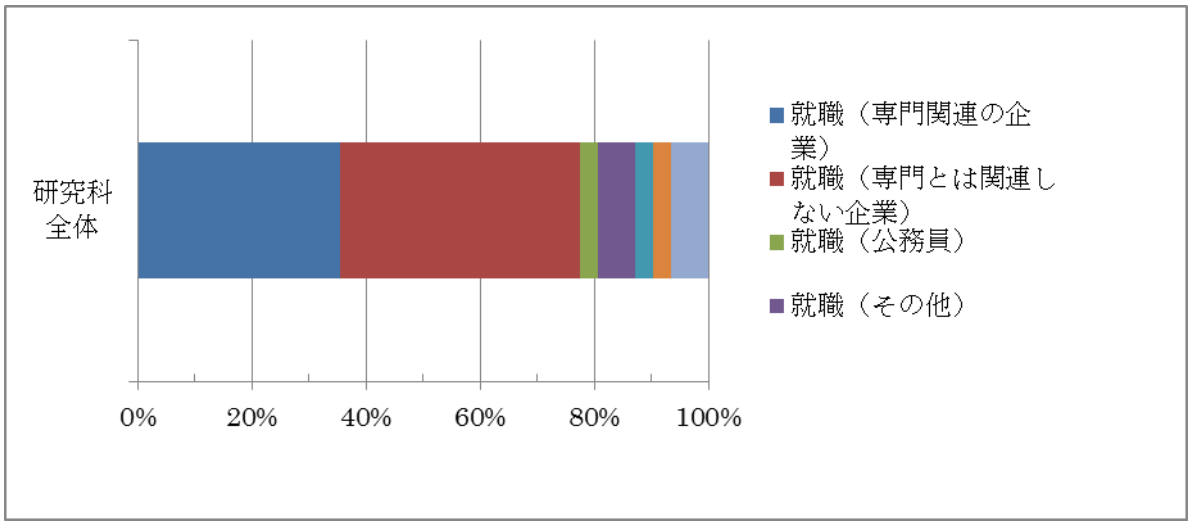
［分子生命科学コース］
2　自主的に，自由にやらせていただけたと思っています。
2　学びたい分野を勉強することができた。
2　色々なことに取り組めたため，自己の成長を感じるが，他校の人たちとほとんど関わる機会がなく残念に思う。
2　学部生の時には，不十分だった研究を追究して異なる解明ができたから。
3　就活が大変だったから時間をとられた。

［生物資源学コース］
2　問題解決の力が少しだけでも身につけられた様な気がするから。
3　自分の行動が遅かったため，もっとできただろうことができなかった。
3　就職活動を，5，6ヶ月行っており，その間思うように研究ができなかった。
4　やり切れるまでやり切ったが，最初に想定していたより全然研究が進まなかったため。
4　イメージ通りにいかないことがあり，もっと上手くできた点が多々あったと思うため。

［園芸農学コース］
1　いろいろなことができたからです。
1　実際の生産現場に生かすことのできる結果を残せたから。
4　まだまだ研究したりない。

修士研究に満足したという肯定的評価の理由には，昨年度と同様に研究に対する充実感があげられている。一方，「どちらとも言えない」と否定的評価については，研究時間の不足や計画不備などの理由があげられていた。特に，昨年度にはあげられていなかった就職活動が大変だったとの意見が複数出ていることが印象的である。これには就職活動の解禁日が８月となって昨年度より４ヶ月ほど遅れたことが影響していると考えられる。

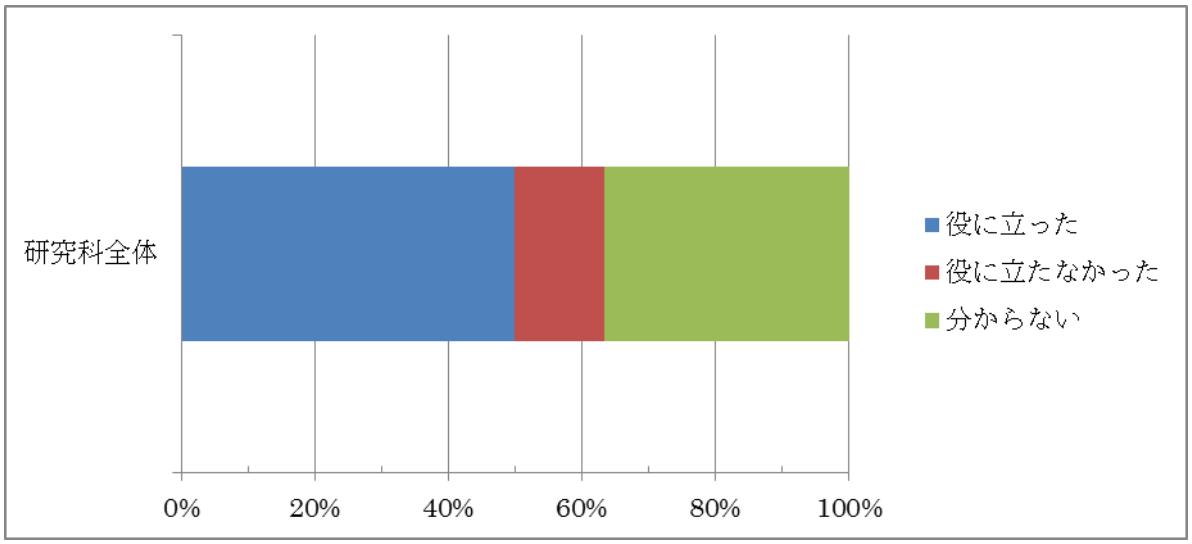
設問 16.（1）研究科修了後のあなたの進路は次のうちのどれですか。



図Ⅱ-16(1)．進路

研究科全体では「専門関連の企業」への就職が 35%であり，昨年度より 6 ポイント増加した。「専門とは関連しない企業」への就職も 42%と昨年度より 4 ポイント増加した。一方，「公務員」は 3%と昨年より 7 ポイント減少した。就職の全体合計は 86%であり，昨年と同程度である。博士課程進学者は 6%であった。全体としては昨年と同程度であるが，アンケートを実施した時点で進路未定者もわずかながらおり，さらに就職支援を充実させていく必要がある。

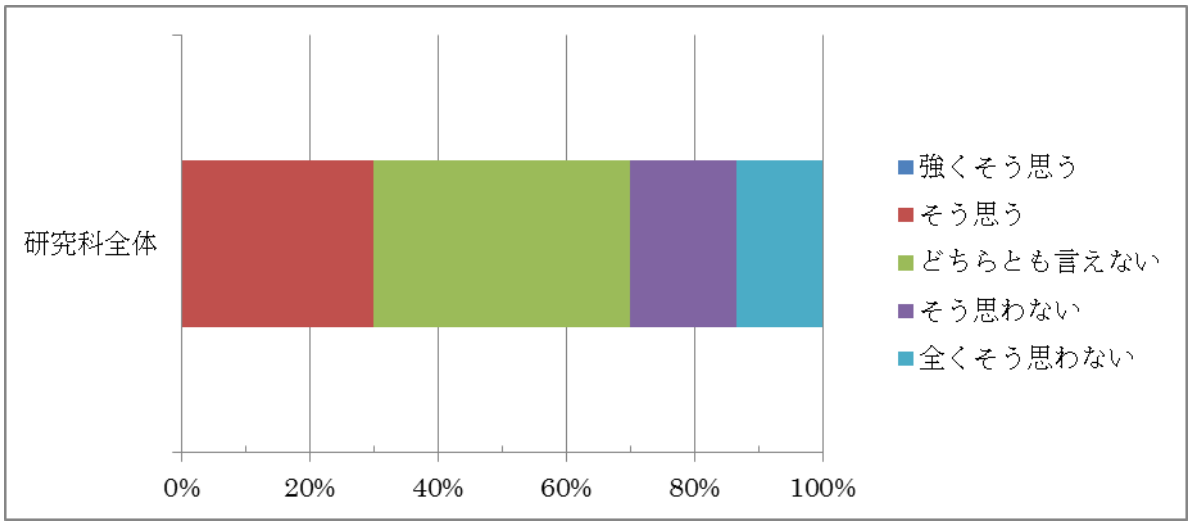
（2） 本研究科のカリキュラムで学んだことは，進路にどのように影響しましたか。



図Ⅱ-16(2)．研究科で学んだことの進路への影響

研究科全体では「役に立った」が 50%で昨年に比べて 7 ポイント減少した。「役に立たなかった」は 13%で昨年に比べて 5 ポイント減少した。肯定的評価も否定的評価も一昨年度から徐々に減少し，かわりに「わからない」とする回答が増えている。

（３）本学および本研究科の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

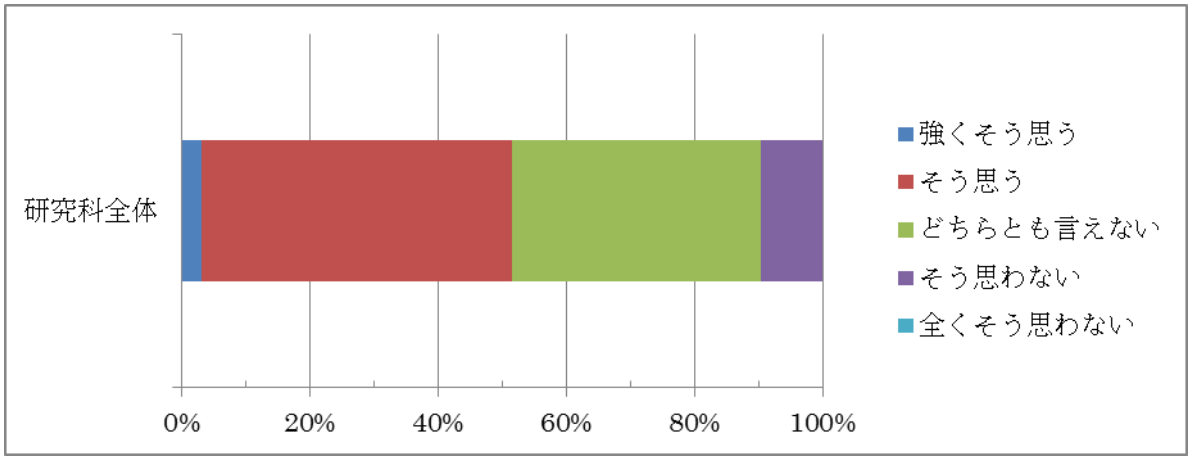


図Ⅱ-16(3)．進路支援の取り組みは十分か

研究科全体では，肯定的な評価が 30%で昨年と比べると 4 ポイント減少し，否定的な評価が 30%で昨年と比べると 10 ポイント増加した。本年度の結果は一昨年度（肯定的評価が 29%，否定的評価が 29%）とほぼ同じである。継続的な進路支援の取り組みつつ，注意して今後の動向を見る必要がある。

[本研究科の教育のあり方について]

設問 17.（１）あなたが本研究科を修了するに当たり，大学院修了者としての知識及び学力を身に付けたと感じていますか。



図Ⅱ-17.　大学院修了者としての知識および学力を身につけたか

研究科全体では，肯定的な評価が 51%で昨年度より 10 ポイント増加し，否定的な評価が 10%で昨年度より 4 ポイント減少した。肯定的評価は一昨年度（48%）に比べても増加しており，修了生としての学力を身につけたと感じているものが過去３年間で初めて半数に達した。

（２）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない
４．そう思わない　５．全くそう思わない

［生物学コース］
２　専門の分野については多く学んできたので。
２　論文講読において読解力身につけられたから。
２　学部で学んだ内容を広げて研究できたため。様々な面で見識が広がった。
２　上述したように，研究の過程で，自身が成長したと感じているため。
２　多くの専門知識を身につけることができた。
３　それを評価できるのは周囲でしょう？
３　大学院は専門性が高いので比較しづらいから。
３　研究分野に関する理解は以前より深まったが，完全ではないため。
３　自分では特にすごく身についたとは思っていない（比較する対象がない）。

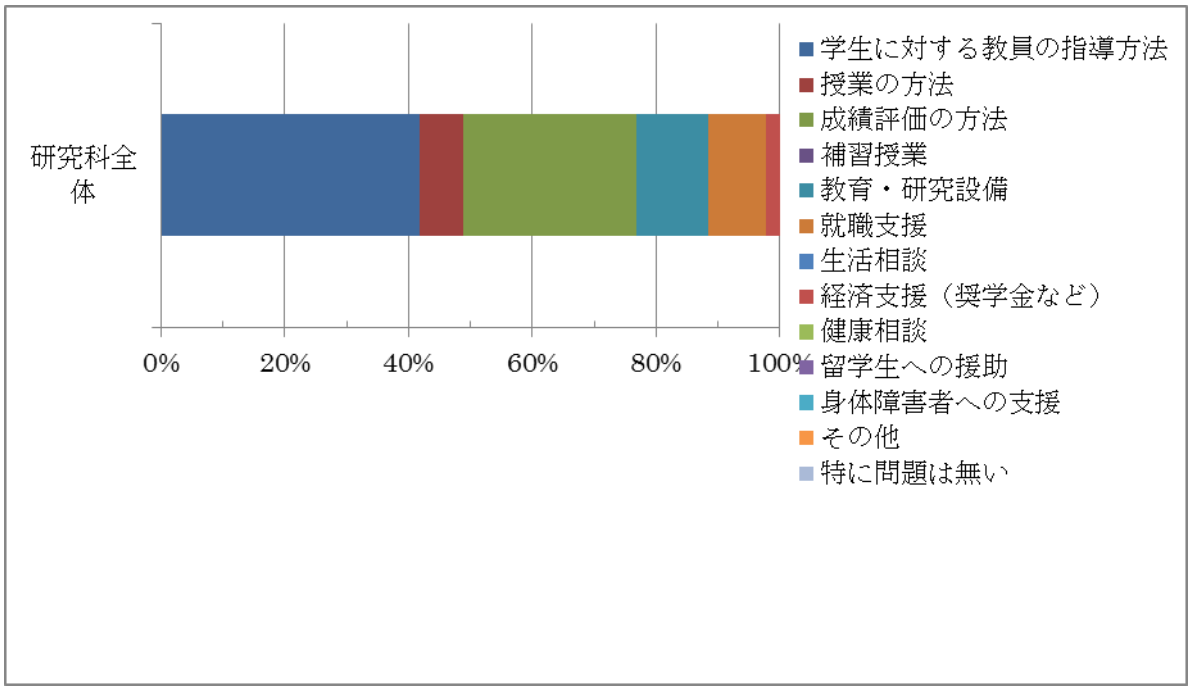
［分子生命科学コース］
２　得た知識と知識を結びつけて考える力が身に付いたと思う。
２　研究を通して技術を身に付けることができた。
２　自分の研究や後輩指導を通じて専門分野についてさらに理解が深まったから。
３　社会に求められる”大学院修了者に相応の知識，学力”が今は，わかりません。
４　やり残したことが多くあるから。

［生物資源学コース］
２　結果に対する考察の仕方や，論文の書き方など，研究者としての姿勢を学べました。
２　学部を卒業した頃と比べ，専門分野に関する知識が大幅に身に付いたため。
３　自分でまだ努力できた部分があると思うから。
４　自分の勉強不足だと思う。

［園芸農学コース］
２　専門と興味のことがいっぱい勉強できたからです。
２　2回学会発表を行えたから。
３　英語力など不足しているものがあるから。

肯定的評価の回答では，昨年度と同様に研究面で得られた専門知識や技術，経験をあげているものが多い。「どちらとも言えない」や否定的評価では，回答者自身の努力不足などが挙げられており，この点についても昨年度と同様，自己評価の厳しい学生が少なくない。大学院で身につけた知識と学力について学生が客観的かつ的確に自身を判断できるような方向での具体的な指導を教員側は考えるとよいのかもしれない。

設問 18.（１）本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を次の項目の中から一つ選んで下さい。



図Ⅱ-18．早急に改善すべき点

研究科全体で見ると，昨年度，一昨年度と 10%程度であった「学生に対する教員の指導方法」が約 30 ポイント増加している。「成績評価の方法」についても 28%と高く（H25，H26 年度ともほぼ 0%），関係があるものと考えられる。

（２）上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

1. 学生に対する教員の指導方法　2. 授業の方法　3. 成績評価の方法　4. 補習授業
5. 教育・研究設備　6. 就職支援　7. 生活相談　8. 経済支援（奨学金など）　9. 健康相談　10. 留学生への援助　11. 身体障害者への支援　12. その他（　　）
13. 特に問題は無い

［生物学コース］
2　あくまでメインは研究。
2　プレゼンテーション演習Ⅰはいらない。
2　早急ではないけれども，できれば授業がある時をある程度同じ曜日に集中してほしい。
5　部屋や廊下を明るくする。実験機材の故障を防ぐため室温を一定にする。
5　壊れた高額研究設備への援助がほしい。
6　面接練習の機会をもっと増やして欲しい。

［分子生命科学コース］
1　結果的に良かったのかもしれませんが，毎日 9：00～23：00，土日も，実験するのがあたり前でしょ？という考えが，やはりツラい時もあります。例えば，バイトとかもしたかったで

す。
1　実験に関する拘束時間が長い。
1　研究室によってこなくなる学生が多すぎる。退学者等が多い研究室の指導教員は現状を変えるべき。
1　プレゼンテーション演習Ｉ　講師の著書を購入させるためだけの指導内容だった。教科書は不必要。
1と6　不登校になってしまう学生をもっと減らすべきだと思う。
5　他校と関わる機会を増やすべき（サークル・ゼミ以外で)。

［生物資源学コース］
5　老朽化対策。
5　学部生に向けて，大学院進学希望者が増えるようなカリキュラムにする必要がある。学生実験期間の延長や研究室見学などにより研究に対する興味，楽しさを感じさせる。

［園芸農学コース］
2　院生が自分の専門分野以外の分野の授業に多くの時間を割かなければならないのは，大変な労力を要する。そのため，予習復習に多くの時間を要する（論文紹介など）授業は，なるべく少なくしてほしい。
5　研究室を広くする。
13　特にありません。

指導，授業，カリキュラム，研究設備，就職支援など様々な要望があった。それぞれを検討し，可能なことはできるだけ早急に改善するよう対処する。

設問 19. 本研究科で学生が期待する教育を受けるとともに充実した学生生活を送るために，希望する点や，大学または学部が改善すべき点があれば具体的に記入して下さい。

［生物学コース］
・ 修士課程にのみならず，学部生にも是非プレゼンテーションや論文講読といった機会を設けて欲しい。ゼミによっては発表練習を積極的にやらないゼミもあるので。講義でそのようなプログラムを増やして欲しい。
・ 就活にムダな時間と金を使わなくて良いようにして欲しい。交通費・宿泊費かかりまくり。まぁ，地方に進学しといてガタガタ言うんじゃねぇと言われたら，それまでですけどね。
・ 学部時代に教員免許を取得して，農学生命科学研究科に進学した学生（出身学部問わず）に対して，専修免許を取得するためのガイダンスを行って欲しい。（入学時に書類を渡す際に，出欠を確認した上で，実際に行うかどうかを判断していただいて構わない）→せっかく取得できる大学院であるのに，安直とらないと判断する学生が多いように感じたため。
・ 教員の退職についての情報と，それに伴う研究室への学生受け入れ乃停止時期についての情報をホームページに載せるべき。
・ 講義が多すぎて研究活動に支障が出たので，改善してほしい。

［分子生命科学コース］

・ 特にうちの学科は，実験したい人が減っていることが問題に感じます。研究室を選ぶ時には，「どんだけ自分の時間をつくれるか，いかに実験をせずにすむか」ばかり考える学生が多いようで，残念です。学部１・２年で，どうしてそういう安定的な考えを選ぶようになってしまうのか？。
・ 学生への連絡・掲示等をオンライン化。
・ 図書館以外で軽食を食べてもいい，勉強スペースがほしい。学食か休憩スペースはさわがしい。

［生物資源学コース］

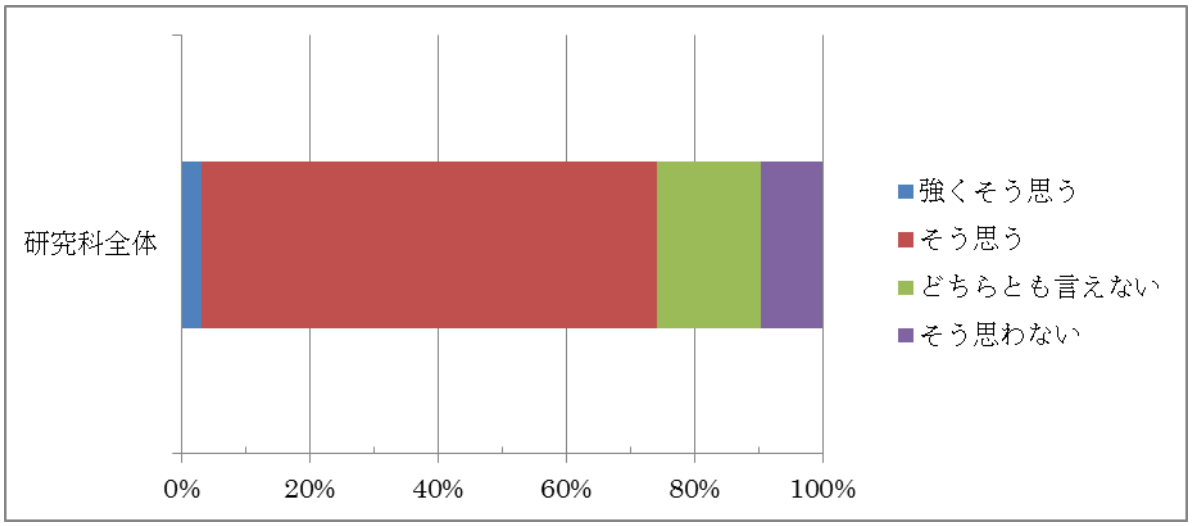
・ 学内行事を増やすなど，もっと学生に積極性をもたらす様な工夫をした方が良いとおもいます。
・ 大学院で受ける講義を減らし，より自らの研究にかける時間を多くすべき。

［園芸農学コース］

・ もっと英語を使うようにするといいとおもいます。
・ 学生と大学側の距離がかなりあるように感じる。大学側の取り組みをもっと学生に周知してもらうための工夫が必要であるように思う。
・ 学会への参加を必修にし，学生に様々な研究に触れる機会を与える。

回答は多種多様であった。比較的すぐに対応できる要望もあれば，様々な制限により実現が難しいと思われるものもある。それぞれの要望や批判に耳を傾け，継続して改善を図っていく必要がある。

設問 20.（１）総合的に判断して本研究科・コースの教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。



図Ⅱ-20．本研究科の教育研究に対する取り組みに満足か

研究科全体では肯定的評価が 74%と高く，「どちらとも言えない」が 16%，否定的評価が 10%であった。肯定的評価の割合は昨年と同程度である。否定的評価は 7%で，これも昨年と同程度であった。

（2）上記のように回答した理由を記入して下さい。

1．強くそう思う　2．そう思う　3．どちらとも言えない

4．そう思わない　5．全くそう思わない

[生物学コース]

1　有意義な学生生活がおくれたと思うため。

2　パワーポイントによる発表の機会が多かったこと。それによって論文的思考が得られたこと。

2　大学院として必要な研究を行うことができたから。

2　非常に充実した院生生活を送れたように思う。ただ，生物学コースの必履修授業に，水理施設工学のような，生態環境コースの学生が興味を持てる授業がもっと多いと助かります。

2　生物学の分野について，広く知識を得ることができたと考えるため。

2　2 年間を振り返っても，特に不満に思う点はなかったので。

3　博士進学者を増やしたいのか，就職に強いと言われたいのか。

4　必要のない講義をとらなければいけない分，自身の研究に対する時間が減り不便，複数の中から選択できるようになってはいるが，時間が被っており履修が実質不可能なのはよろしくない。単位認定の幅を広げるべき。

[分子生命科学コース]

2　周りはわかりません。不満もあります。でも，私は結果を出せたので，良かったと思ってしまいます。ただ，後輩には修士進学はすすめません。

2　大学院に進学してよかったと思えるから。

3　知識や技術を身につけることができたが，実験における拘束時間が長すぎ，充実した生活を送ることができなかったため。

4　積極的であるとは思えない。

[生物資源学コース]

2　自身の学生生活が，たくさんの方々によって支えられてきたとおもったからです。

2　特に不満に感じたことがないから。

2　特に研究では，指導教員の先生にお世話になり，研究を進めることができ，満足しています。

3　様々な知識を得ることができたが，それが仕事に活かせるのかどうか自信がないため。

4　理系学部にもかかわらず，大学院に進学する学生が少なすぎる。もっと進学して研究したいという人が増えるようなカリキュラムを作るべきだとおもった。

[園芸農学コース]

2　ここに来て良かったとおもいます。

2　研究科・コースの概要・目的に沿った教育を受けることができたから。

３　２年間で多くのことを学べました。

修士課程に対する総合評価は肯定的な回答が 7 割を越えており，「有意義な学生生活をおくれた」，「知識や技術を身につけることができた」，「研究を進めることができた」等，多くの学生は満足しているようである。一方で，カリキュラムの構成や，研究に従事する時間と講義の時間やプライベートな時間とのバランスに疑問を感じる学生の意見も出された。これらの意見についてはその背景を理解するとともに，他の設問の回答に見られた要望や批判と合せて検討し，本研究科・コースの今後の教育・研究の改善に結びつけていく。

Ⅲ．教員対象授業アンケート（学部授業および研究科授業）
１．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部および研究科の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，学部および研究科の授業に関する教員の意識について調査することを目的にアンケート調査を実施した。

調査方法：各教員にアンケート用紙を配布することで調査を行った。各教員が担当している授業のうち最も重要と考えられる学部専門教育科目，研究科講義科目それぞれ１科目の合計２科目について回答してもらった。

調査対象：平成 28 年２月に学部，研究科および生物共生教育研究センターに所属の教員とした。

調査期間：平成 28 年 2 月 8 日～2 月 22 日

教員数：　71 人　回答者数：　53 人(学部)，53 人(研究科)

調査項目：設問は以下の通りである。

『学部授業に関する調査』

設問 1．あなたが所属する学科を選択して下さい[注1)]。

1．生物学科　　2．分子生命科学科　　3．生物資源学科　　4．園芸農学科

5．地域環境工学科

*生物共生教育研究センターの先生は 4 をお選び下さい。

設問 2．授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

① 予定回数（2 単位 15 回とし、集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目を除きます）　（　　）回

② 実施回数（集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目を除きます）　（　　）回

設問 3．休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

1．休講回数分を補講した　2．一部補講した　3．他の措置（　　）

4．何もしなかった

設問 4．① シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

1．シラバスに記載した内容に一致させて講義を行った

2．シラバスに記載した内容を意識し、できるだけ沿うように講義した

3．シラバスに記載した内容にはとらわれないで講義した

② 上記で、「3.」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

設問 5．① 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。

1．昨年度と同一であった　2．一部変更した　3．大幅に変更した

② 上記で、「2．」または「3．」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

③ 上記の場合で、シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。

1．教育効果が向上した 2．教育効果は変わらなかった　3．教育効果は低下した

4．分からない

④ 上記の設問③で「１」と回答した方は、その具体的な事例を教えて下さい。

設問 6. 学部の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

1. 大多数の学生のレベルを意識して展開した
2. より専門性を重視して展開した
3. その他（　　）

設問 7. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。

1. 視聴覚教材（ビデオや DVD 教材など）の利用
2. 画像データ（OHP、スライドプロジェクター、プレゼンテーションソフトなど）の提示
3. 授業の合間に質疑や討論の時間を設けた
4. 小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた
5. 宿題（レポートを含む）を課した
6. その他（　　）

設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが、そのような場合への対応として、どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために、このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

設問 10. このアンケート調査の実施や内容について他にご意見がありましたらご記入下さい。

『研究科授業に関する調査』

設問 1. あなたが所属するコースを選択して下さい[注 1)]。

1. 生物学コース　2. 分子生命科学コース　3. 生物資源学コース 4. 園芸農学コース
5. 地域環境工学コース

[注 1)] 生物共生教育研究センターの先生は 4 を、白神自然環境研究所の先生は 1 をお選び下さい。

設問 2. 授業の予定回数と実施回数を選択して下さい。

① 予定回数（1 単位 8 回を目安*とし、集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目は除きます。*2014 年 12 月 3 日コース長会議で了承）

1. 8 回　　2. 7 回　　3. 6 回　　4. 5 回以下

② 実施回数（集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目は除きます。）

1. 8 回　　2. 7 回　　3. 6 回　　4. 5 回以下

設問 3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

1. 休講回数分を補講した　2. 一部補講した　3. 他の措置（　　）
4. 何もしなかった

設問 4. ① シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

1. シラバスに記載した内容に一致させて講義を行った
2. シラバスに記載した内容を意識し、できるだけ沿うように講義した
3. シラバスに記載した内容にはとらわれないで講義した

② 上記で、「3. 」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

設問 5. ① 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。

1. 昨年度と同一であった　2. 一部変更した　3. 大幅に変更した

② 上記で、「2. 」または「3. 」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

③ 上記の場合で、シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。

1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった　3. 教育効果は低下した
4. 分からない

④ 上記の設問③で「１」と回答した方は、その具体的な事例を教えて下さい。

設問 6. 大学院の講義は兵平成 24 年度から、それ以前の前後期制に代わりクオーター制で実施されています。

①　４年を経過して、クオーター制による講義は、教育効果にどうような影響を与えたとお考えですか？

1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった　3. 教育効果は低下した
4. 分からない

②　上記の設問で「１」あるいは「３」と回答した方は、そう判断した理由を教えて下さい。

設問 7. 大学院の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

1. 大多数の学生のレベルを意識して展開した
2. より専門性を重視して展開した
3. その他（　　）

設問 8. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。

1. 視聴覚教材（ビデオや DVD 教材など）の利用
2. 画像データ（OHP、スライドプロジェクター、プレゼンテーションソフトなど）の提示
3. 授業の合間に質疑や討論の時間を設けた
4. 小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた
5. 宿題（レポートを含む）を課した
6. 実習形式の授業を行った
7. その他（　　）

設問 9. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが、そのような場合への対応として、どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

設問 10. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために、このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

設問 11. このアンケート調査の実施や内容についてご意見がありましたらご記入下さい。

２．学部授業に関する調査結果

設問１. あなたの所属学科をお答え下さい。

表Ⅲ-2-1. 回答率

	教員数（人）	回答数（人）	回答率（%）
学部全体	70	48	68.6
生物学科	14	7	50.0
分子生命科学科	14	8	57.1
生物資源学科	12	9	75.0
園芸農学科	15	13	86.7
地域環境工学科	11	11	100.0
生物共生教育研究センター	4	2	25.0

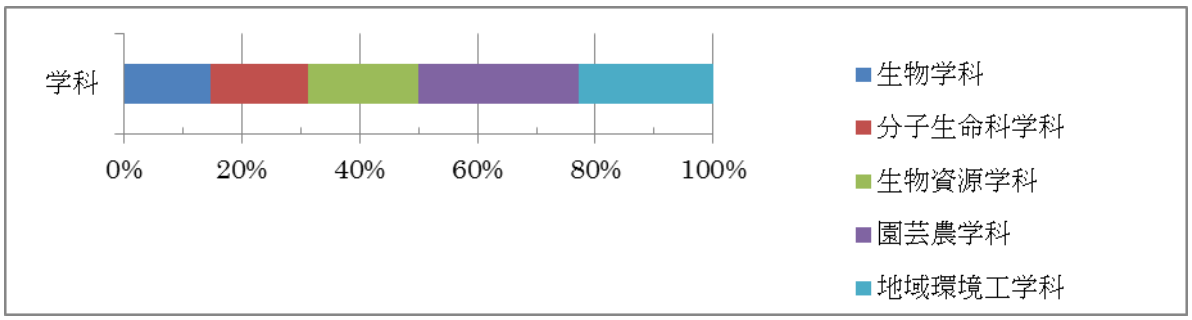


図 Ⅲ-2-1. 学科別回答割合

学部全体の回答率は 68.6%で過去 2 年(昨年度:68.6%, 一昨年度:71.8%)と概ね同じである。学科別では生物学科が 50.0%と低い。また，地域環境工学科では 100%であった。

設問 2. 授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

(1) 予定回数（2 単位 15 回とし，集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）

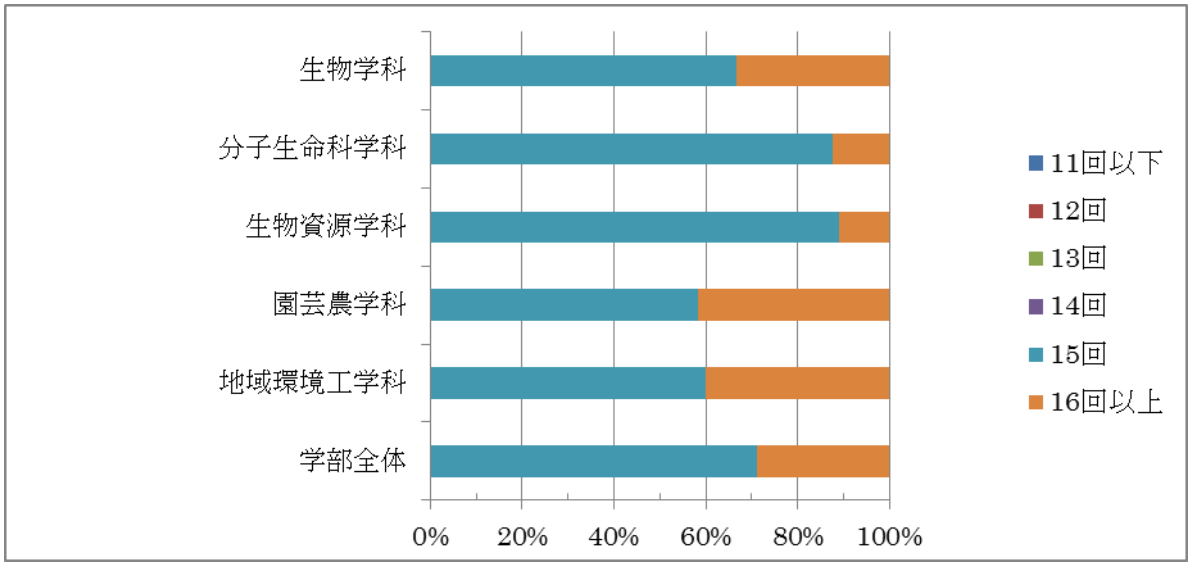


図 Ⅲ-2-2(1). 授業予定回数

学部全体回答数は 45 である。全体ではすべての回答が 15 回以上としており，16 回以上が，昨年度 25%から 28.9%へ増加した(一昨年度は 15%)。学科では，16 回以上が，園芸農学科で 42%，地域環境工学科で 40%と昨年度に比べ 3～7%増加した。

(2)　授業実施回数（集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）

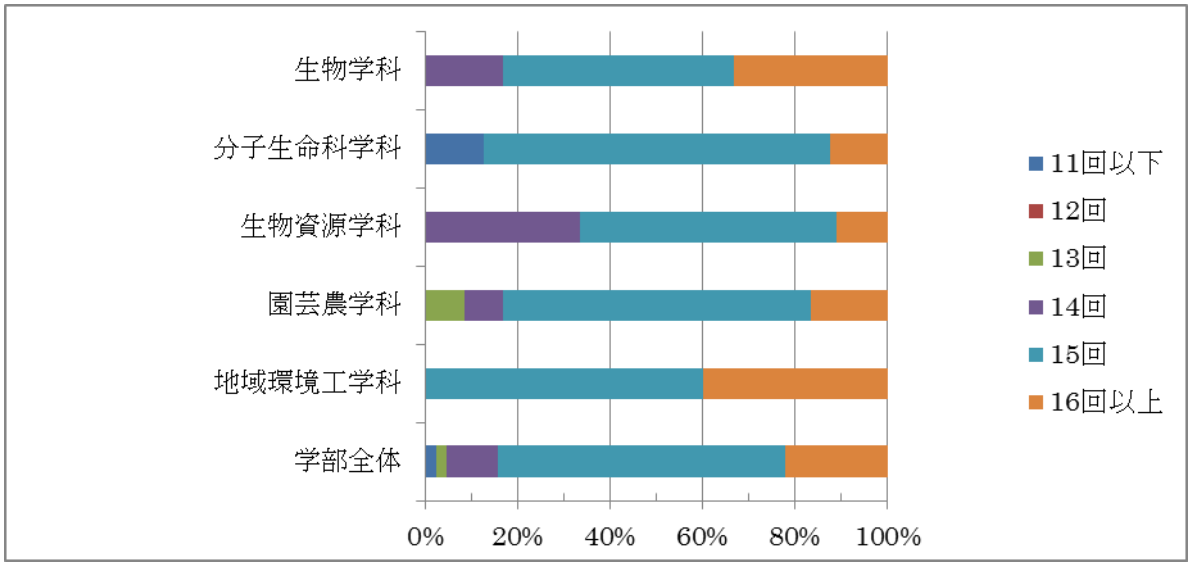


図 Ⅲ-2-2(2)．授業実施回数

学部全体回答数 45 で，実施回数 15 回以上が，昨年度と同じ 85%であった(一昨年度:75%)。また，16 回以上実施との回答は，前年度 20%であったのが 22%(一昨年度：10%)になった。一方で，14 回以下との回答は 11%と昨年度の 16%より減少した(一昨年度 10%)。学科別で見ると，地域環境工学科では全て 15 回以上実施となっている。分子生命科学科で 11 回以下が 1 名あった。14 回以下との回答は，生物学科で 16.7%（前年度と同じ)、生物資源学科 33.3%(前年より 1 名増）となっている。

設問 3．休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

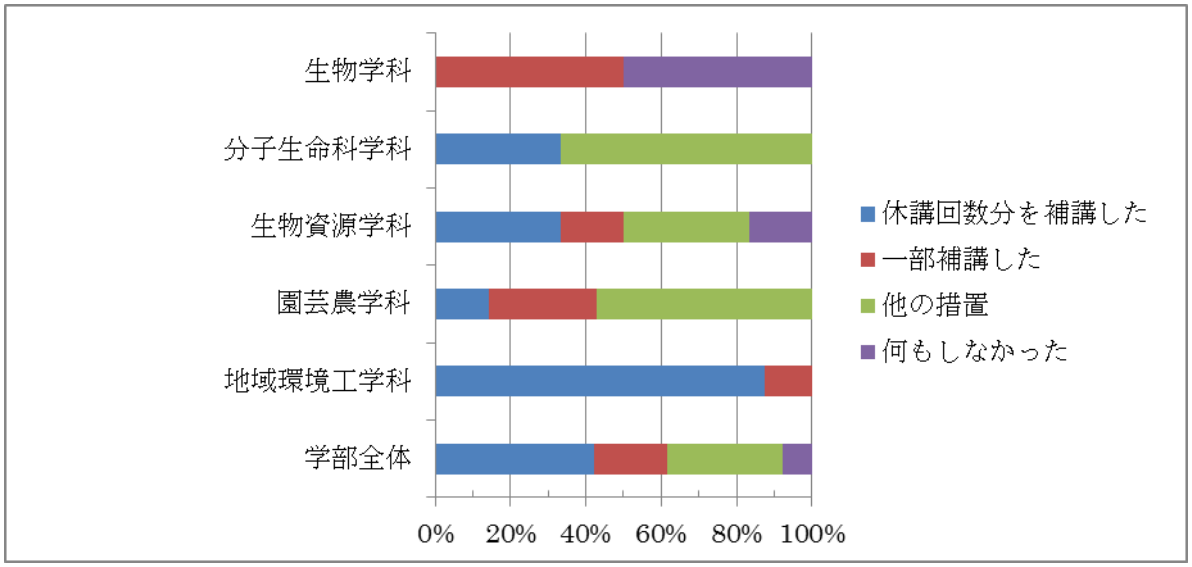


図 Ⅲ-2-3．休講の代償措置

学部全体の回答数は 26 である。休講回数分の補講措置が取られたのは，学部全体で 61.5%であった。これは，昨年度の 45%から 17 ポイントの増加となっている(一昨年年度：65%)。 一方，「一部補講した」・「他の措置」も併せなんらかの措置を取ったとの回答は 92.3%で昨年度の 80%から 12%増加している(一昨年度:92%)。学科別では，地域環境工学科は「休講回数分補講した」が 87.5%と最も多かった。一方，「何もしなかった」が，回答数は 2 名と昨年度の 6 名から 1/3 になったが，生物学科で 1 人，生物資源学科で 1 人いた。

講じた代替措置については以下の記述があった。

・レポート（生物資源学科 1 件、園芸農学科 2 件）

・休講はしていない（分子生命科学科 1 件）

・課題を出して，それに対するレポートを提出させた（分子生命科学科 1 件，生物資源学科 1 件，園芸農学科 1 件）

・毎回，自習課題を課した（園芸農学科 1 件）

設問 4. (1) シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

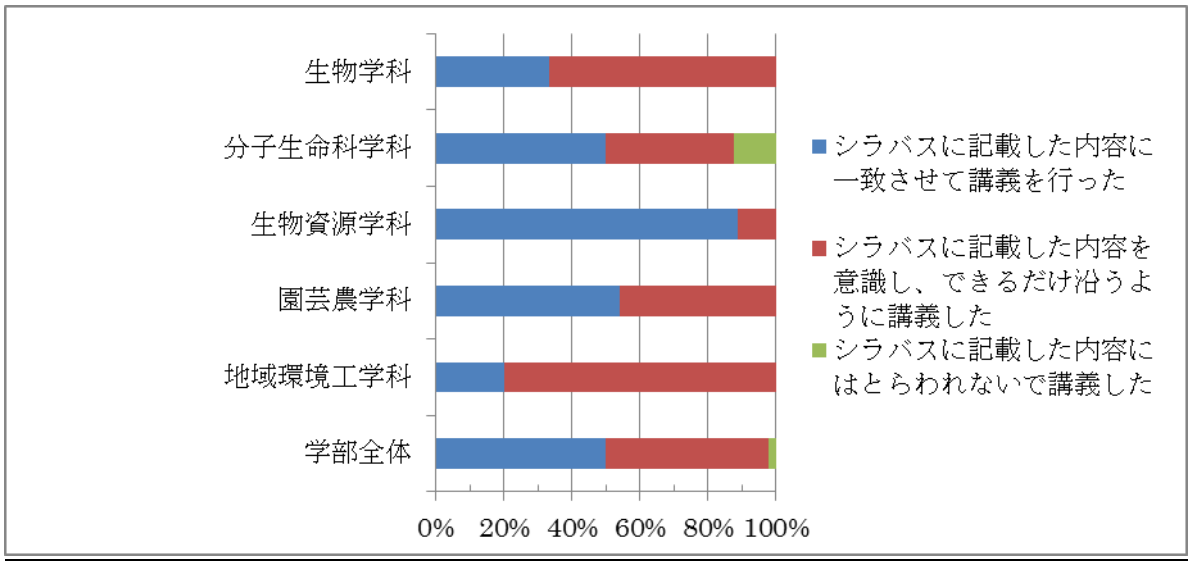


図 Ⅲ-2-4. シラバスと実際の授業の一致度

全体回答数は 45 である。学部全体で，「シラバスに一致させた講義を行った」が，昨年度の 42%から 51%にやや増加（一昨年度：48%），「できるだけ沿うように講義した」が，前年度の 58%から 49%にやや減少した（一昨年度：52%）。これらから，基本的にシラバスを重視して授業が行われていると言える。学科別では，「シラバスに一致させた講義を行った」は，ここ数年と同様、生物資源学科で 89%と高くなっている。

(2) 上記で，「3. 内容にはとらわれないで講義した。」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

以下の回答があった。

・教育的な面をより重視した（分子生命科学科 1 件）

設問 5. (1) 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。

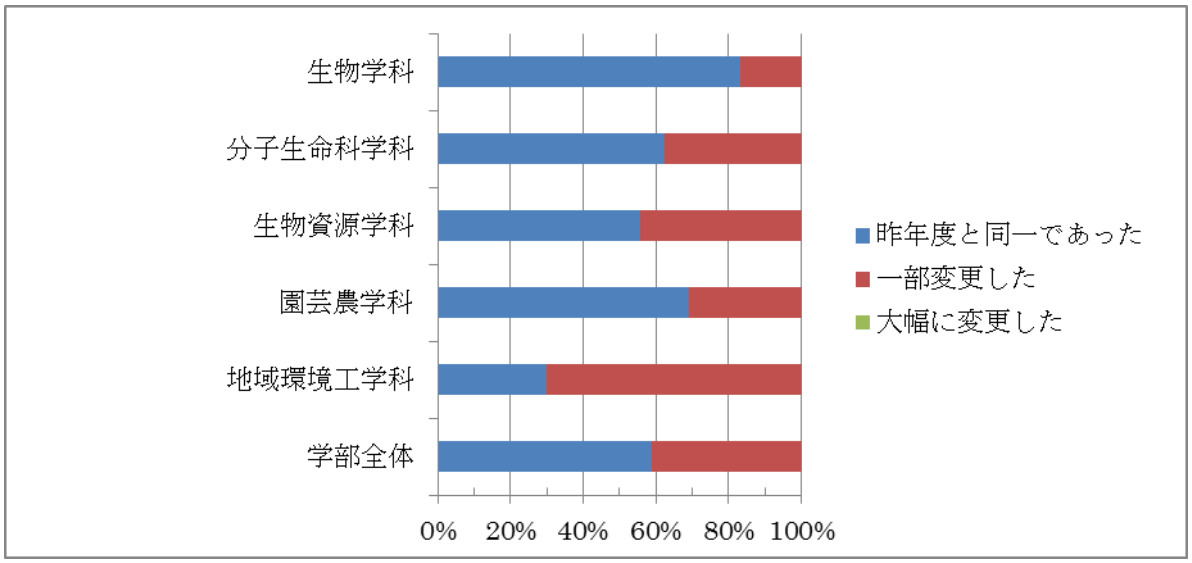


図 Ⅲ-2-5(1). 昨年度のシラバスとの比較

全体回答数は 46 である。学部全体では,「昨年度と同一」が 59%で昨年度と同じ(一昨年度:60%)。「大幅に変更」は,昨年度同様 0%であった。学科別では,生物学科・園芸農学科で「昨年度と同一」が大きく増加した。シラバス内容は大幅な変更はなされずに授業が行われていると言える。

(2) 上記で,「2. 一部変更した。」または「3. 大幅に変更した。」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

[生物学科]

・講義内容の削除と追加
・日々改善しているため
・新しい技術等が発見されていることに対応し改善した
・よりよい授業を心掛けた
・毎年,前年度の反省を踏まえ,内容を点検しているため
・より良い教育のため
昨年度の学生が,つまずきやすかった箇所に時間を割くようにした

[分子生命科学科]

・改善した
・新しい知見,課題を取り入れるため
・前半と後半で,計 2 回試験を行うようにした。よりきめ細かく学生の理解度を測るため

[生物資源学科]

・毎年少しずつ替えているから
・研究の進展に合わせた改訂
・内容を少し改善した

［園芸農学科］
・内容更新
・改善のため。情報のアップデート
［地域環境工学科］
・講義内容の削除と追加
・日々改善しているため
・新しい技術等が発見されていることに対応し改善した
・よりよい授業を心掛けた
・毎年，前年度の反省を踏まえ，内容を点検しているため
・より良い教育のため
・昨年度の学生が，つまずきやすかった箇所に時間を割くようにした

22 件の記述があり，シラバスの一部変更のケースではあるが，新たな知見や研究動向の取り入れ，学生の理解状況などからの改善，などが積極的に行われていると言える。

(3) 上記の場合で，シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。

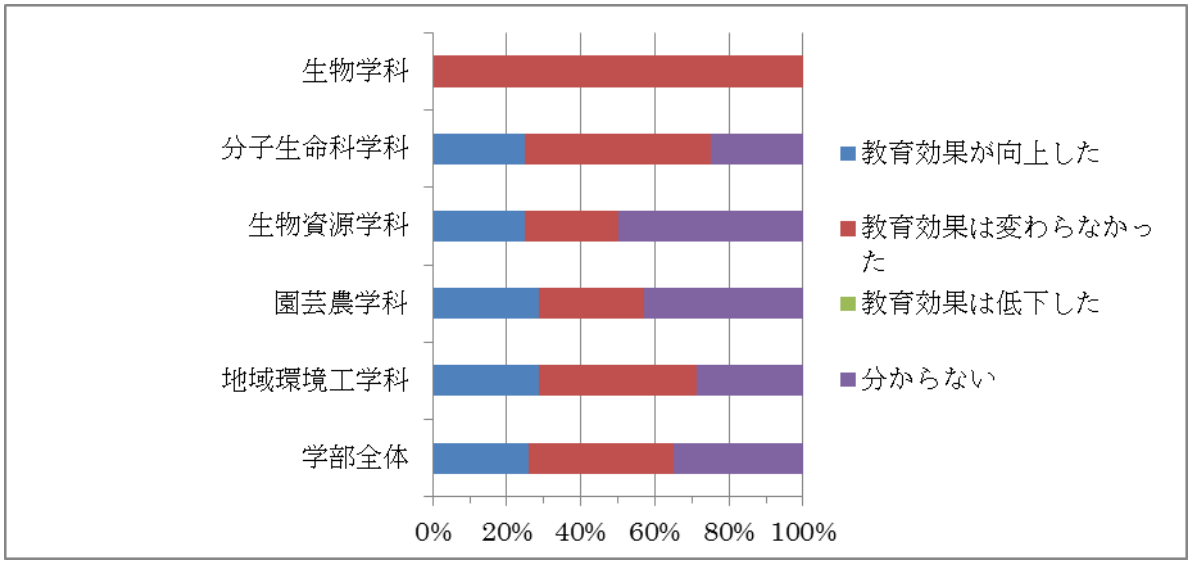


図 Ⅲ-2-5(3)．シラバス変更の効果

全回答数は 23 である。学部全体では，教育効果は「変わらなかった」、「分からない」を合わせて前年度の 84%から 74%へとやや減少した（一昨年度：90%）が，「教育効果が向上した」に比べ回答割合は大きい。学科別では，生物学科を除く各学科で 1 名または 2 名が教育効果が向上したと指摘した。この具体的内容については(4)で述べる。総じて，シラバス変更の教育効果への影響は明瞭でない場合が多いようである。

(4) 上記の設問３で「１．教育効果が向上した」と回答した方は，その具体的な事例を教えてください。

［分子生命科学科］
・学生が苦手とする分野がよく分かった

［生物資源学科］
・例示する題材により理解度が向上
［園芸農学科］
・講義の全体計画が，どの様に組み立てられ，進行中の講義内容が，どの位置づけに相当するのか判断できる

設問 6. 学部の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

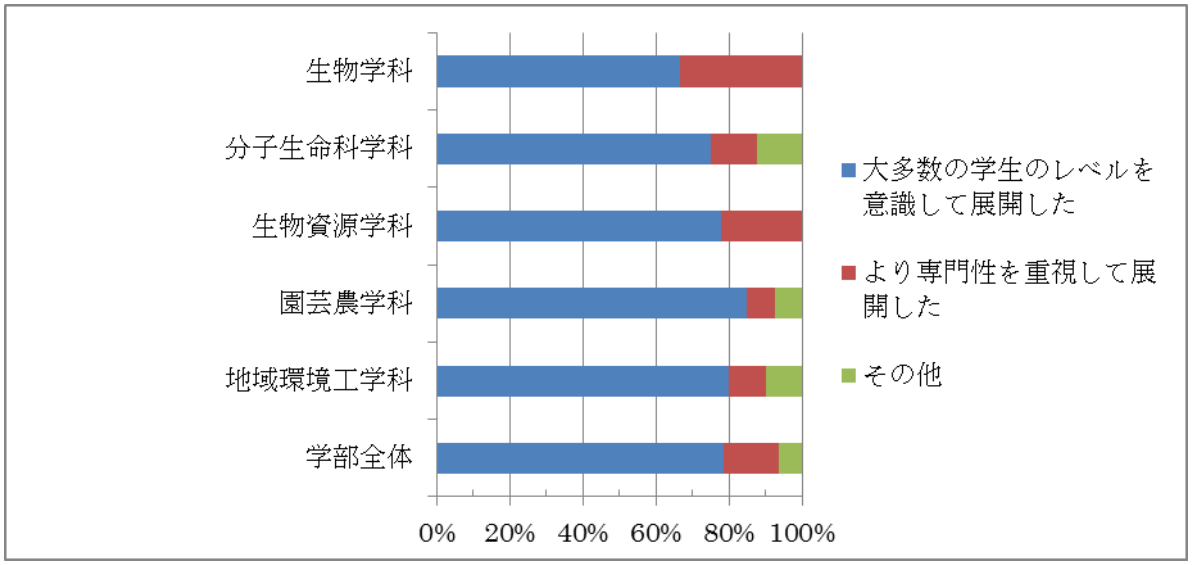


図 Ⅲ-2-6. 講義展開の考え方

全回答数は 46 である。学部全体では，78.2%が学生のレベルを意識した講義を行っており，昨年度 84%より若干低下したものの割合は大きい(一昨年度：84%)。学科別では，生物学科・生物資源学科では「専門性をより重視した講義」が，昨年度それぞれ 20%，18%から 33%，22%に増加した。

「その他」の回答
［分子生命科学科］
・できの悪い学生を意識している
［園芸農学科］
・ていねいに説明し，納得してもらう
・講義の内容を充実させる
［地域環境工学科］
・レベルと専門性のバランスを取って展開

設問 7. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。

1. **視聴覚教材（ビデオや DVD 教材など）の利用**
2. **画像データ（OHP，スライドプロジェクター，プレゼンテーションソフトなど）の提示**
3. **授業の合間に質疑や討論の時間を設けた**
4. **小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた**

5. 宿題（レポートを含む）を課した

6. その他（　　）

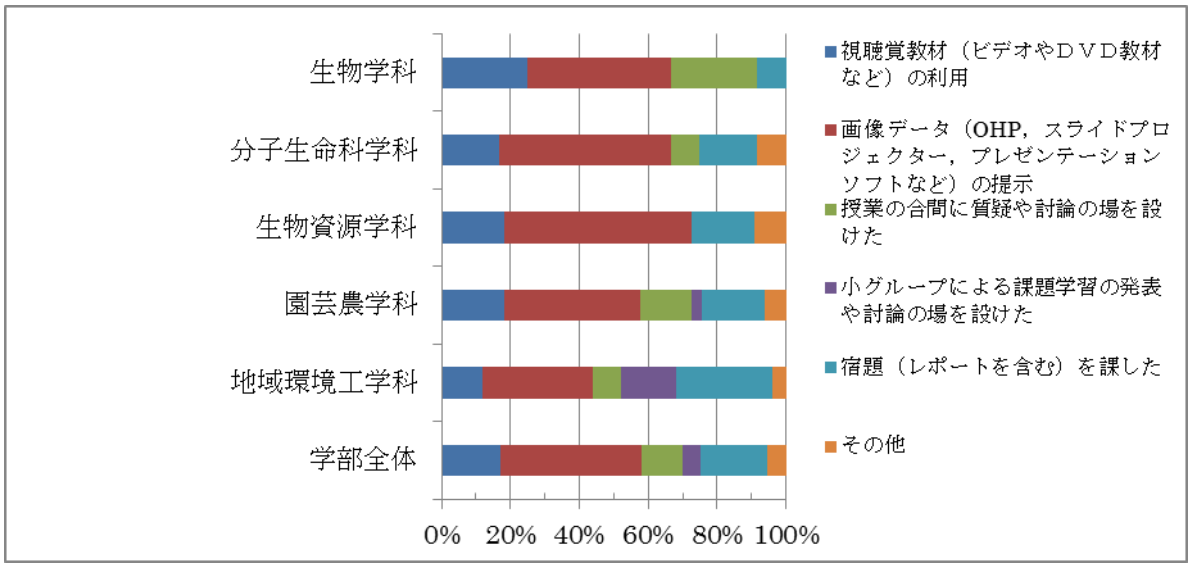


図 Ⅲ-2-7. 授業の工夫

回答は学部全体で 93 件に上った。全体では，「画像データの呈示」が最も多く昨年度同様の 40%あった(一昨年度：60%)。これと「視聴覚機材の利用」と併せ 58%（前年度：50%）に及び，これらが一般的に使われていることを示す。一方，「小グループによる課題学習の発表や討論の場を設ける」，「宿題を課す」が 24.7%(23 件）となって，昨年度（22.5%）以降多い状態が続いている。これは科目の単位取得が，授業受講だけでなく自己学習を含めたものであることから，授業外の学習を重視した取り組みが行われていることを表している。

「その他」の回答

[分子生命科学科]

・講義内容を減らす

[生物資源学科]

・練習問題の配布

[園芸農学科]

・小テスト

・実物を見せたり回覧したりした

設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが，そのような場合への対応として，どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

[生物学科]

・学生が理解するまで説明した

・答案は個別に採点理由を説明したうえで，返却している

・答案を全員に返却し，採点基準等を説明している

・疑義を持つ学生は聞いていない

・評価方法を講義の初回と最終回に説明すると同時に，テスト，レポートの採点結果を速やかに返却する
・相談に応じる。採点基準を示す
・試験や課題の返却・解説
・必要に応じ説明している

［分子生命科学科］
・疑義を持たれたことはありません。解答用紙を返却しているからかもしれません
・成績や評価といった低い次元のことを考えるのはやめ，学問をすることを勧める
・希望があればテスト（答案）を返却している
・資料を示して説明している
・事前に評価基準，採点方法について説明しておく
・学生が納得するまで説明する

［生物資源学科］
・常に質問に応じている
・期末試験終了後，答案返却と解答例の掲示と約 1 週間疑義照会を受け付けている
・できるだけ多面的に評価できるようにしている
・テスト内容の開示と全体のデータ開示
・テストの採点結果を見せて説明している
・詳しく採点や評価法を説明する

［園芸農学科］
・採点基準の公開
・疑義を持つ学生はいなかった
・個人的にも相談を受けた経験がない。個人レベルで解決できない相談が，もしあったとしたら，学部の申立制度を説明し，手続きするように勧める
・できるだけ誠実に対応する
・成績評価基準は，シラバスに記載し，その通りやっている。例年，どの程度の学生が「不可」になるか，口頭で言っている

［地域環境工学科］
・学生が理解するまで説明した
・答案は個別に採点理由を説明したうえで，返却している
・答案を全員に返却し，採点基準等を説明している
・疑義を持つ学生は聞いていない
・評価方法を講義の初回と最終回に説明すると同時に，テスト，レポートの採点結果を速やかに返却する
・相談に応じる。採点基準を示す
・試験や課題の返却・解説

・必要に応じ説明している

昨年度同様，成績評価に疑義を持つ学生に対して評価基準を説明・開示したり，理解するまで説明する，等の対応が非常に多い。さらに，答案の返却が行われるなど，さまざまな取組がなされており，多くの教員は学生の疑義に対し積極的に対応している。

設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために，このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

意見なし

設問 10. このアンケート調査の実施や内容について他にご意見がありましたらご記入下さい。

［園芸農学科］

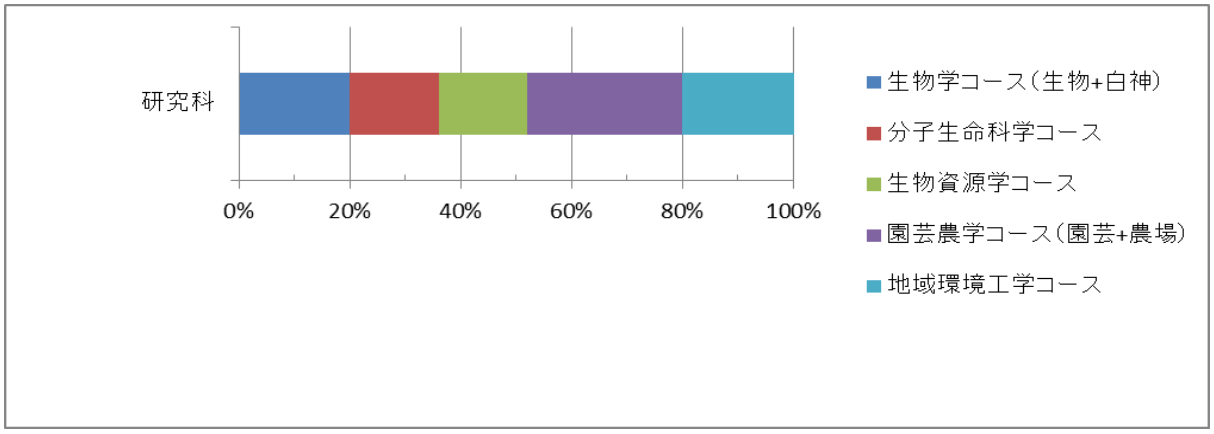
・教育効果は，自己満足であってはいけないと思う反面，その効果をどう評価するか？学生アンケートの内容で充分なのか

３．研究科授業に関する調査結果

設問 1. あなたが所属する学科等を選択して下さい。

表 Ⅲ-3-1. 回答数

所属	回答者数
生物学科	10
分子生命科学科	8
生物資源学科	8
園芸農学科	14
地域環境工学科	10
研究科全体	50



図Ⅲ-3-1. コース別回答割合

集計では，生物共生教育研究センターは園芸農学コースに，白神自然環境研究所は生物学コースに含んでいる。

研究科全体での回答割合は 68.5%で昨年度(65.8%)・一昨年度(69.8%)とほぼ同様である。

設問 2. 授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

(1) 予定回数（２単位 15 回とし，集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）

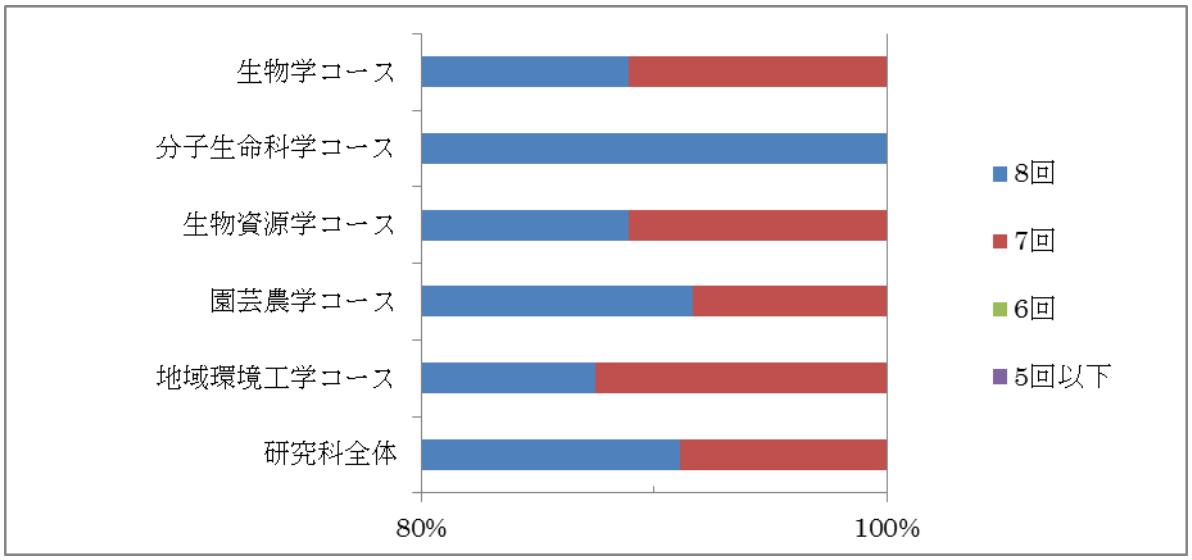


図 Ⅲ-3-2(1)．授業予定回数

全体回答数は 45 である。研究科全体で 授業予定回数は，8 回が 91%，7 回が 9%でほとんどが所定講義数を満たしている。なお，前年度と回答選択肢が異なるため年度間の比較はしていない。分子生命科学科では，回答者全員が 8 回としている。

(2) 実施回数（集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）

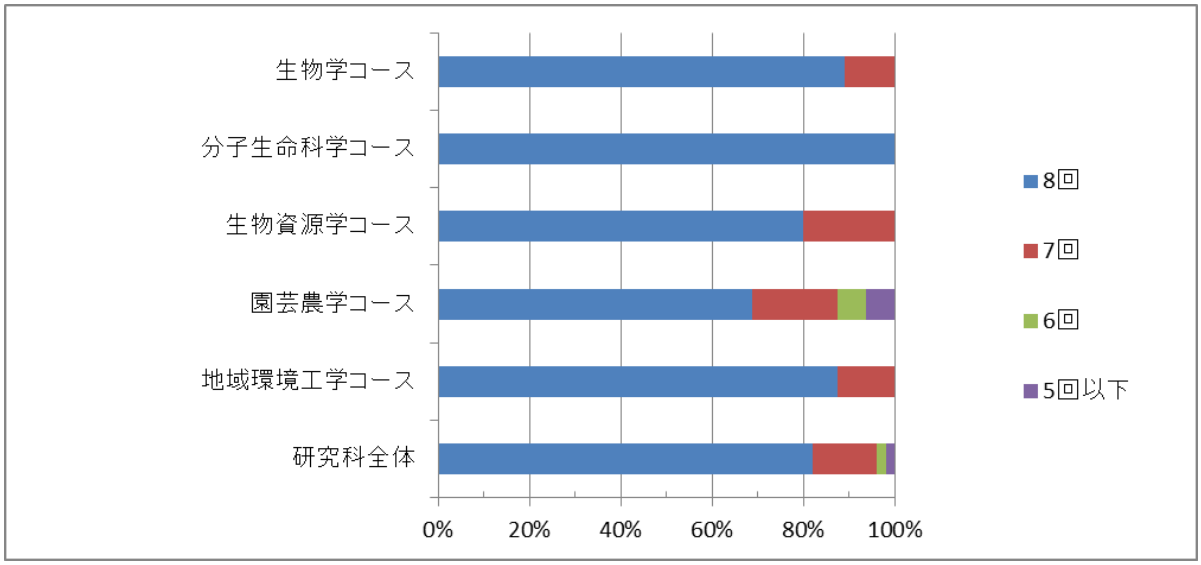


図 Ⅲ-3-2(2)．授業実施回数

全体回答数は 45 であった。研究科全体では 82%が 8 回講義をしている。分子生命では回答者全

員が 8 回実施している。なお，(1) と同様の理由で年度比較はしていない。園芸農学コースで 7 回以下が 33%(5 人)おり，6 回以下・5 回以下が各 1 名いる。

設問 3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

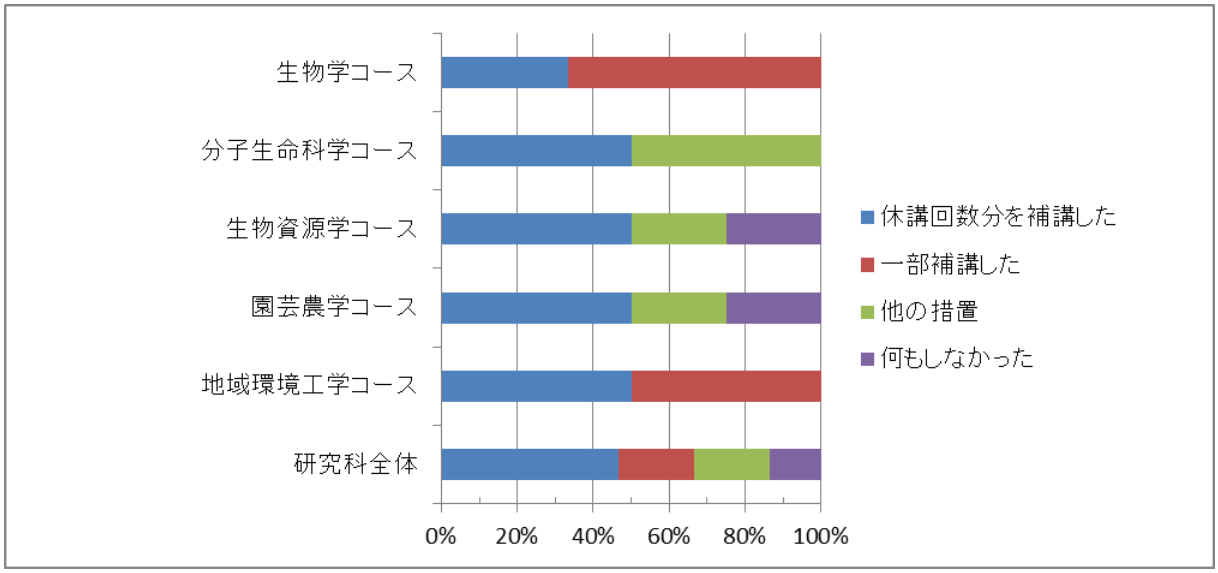


図 Ⅲ-3-3. 休講の代償措置

全回答数は 15 である（この数は昨年度の 1/3 である)。研究科全体では，一部補講も含め「補講した」が 67%で，昨年度(60%)と比較してやや上昇した(一昨年度：65%)。また，「何もしなかった」が研究科全体で 12%あるが，昨年度(20%)，一昨年度(20%) に比べ 8 ポイント減っている。コース別では，生物資源学コース・園芸農学コースで「何もしなかった」が各 1 名あった。

「他の措置」については，以下のようであった。

分子生命科学コース

・休講しなかった

生物資源学コース

・課題を提出させた

園芸農学コース

・課題を課した

設問 4. (1) シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

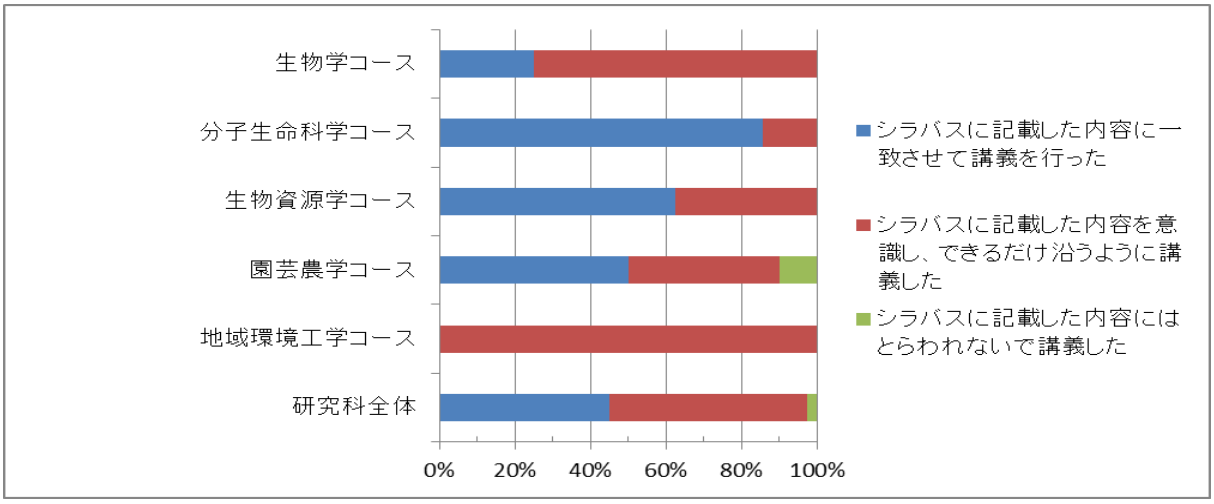


図 Ⅲ-3-4. シラバスと実際の授業内容との一致度合

全回答数は 40 である。研究科全体では，「シラバスと一致」，「できるだけ一致」と合わせると 98%で，昨年度（98%）と同じでほとんどを占める(一昨年度：83%)。大学院でもほぼシラバスに沿った講義が行われていることが分かる。園芸農学コースでは，シラバスに捉われない内容での講義が 1 件あった。理由は(2)に記載している。

(2) 上記で，「3. 内容にとらわれないで講義した」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

［園芸農学コース］

・あまりにも受講学生の専門が多様であったため

設問 5. (1) 本年度のシラバスの記載内容は前年度と同一でしたか。

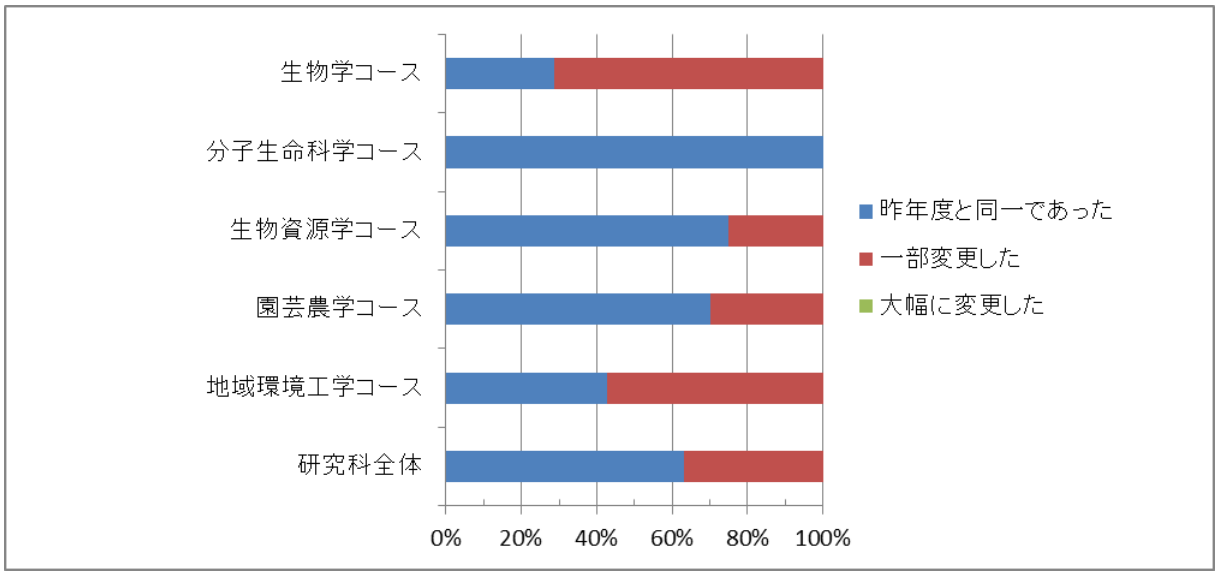


図 Ⅲ-3-5(1). 前年度のシラバスとの比較

全体回答数は 38 である。研究科全体で，「昨年度と同一」と「一部変更」がそれぞれ 63%，37%

であり（昨年度：95%，一昨年度：96%）、「大幅に変更」は無かった。シラバスを大きく変更しない状況で推移している。

(1)② 上記で，「2. 一部変更した。」または「3. 大幅に変更した。」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

[生物資源学コース]

・毎年，受講生に合わせて少しずつ替えているため

[園芸農学コース]

・内容更新

[地域環境工学コース]

・学生の興味を考えて一部追加した

・学生の専門を考慮した

・学生課題（レポート）を変えたので，一部の講義を変更した

(1)③ 上記の場合で、シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。

1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった 3. 教育効果は低下した
4. 分からない

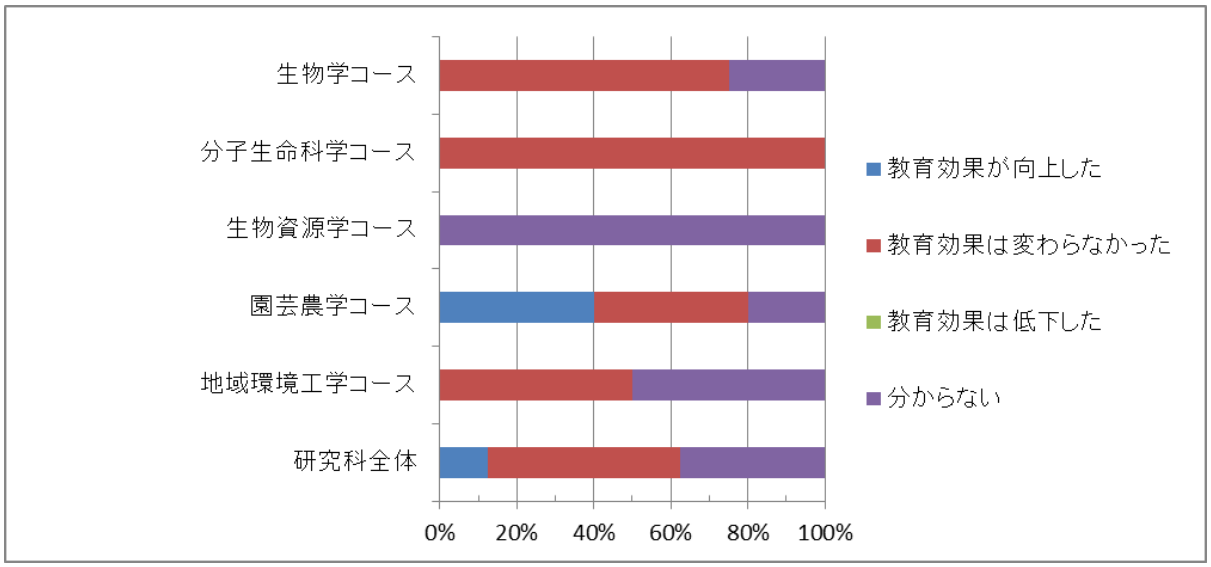


図 Ⅲ-3-5(2)．シラバス変更の教育効果

全回答数は 16 である。研究科全体で，「教育効果が向上した」と回答した件数(率)は 2 件(12.5%)のみであった（昨年度：6%，一昨年度：79%）。「教育効果は変わらなかった」が 50%を占めるが，①でシラバスが昨年度と同一の選択が多かったので当然とも言える。「分からない」が 6 件あったことは，変更が直ちに教育効果の改善に寄与したとは判断できないためもあろう。

設問 6．大学院の講義は平成 24 年度から、それ以前の前後期制に代わりクォーター制で実施されています。

① 3 年を経過して、クォーター制による講義は、教育効果にどうような影響を与えたとお考えですか？

1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった　3. 教育効果は低下した
4. 分からない

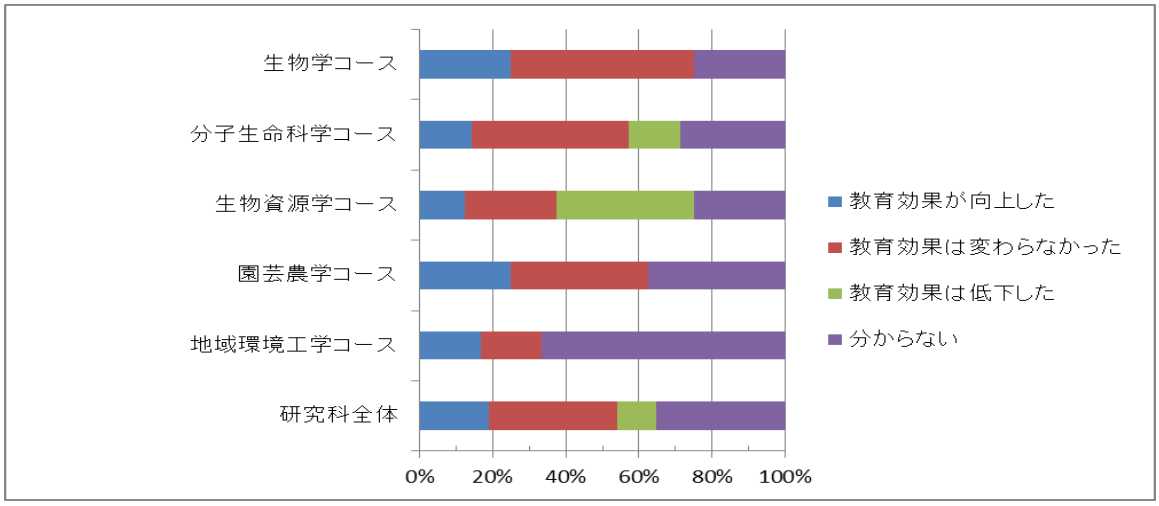


図 Ⅲ-3-6. クォーター制による教育効果

全回答数は 37 である。研究科全体で，クオーター制に対し「それ以前に比べ教育効果が向上」との指摘は 19%と昨年度(10%)よりやや向上した(一昨年度：25%)。逆に「低下した」が 11%と昨年度(20%)から半減している(一昨年度：6%)。分子生命科学・生物資源学各コースで「低下した」との回答が各 3 件，1 件あった。また、研究科全体で「分からない」が 35%で，昨年度の 54%よりは減っているものの割合は多い。これは、以前と講義内容構成が変わるなど効果の比較が難しいためと推定される。

②にも指摘あるように、集中的な講義、多様な科目が開講される利点、短期間細切れで専門性が不十分となる欠点など両面が挙げられる。

② 上記の設問で「１」あるいは「３」と回答した方は、そう判断した理由を教えて下さい。

[生物学コース]

・コマ数が多くなり，多様な科目を選択することができるようになった

・内容の濃い授業となった

[生物資源学コース]

・今までⅠとⅡを通して，体系的に教えていた内容が，ⅠとⅡにわかれ，それに伴い受講生も大巾に入れ替わるため，ⅠとⅡを別の内容で実施しなければならなくなった。その分，教育効果が低下していると考えている

・大学院生こそ，長い期間をかけて専門の授業を行うべきなのに，さらに短くして授業を行えば教育効果が低下するのは当然である

・集中して講義を受けているように思う

[園芸農学コース]

・学生の選択肢が増え，学習意欲が高いままに講義が終了する。中だるみがないので，それも良点ではないか

[地域環境工学コース]

・集中して講義したことにより，知識の定着が改善された

・2 単位制の時の講義内容を 2 つに分けた結果，1 単位分のみの受講がほとんどとなり，理解の程度が低下した

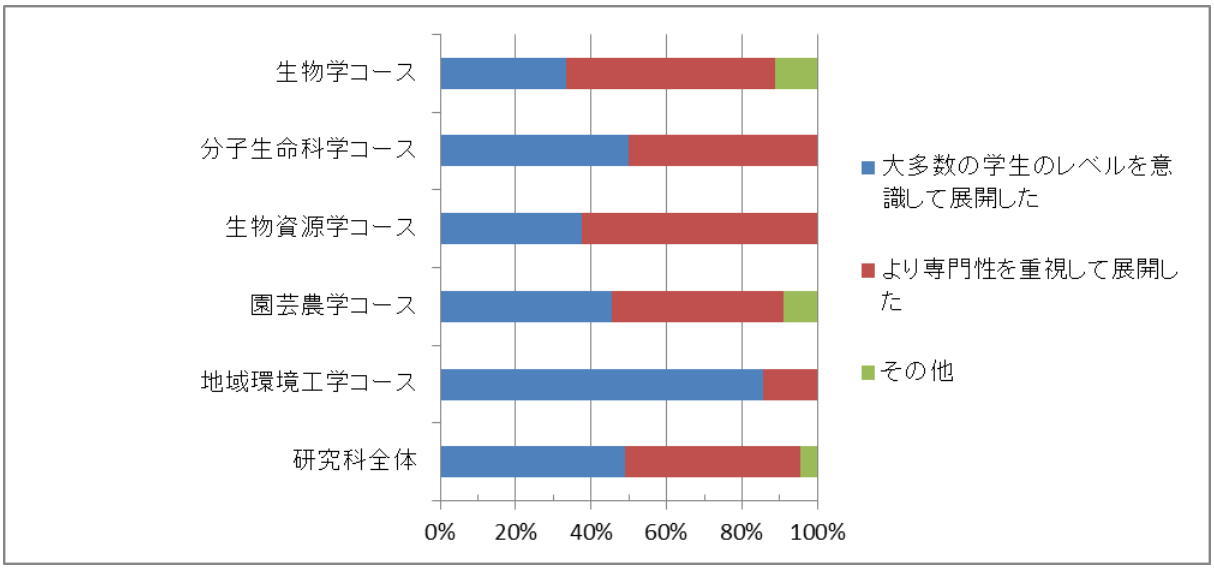
8 件の回答のうち，5 件で効果があったとし，3 件は低下したとの記述である。講義の選択肢が増えたことや，期間が短く集中した講義にできたことが肯定的理由である。一方，時間をかけ体系的に講義できなくなったことでの理解低下が懸念材料として挙げれらている。

設問 7．大学院の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

1．大多数の学生のレベルを意識して展開した

2．より専門性を重視して展開した

3．その他（　　）



図Ⅲ-3-7．講義についての考え方

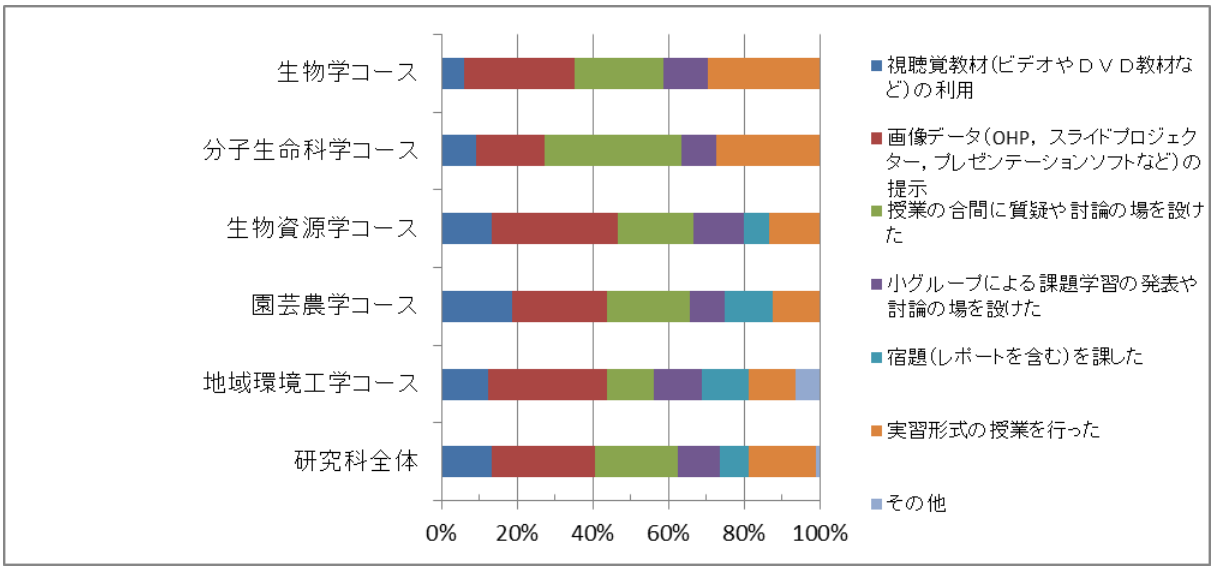
全回答数は 43 である。研究科全体では，「学生のレベルを重視」とした回答が 49%，「専門性重視」が 47%であり，昨年度の各回答（56%，42%）よりやや専門性重視が増えた。しかし，過去 3 年間で両者は概ね同程度と言える範囲にある（一昨年度：50%，40%）。

「その他」とした回答

［園芸農学コース］

・履修生の専門あるいは，意向・希望も考慮した

設問 8．学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。



図Ⅲ-3-8．授業の工夫

全体回答数は 91 件である。研究科全体で,「画像データ活用」・「視聴覚機材の利用」が計約 41%を占め，学部授業と同様である。「授業の合間に質疑・討論の場を設けた」，「小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた」,「実習形式の授業を行った」など学生の能動的学習としたケースが 51%に上り，昨年度の 40%よりさらに増加した(前々年度：29%)。コース別では，分子生命科学コースでこのような取り組みが 73%と最も多いが，全体的に約 5 割が実施している。

「その他」とした回答
[地域環境工学コース]
・現地研修（見学）

設問 9．成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが，そのような場合への対応として，どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

[生物学コース]
・今までにとくに無い（4 件)。
[分子生命科学コース]
・無し（2 件)。
・希望があればテスト（答案）を返却する
・事前に評価基準を説明する
・学生が納得するまで説明する
[生物資源学コース]
・できるだけ多面的（レポートと試験）に評価するように心がけている
・なぜ，そのような成績になったのかを説明する
・詳しく採点，評価法を説明する
[地域環境工学コース]
・学生が理解するまで説明する予定である

・レポート等を返却し，採点基準を説明している
・今までなし。もしあれば，相談する（話し合いに応じる）
・レポート返却，解説

全体で１６件の記述があり。「疑義を持つ事例無し」が 7 件と多い。また，「学生に説明する」が 6 件，「レポート等を返却する」が 3 件あった。

設問 10. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために，このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

回答なし

設問 11. このアンケート調査の実施や内容についてご意見がありましたらご記入下さい。

回答なし

Ⅳ　教員対象教育評価アンケート

１．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため学部教育に関する教員の意識について調査することを目的とした。

調査方法：アンケート用紙を各教員に配布して調査を行った。学生に対するアンケートの設問と共通項目を設けた。

調査対象：平成 28 年 3 月の時点で学部・遺伝子実験施設，生物共生教育研究センターおよび白神自然環境研究所に所属する教員とした。

調査期間：平成 28 年 2 月 8 日～2 月 22 日

調査対象教員数：70 名(学部)，73 名(研究科)，　有効回答者数：50 名(学部)，46 名(研究科)

調査項目：設問は以下の通りである。

設問 1．あなたの所属学科およびコースをお答えください。

設問 2．本学部および本研究科の理念，教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3．あなたが所属する学科・コースの教育目標を知っていますか。

設問 4．本学部の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

設問 5．あなたが所属する学科・コースの教育目標は学部ホームページにあるとおりですが，学科（21 世紀教育科目および専門教育科目）およびコースのカリキュラムはその目標によく合致すると感じていますか。

設問 6．あなたはシラバス作成時に,学科・コースの教育目的や教育目標に従った講義内容にしようとしていますか。

設問 7　① 授業内容がシラバス記載の内容と異なることをどのようにお考えですか。

② 何らかの理由で授業内容がシラバス記載の内容と異なった場合，あなたは受講生に対する説明の必要性についてどのようにお考えですか。

設問 8．本学では「授業方法改善のための学生による授業評価に関するアンケート調査」が平成 15 年度後期から実施されています。その結果についてお尋ねします。

①学生による授業評価の妥当性についてどのようにお考えですか。

②授業評価の結果を授業の改善に利用していますか。

設問 9．本学では授業改善のための各種の研修活動（ＦＤ活動）が行われています。

①この 1 年間でどのようなＦＤ活動に参加されましたか。参加された回数をお答え下さい（参加されなかった場合は０を記入して下さい)。

②参加された活動は，教育改善に役立ちましたか。

設問 10. 担当科目において学生の授業時間外の学習を促すためにどのような工夫をしていますか。

設問 11．①本学部の以下の施設と設備についてどのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

②上記で「4. やや不充分」と「5. かなり不充分」を選択した場合，その理由を次の欄に具体的に書いて下さい。

設問 12．① 卒業研究は必要であると思いますか。

② 上記のように回答した理由を下欄に分りやすく記入して下さい。

設問 13.　① あなたの学科の大多数の卒業生は，本学部での教育により大学卒業生に相応の知識と学力を身に付けたと思いますか。

②上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

設問 14.　① あなたのコースの大多数の修了生は，本研究科での教育により大学院修了程度の専門知識を身に付けたと思いますか。

② 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

２．調査結果

設問 1. あなたの所属学科およびコースをお答えください。

表 Ⅳ-1(1).　回答率

学科	教員数	回答数	回答率	H26 回答率
生物学科	14	8	57	69%
分子生命科学科	14	9	64	50%
生物資源学科	12	9	75	77%
園芸農学科	19	13	68	67%
地域環境工学科	11	11	100	100%
学部全体	70	50	71	69%

3 か年（平成 25～27 年）の学部全体の回答率を見ると，73%→69%→71%と推移した。学科毎に見ると，「地域環境工学科」（100%→100%→100%），「生物資源学科」（77%→77%→75%），「園芸農学科」(60%→58%→68%)，「分子生命科学科」(57%→50%→64%)，「生物学科」(79%→69%→57%）と推移している。なお，「生物共生教育研究センター」は「園芸農学科」に含めて集計している。

表 Ⅳ-1(2).　回答率(白神自然環境研究所教員を含む)

コース	教員数	回答数	回答率	H26 回答率
生物学コース	17	7	41%	-
分子生命科学コース	14	9	64%	-
生物資源学コース	12	7	58%	-
園芸農学コース	19	13	68%	-
地域環境工学コース	11	10	91%	-
研究科全体	73	46	69%	-

「白神自然環境研究所」の教員が大学院農学生命科学研究科の教育を担当としていることから，平成 27 年度より大学院農学生命科学研究科における回答率も調査した。なお，「白神自然環境研究所」は「生物学コース」に含めて集計している。

設問 2. 本学部および本研究科の理念，教育目的および教育目標を知っていますか。

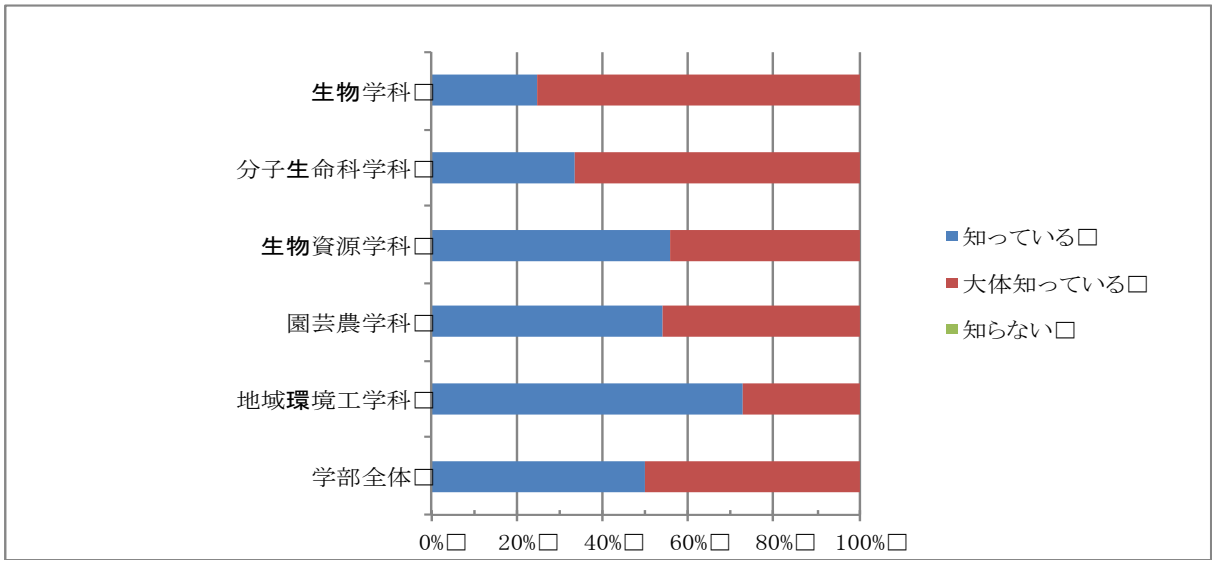


図 Ⅳ-2.　学部・研究科の理念・教育目的・教育目標の認知

学部・研究科の理念・教育目的・教育目標の認知について，3 か年の推移を学部全体で見ると，「知っている」(34%→45%→50%)，「大体知っている」(62%→55%→50%) と推移している。「知らない」は 0%である。回答した教員の全員が，学部と研究科の理念・教育目的・教育目標を概ね認知している。

3 か年の推移を学科別に見ると，「知っている」は「地域環境工学科」(70%→73%→73%)，「生物資源学科」(30%→50%→56%)，「園芸農学科」(22%→36%→54%)，「分子生命科学科」(29%→33%→33%)，「生物学科」(27%→22%→25%) となった。

設問 3. あなたが所属する学科・コースの教育目標を知っていますか。

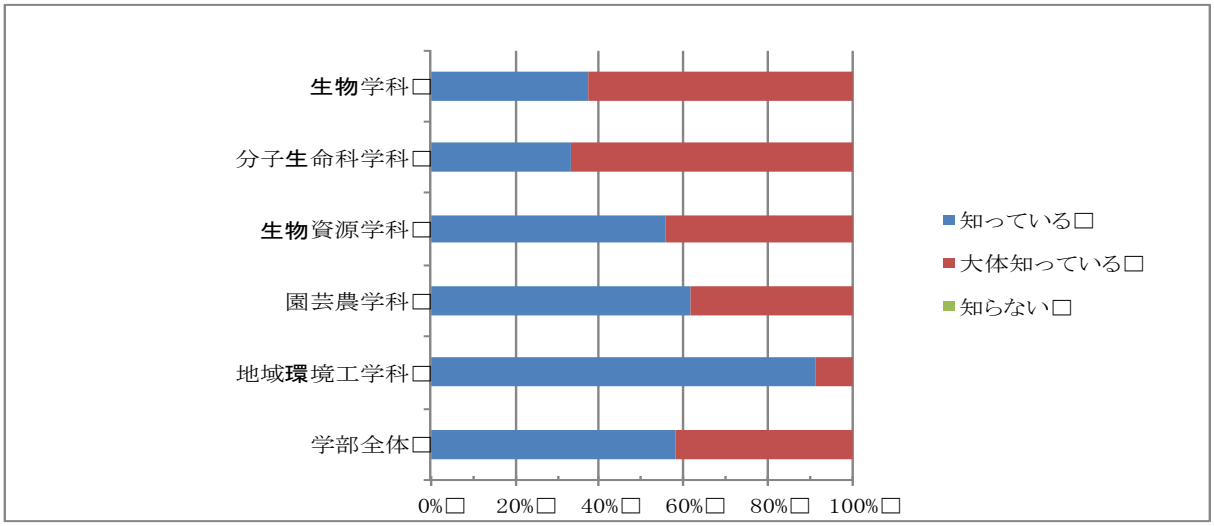


図 Ⅳ-3.　所属学科・コースの教育目標の認知

所属学科・コースの教育目標の認知について，3 か年の推移を学部全体で見ると，「知っている」

（41%→58%→58%），「大体知っている」（57%→42%→42%），「知らない」（2%→0%→0%）と推移しており，全教員が概ね認知している。

学科別に「知っている」の 3 か年の推移を見ると，「地域環境工学科」（80%→100%→91%），「園芸農学科」（44%→45%→62%），「生物資源学科」（30%→50%→56%），「生物学科」（27%→56%→38%），「分子生命科学科」（37%→29%→33%）と推移している。特に「地域環境工学科」に「知っている」の割合が高く出ている。

設問 4. 本学部の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

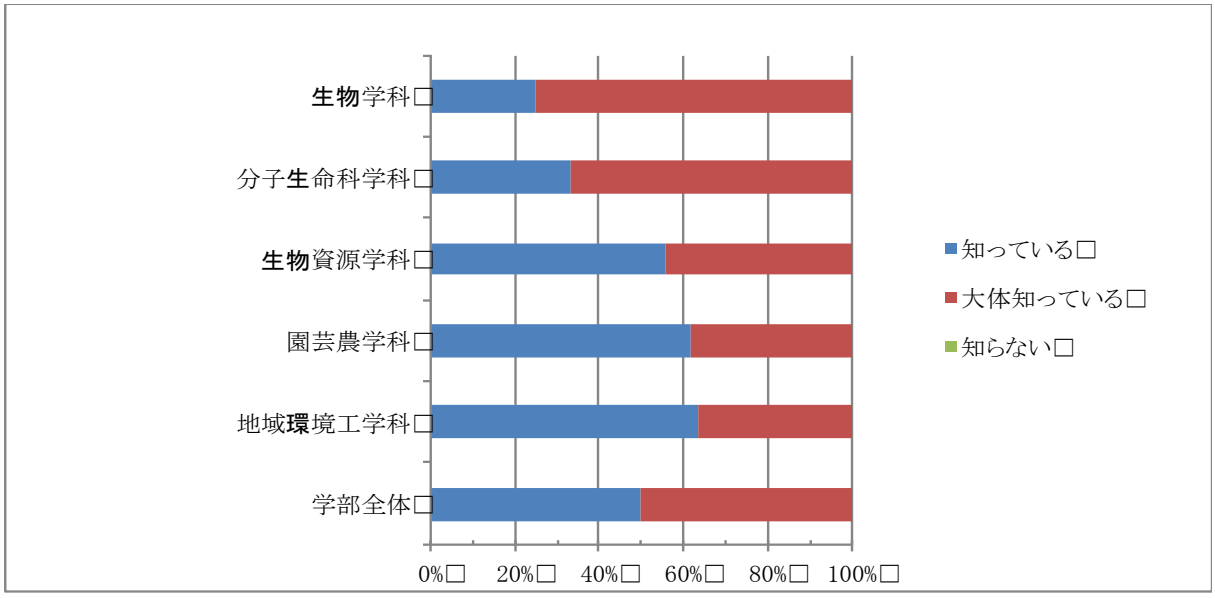


図 Ⅳ-4.　入学者受けれ方針の認知

アドミッションポリシーの認知について，3 か年の変化を学部全体で見ると，「知っている」（37%→42%→50%），「大体知っている」（59%→54%→50%），「知らない」（4%→4%→0%）と推移している。このように，教員全員が，アドミッションポリシーを概ね認知している。

「知っている」の比率を学科別に 3 か年で見ると，「地域環境工学科」（60%→55%→64%），「園芸農学科」（44%→55%→62%），「生物資源学科」（22%→30%→56%），「分子生命科学科」（43%→29%→33%），「生物学科」（27%→33%→25%）となる。

設問 5. あなたが所属する学科・コースの教育目標は学部ホームページにあるとおりですが，学科（21 世紀教育科目および専門教育科目）およびコースのカリキュラムはその目標によく合致すると感じていますか。

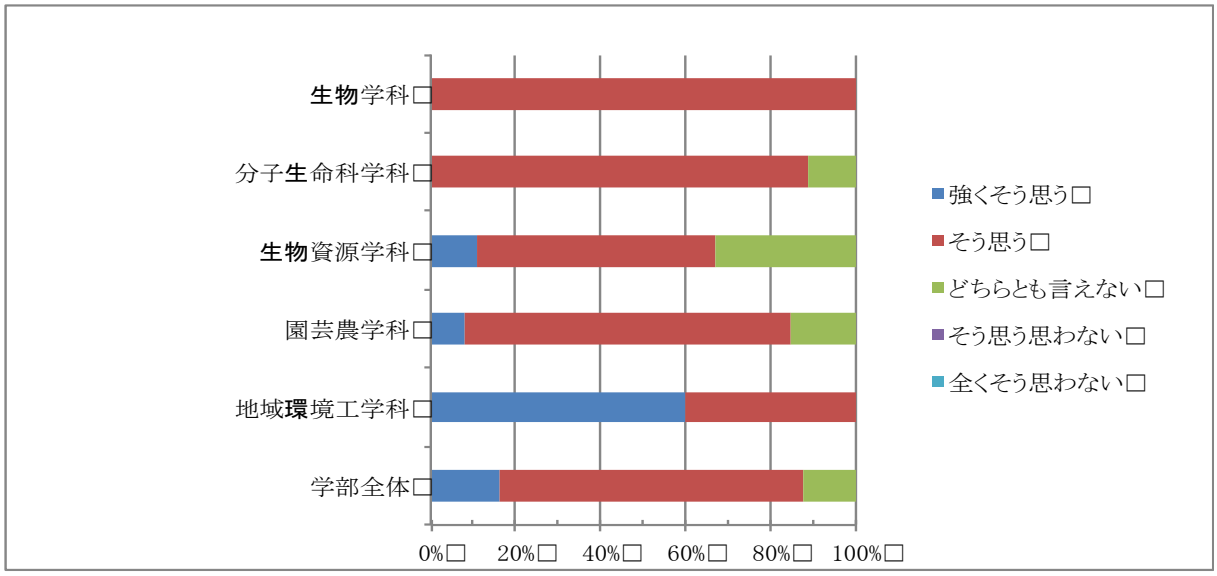


図 Ⅳ-5.　所属学科・コースの教育目標とカリキュラムとの合致

学部全体では肯定的評価（「強くそう思う」と「そう思う」）が 88%であり，ほとんどの教員が昨年度(90%)と同様，概ね合致すると考えている。

学科別の「肯定的評価」を 3 か年で見ると，「地域環境工学科」（100%→100%→100%），「園芸農学科」（89%→91%→85%），「生物学科」が（64%→89%→100%），「分子生命科学科」（100%→86%→89%），「生物資源学科」（70%→80%→67%）となっており，生物資源学科の肯定的評価は比較的低い傾向にある。

設問 6. あなたはシラバス作成時に，学科・コースの教育目的や教育目標に従った講義内容にしようとしていますか。

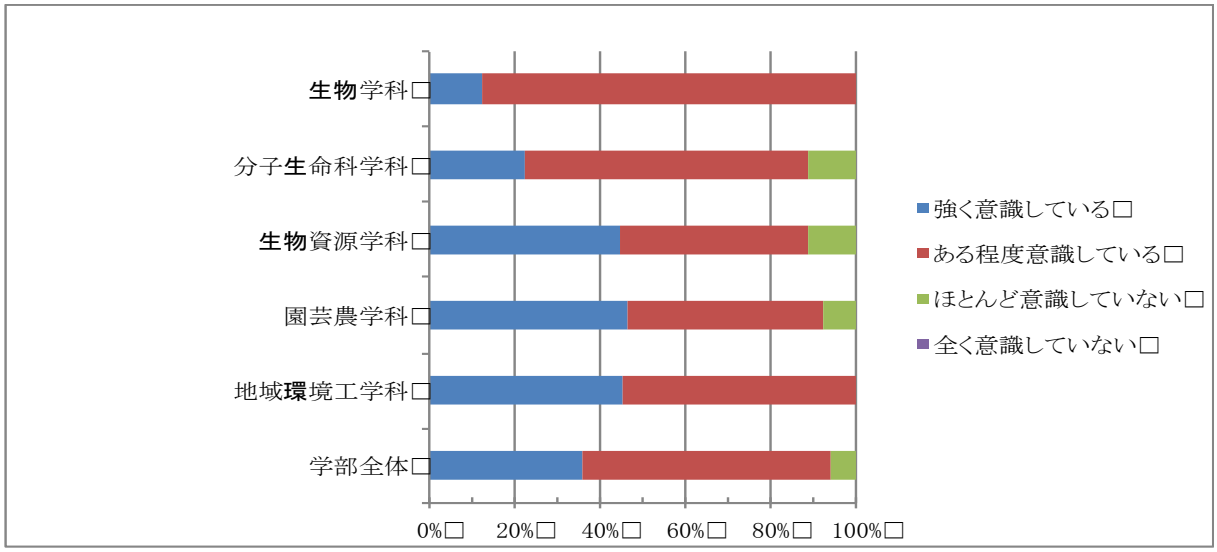


図 Ⅳ-6.　教育目的・目標に従ったシラバスの作成

3 か年で見ると，学部全体で 「強く意識している」(31%→23%→36%)，「ある程度意識している」(61%→71%→58%)と推移した。「強く」と「ある程度」意識している教員が 3 か年とも 9 割を超えており，全体として「教育目的・目標に従ったシラバスの作成」が意識されている。また，「全く意識していない」は 3 か年とも 0%であった。

学科別に「強く意識している」と「ある程度意識している」の合計割合を見ても，「生物学科」と「地域環境工学科」が 100%，「園芸農学科」が 92%，「分子生命科学科」と「生物資源学科」が 89%と，前回と同様，全学科で教育目的・目標にしたがったシラバスの作成が意識されている。

設問 7. ①授業内容がシラバス記載の内容と異なることをどのようにお考えですか。

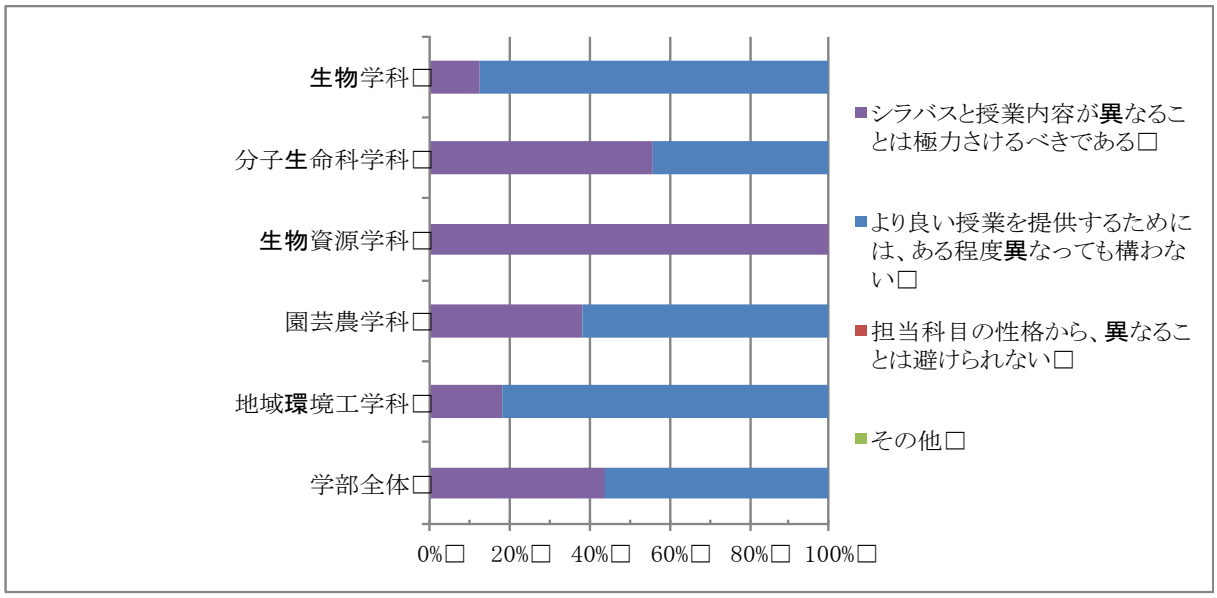


図 Ⅳ-7(1). シラバスと実際の授業内容の不一致に対する見解

3 か年で見ると，学部全体で，「極力さける」(47%→48%→44%)，「より良い授業を提供するためには，ある程度異なってもかまわない」(49%→50%→56%)，「担当科目の性格から，異なることは避けられない」(2%→0%→0%) と推移している。このように教員の意見は，「極力さける」と「ある程度異なっても構わない」に分かれている。

学科別の 3 か年の推移は以下の通りである。

「生物資源学科」では「極力さける」80%→100%→100%，「ある程度異なっても構わない」20%→0%→0%，「分子生命科学科」では「極力さける」63%→57%→56%，「ある程度異なってもかまわない」38%→43%→44%，「地域環境工学科」では「極力さける」30%→36%→18%，「ある程度異なっても構わない」70%→64%→82%，「園芸農学科」では「極力さける」44%→27%→38%，「ある程度異なっても構わない」56%→73%→62%，「生物学科」では「極力さける」10%→22%→12.5%，「ある程度異なってもかまわない」70%→76%→88%となった。

昨年度と同様に「極力さける」が 100%を占める学科（「生物資源学科」）もあるが，「ある程度異なってもかまわない」が多数を占める学科（「生物学科」・「園芸農学科」・「地域環境工学科」）もある。シラバスは学生との約束事であり，教員が約束を違えることを極力さけようとするのは

当然である。しかし，教育効果を上げるために変更が必要になることもある。どちらに力点を置くのかの違いはあるが，教員は全体として「変更を極力さけつつも，必要なら変更してもよい」と柔軟に考えていることが示されている。

設問 7. ②何らかの理由で授業内容がシラバス記載の内容と異なった場合，あなたは受講生に対する説明の必要性についてどのようにお考えですか。

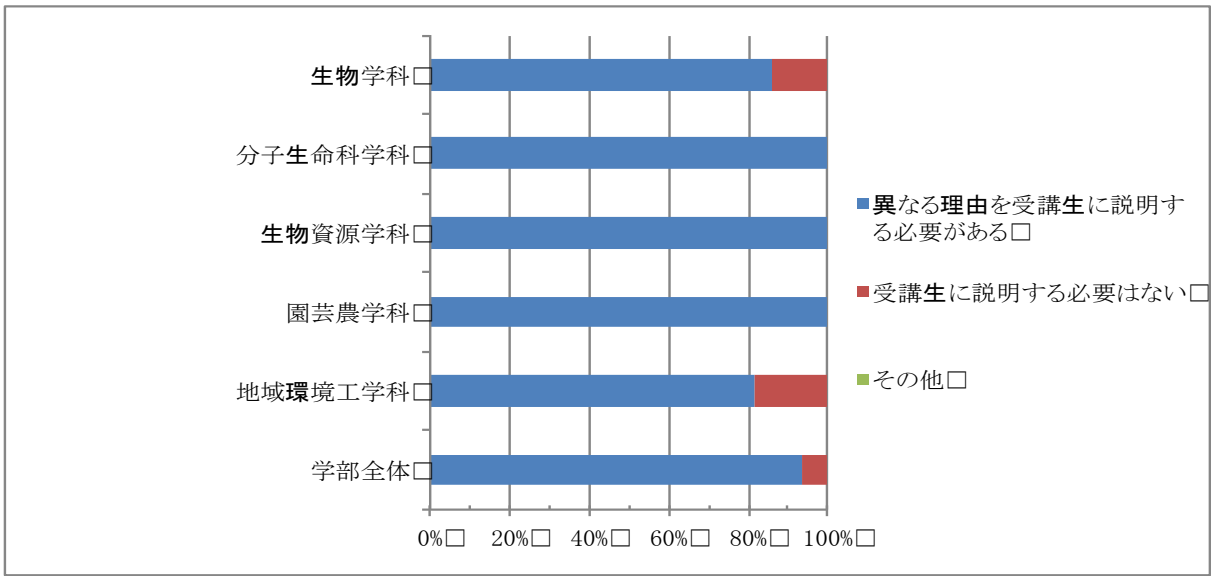


図 Ⅳ-7(2). シラバスと授業内容が異なる場合の受講生への説明

「異なる理由を受講生に説明する必要がある」が 94%と大勢を占めている。しかし，「説明する必要はない」との意見も 6%ある。

「その他」の「自由記述欄」には，「大幅な変更とは考えていないので説明する必要がない」（「地域環境工学科」）との記述があった。

設問 7. ③上記の質問で２．と回答した理由を教えて下さい。

「受講生に説明する必要はない」と考える理由の記述はなかった。

設問 8. 本学では「授業方法改善のための学生による授業評価に関するアンケート調査」が平成15 年度後期から実施されています。その結果についてお尋ねします。

① 学生による授業評価の妥当性についてどのようにお考えですか。

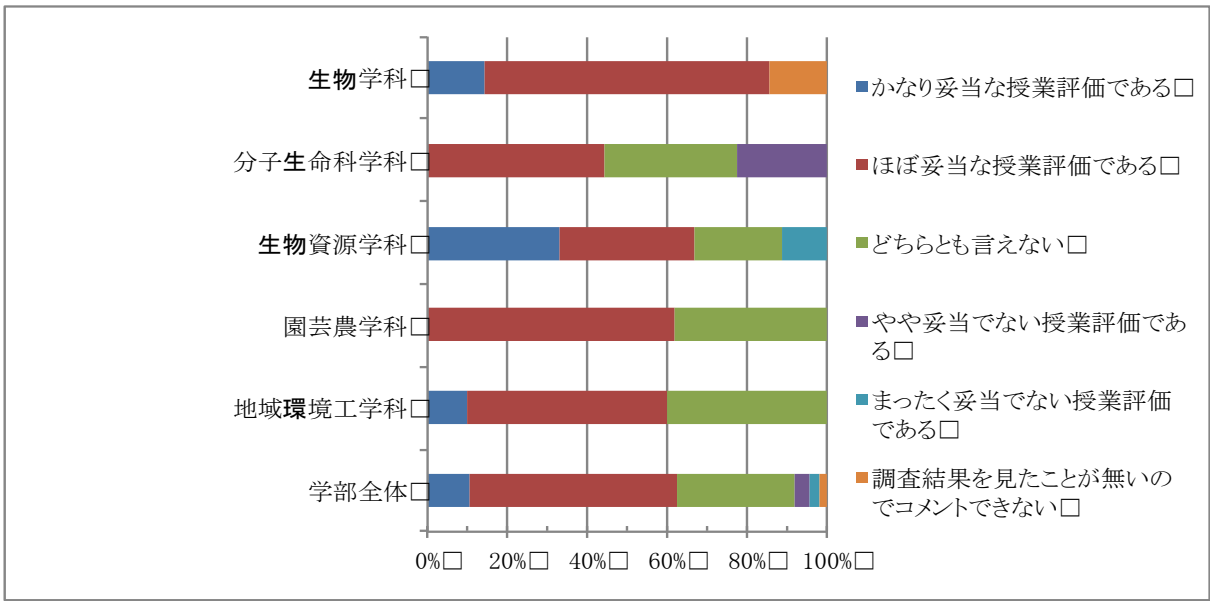


図 Ⅳ-8(1). 学生による授業評価アンケートの妥当性

3 か年で見ると学部全体では,「かなり妥当」と「ほぼ妥当」の合計は 63%→58%→63%と推移した。「やや妥当でない」と「まったく妥当でない」の合計は，18%→4%→6%と推移した。このように，63%の教員は学生による授業評価を概ね妥当だと肯定的に受け止めているが，29%の教員は「どちらとも言えない」と懐疑的である。否定的な意見は 6%,「コメントできない」は 2%であった。全体として教員は,学生による授業評価に対して,「受け止めなければならないが，鵜呑みにはできない」と考えていると見られる。

「かなり妥当」と「ほぼ妥当」の合計の 3 か年の変化を学科別に見ると,「生物学科」(91%→89%→86%)，「生物資源学科」(50%→50%→67%)「園芸農学科」，(66%→82%→61%)，「地域環境工学科」(70%→36%→60%)，「分子生命科学科」(38%→29%→44%) となっている。「学生による授業評価」への信頼感の度合いは，「生物学科」に高く出る傾向にあるり,「分子生命科学科」に低く出る傾向にある。

②授業評価の結果を改善に利用していますか。

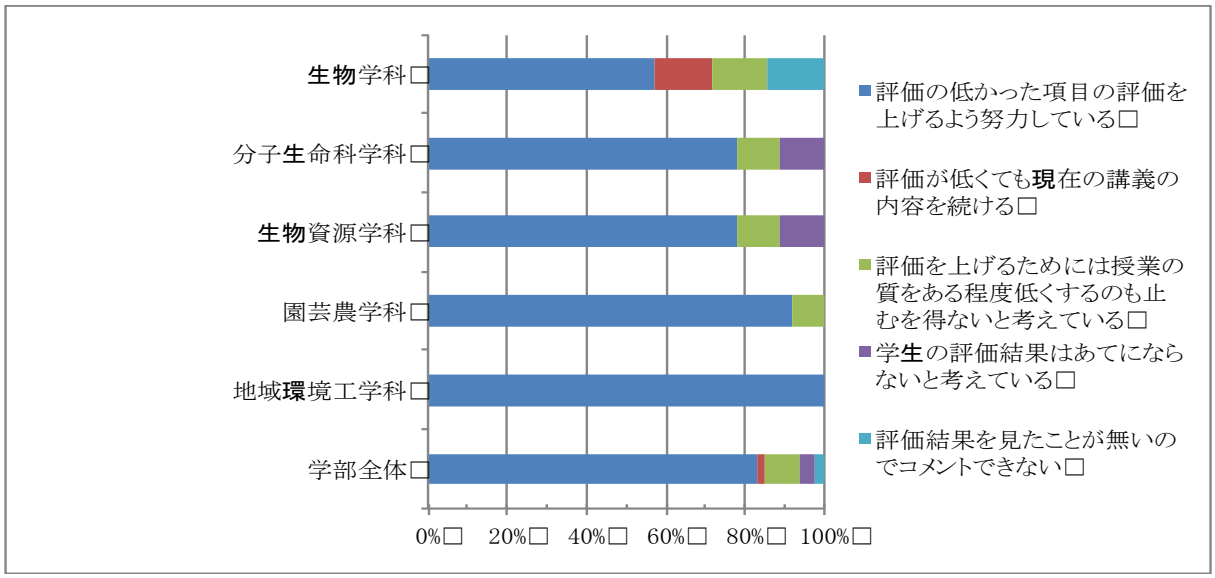


図 Ⅳ-8(2). 学生による授業評価結果の授業改善への利用

3か年で見ると，学部全体では，「評価の低かった項目の評価を上げるよう努力している」(80%→83%→83%)，「評価が低くても現在の講義の内容を続ける」(2%→2%→2%)，「評価を上げるためには授業の質をある程度低くするのもやむを得ない」(8%→7%→9%)，「学生の評価結果はあてにならない」(8%→2%→4%)，「評価結果を見たことがないのでコメントできない」(2%→7%→2%) となった。

設問 9. 本学では授業改善のための各種の研修活動（ＦＤ活動）が行われています。
①この１年間でどのようなＦＤ活動に参加されましたか。参加された回数をお答え下さい。
（参加されなかった場合は０を記入して下さい）。

1. 学部主催のＦＤ活動

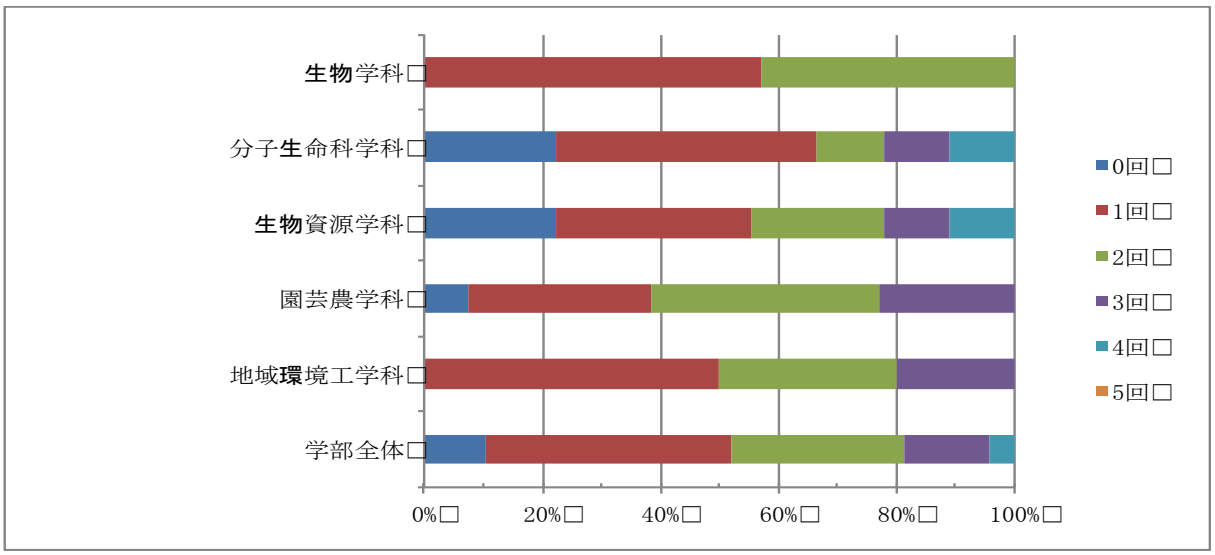


図 Ⅳ-9(1). 学部主催のＦＤ活動への参加回数

学部主催のＦＤ活動への参加回数毎の集計を 3 か年で見ると，学部全体で 0 回（19%→9%→10%），１回（30%→9%→42%），2 回（47%→9%→29%），3 回（13%→9%→2%），であり，1 回以上参加した教員が 90%を占めている。

学部全体の延べ参加回数を 3 か年で見ると 74 回→80 回→77 回と推移した。1 教員当たりの参加回数を 3 か年で見ると，学部全体では 1.5 回→1.7 回→1.5 回と推移した。

2. 学科主催のＦＤ活動

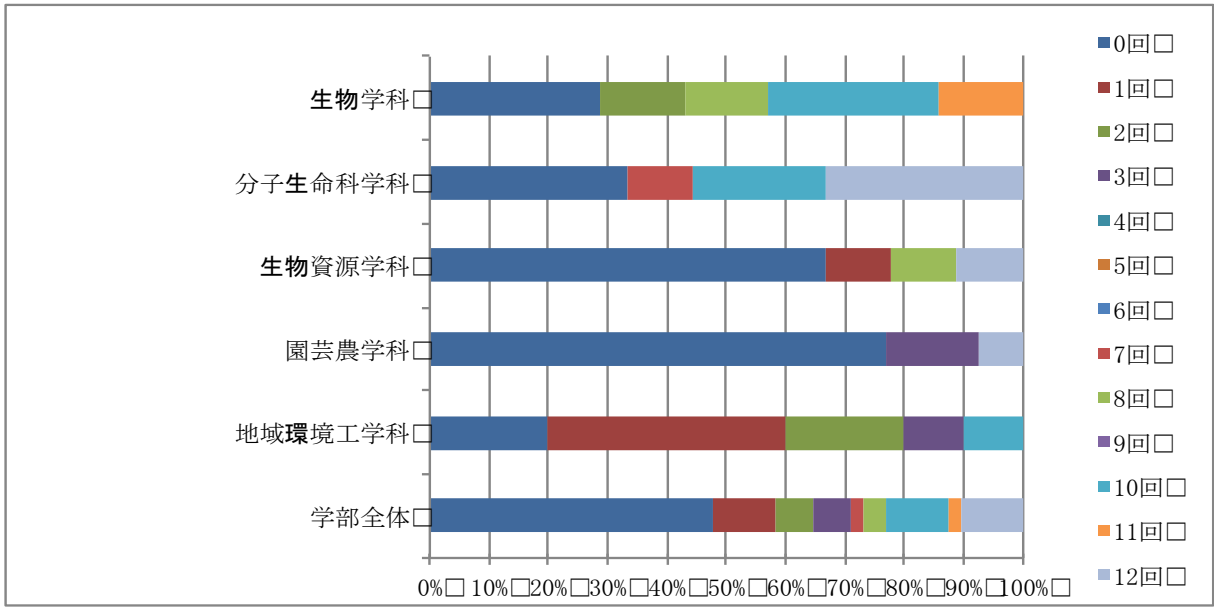


図 Ⅳ-9(2)．　学科主催のＦＤ活動への参加回数

学科主催のＦＤ活動への参加回数は，多い教員で 12 回である。学科別の 1 教員当たりの参加回数を 3 か年で見ると，「分子生命科学科」（6.3 回→6.4 回→7.0 回），「生物学科」（2.7 回→4.6 回→5.9 回），「生物資源学科」（1.4 回→1 回→2.3 回），「地域環境工学科」（1.4 回→1.4 回→2.1 回），「園芸農学科」（1.1 回→2.5 回→1.4 回）となっている。「分子生命科学科」や「生物学科」が顕著に多く，その他の学科が少ないことが認められた。

3. その他の活動

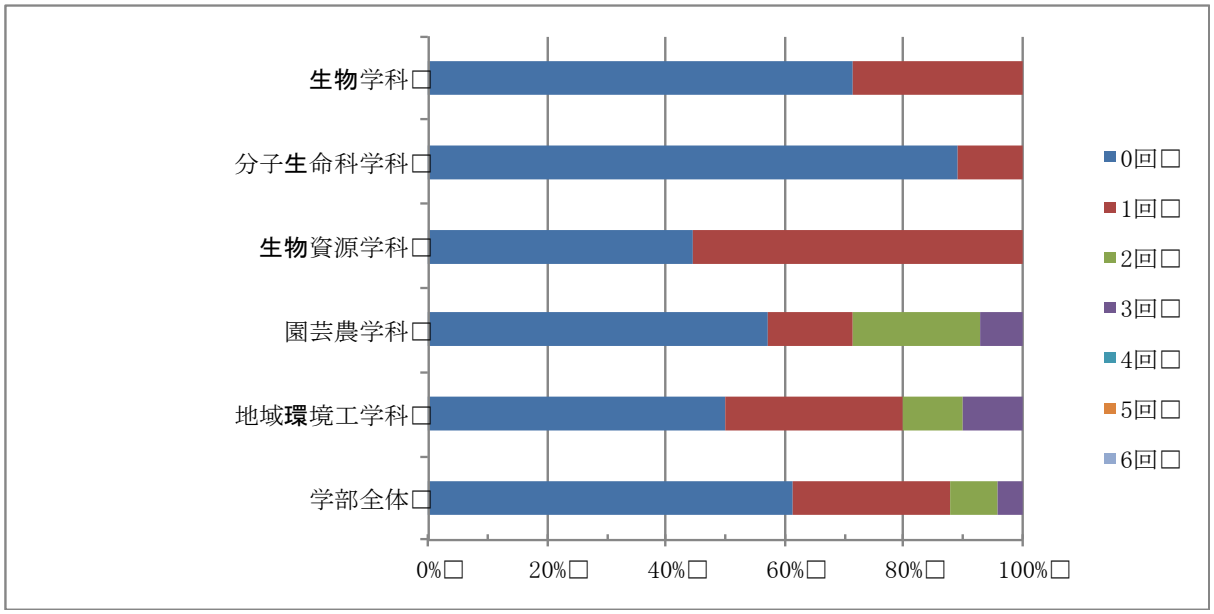


図 Ⅳ-9(3)-1.　その他の活動への参加回数

その他のＦＤ活動とは，大学全体のＦＤ活動や学外でのＦＤ活動である。参加回数毎に 3 か年で見ると，学部全体では 0 回（64%→79%→61%），1 回（24%→4%→27%），2 回（10%→15%→8%），4 回（2%→0%→0%），5 回（0%→2%→0%）となる。

学科別の回答者 1 人当りの平均参加回数を 3 か年で見ると，「生物学科」(0.4 回→0.9 回→0.3 回)，「園芸農学科」(0.4 回→0.7 回→0.8 回)，「地域環境工学科」(0.5 回→0.4 回→0.8 回)，「生物資源学科」(0.6 回→0.1 回→0.6 回)，「分子生命科学科」(0.5 回→0 回→0.1 回）と推移している。約 6 割の教員が，学部や学科の主宰ではないＦＤ活動へ参加していないことが認められる。

②参加された活動は，教育改善に役立ちましたか。

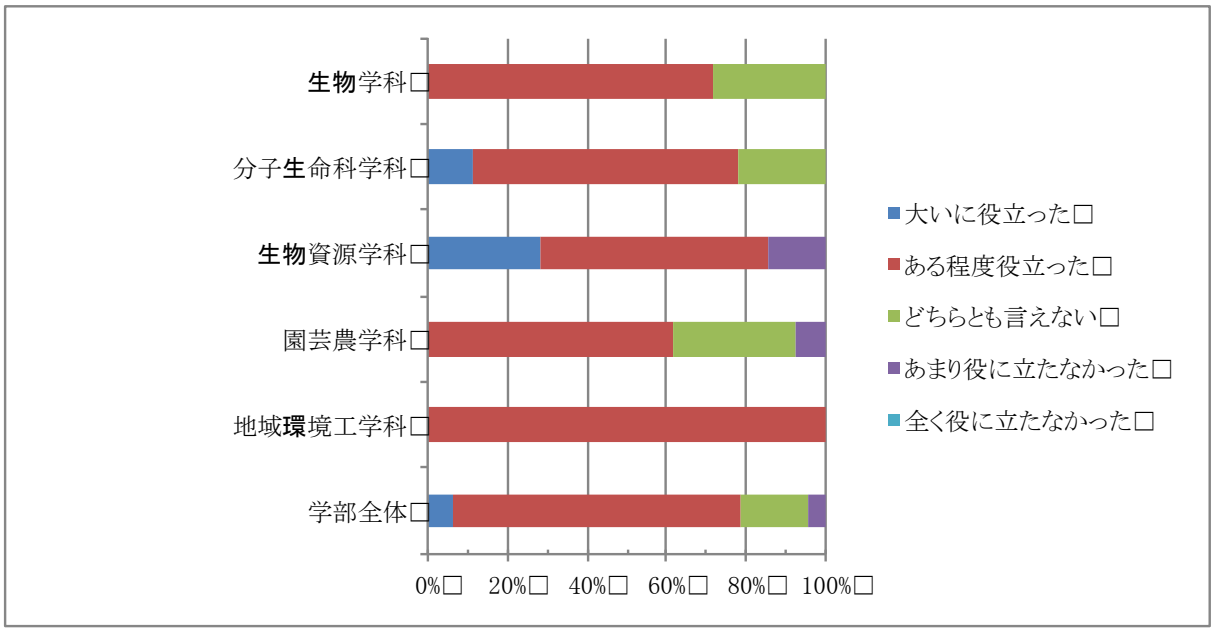


図 Ⅳ-9(3)-2.　参加したＦＤ活動の教育改善効果

学部全体では，肯定的評価（「大いに役立った」7%，「ある程度役立った」72%）が 79%（昨年度 87%）であった。8 割に近い教員がＦＤ活動の教育改善効果を認めているが，「どちらとも言えない」（17%）や「あまり役に立たなかった」（4%）という評価もあった。

学科別に 3 か年で見ると，「地域環境工学科」（90%→91%→100%），「園芸農学科」（78%→82%→89%），「生物資源学科」（80%→89%→86%），「分子生命科学科」（75%→67%→78%），「生物学科」（80%→100%→71%）であった。

設問 10. 担当科目において学生の授業時間外の学習を促すためにどのような工夫をしていますか。

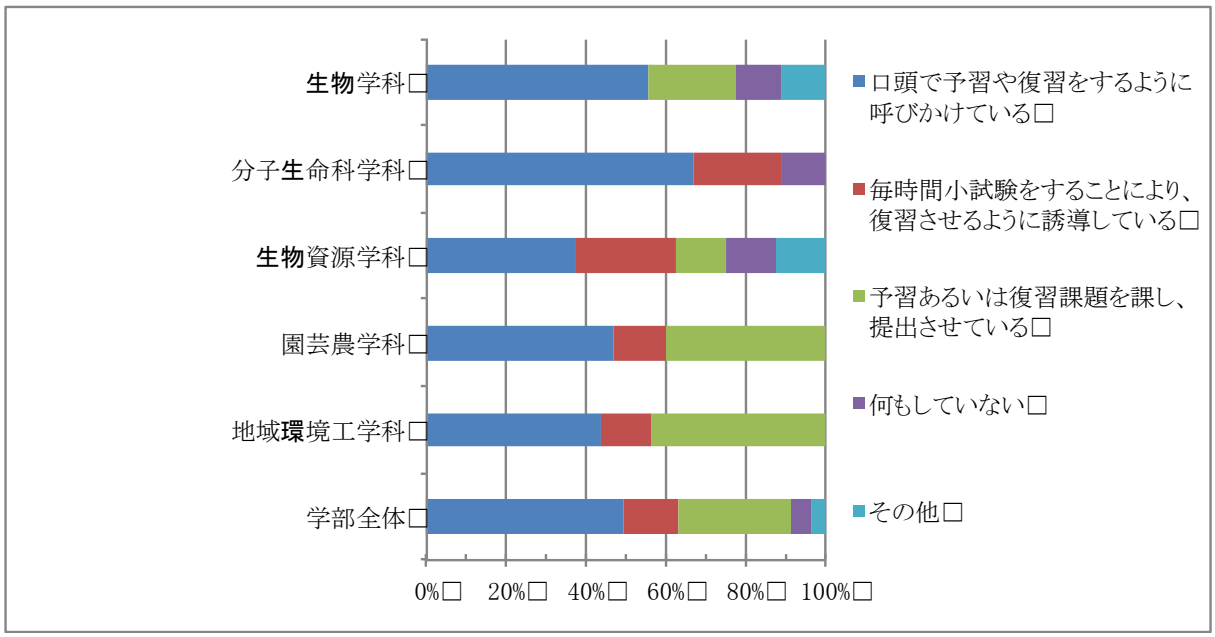


図 Ⅳ-10.　学生に対する時間外学習の促進方法

3 か年の推移を見ると，学部全体では，「口頭での予習・復習の呼びかけ」（35%→45%→49%），「小試験で復習を誘導する」（21%→14%→14%），「予習・復習課題を課す」（30%→17%→28%），「何もしていない」（9%→12%→5%），その他（5%→12%→4%）であった。このように，多くの教員（96%）が時間外学習を促している。

「その他」の自由記述欄には，「本年は演習・実習科目のみ担当のため特別何もしていない」（レポートのみ）（生物学科），「教科書の練習問題や別に配布する練習問題で復習するように呼びかけている」（分子生命科学科）との記述があった。

設問 11. ① 本学部の以下の施設と設備についてどのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

1. 講義室

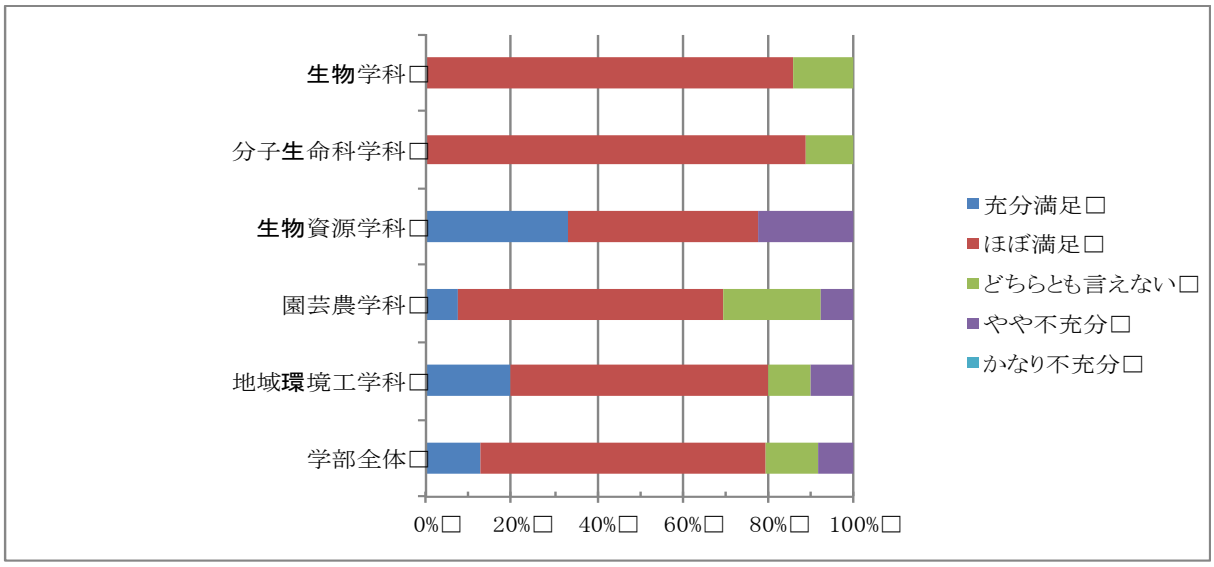


図 Ⅳ-11(1). 講義室

講義室について,3 か年で見る。まず学部全体を見ると,「充分満足・ほぼ満足」(73%→77%→79%),「どちらとも言えない」(7%→13%→13%),「やや不充分」(20%→10%→8%),「かなり不充分」(0%→0%→0%) であった。

「充分満足」・「ほぼ満足」を学科別に見ると,「分子生命科学科」(88%→100%→89%),「生物学科」(91%→89%→86%),「地域環境工学科」(70%→82%→80%),「生物資源学科」(60%→70%→78%),「園芸農学科」(67%→55%→69%) となった。このように多くの教員が概ね満足している。

2. 図書閲覧室

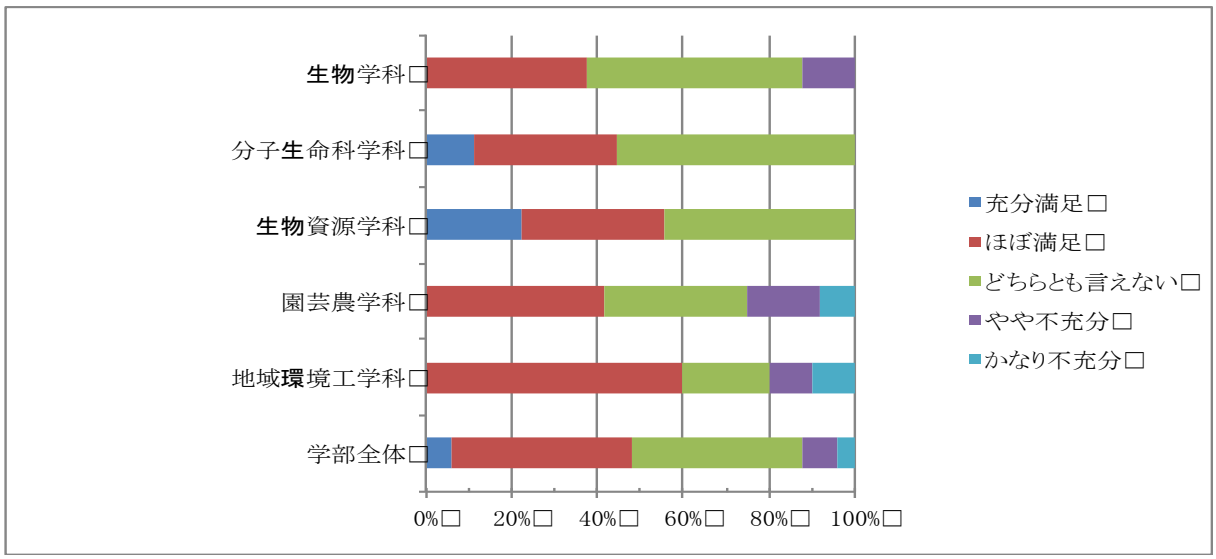


図 Ⅳ-11(2). 図書閲覧室

図書閲覧室について，学部全体で 3 か年で見ると，「充分満足・ほぼ満足」（51%→51%→48%），「どちらとも言えない」（29%→30%→40%），「やや不充分」（8%→13%→8%），「かなり不充分」（12%→6%→4%）と推移している。このように，約半数の教員が満足していない。

「充分満足」と「ほぼ満足」の合計を学科別に 3 か年で見ると，「分子生命科学科」（50%→71%→67%），「地域環境工学科」（70%→64%→60%），「生物資源学科」（70%→44%→56%），「園芸農学科」（33%→36%→42%），「生物学科」（45%→44%→36%）と推移している。「かなり不充分」と「やや不充分」の合計は，「園芸農学科」（33%→36%→25%），「地域環境工学科」（10%→9%→20%），「生物学科」（36%→11%→13%），「分子生命科学科」（13%→14%→0%），「生物資源学科」が（10%→22%→0%）と推移している。「分子生命科学科」と「生物資源学科」の満足度が非常に低いことが示された。

3. 実験・実習室

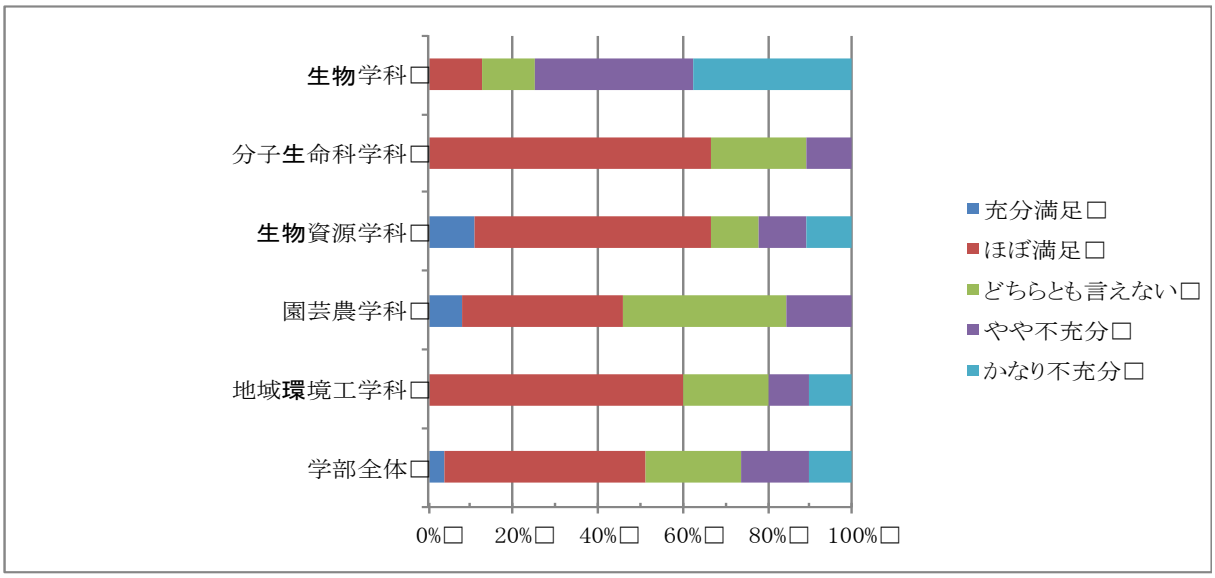


図 Ⅳ-11(3)． 実験・実習室

実験・実習室について，3 か年で見ると，学部全体では「充分満足・ほぼ満足」（57%→56%→51%），「どちらとも言えない」（14%→17%→22%），「かなり不充分・やや不充分」（29%→27%→27%）と推移している。このように，約半数の教員（49%）が「満足」していない。

学科別に「充分満足」・「ほぼ満足」を見ると，「分子生命科学科」（75%→57%→67%），「生物資源学科」（70%→60%→67%），「地域環境工学科」（80%→70%→60%），「園芸農学科」（78%→73%→46%），「生物学科」（9%→22%→13%）であった。「生物学科」の満足度が 3 年連続で極めて低い点が特徴的である。「かなり不充分・やや不充分」は，「生物学科」（82%→67%→75%），「生物資源学科」（20%→30%→22%），「地域環境工学科」（10%→18%→20%），「園芸農学科」（22%→9%→15%），「分子生命科学科」（0%→18%→11%）と推移した。「生物学科」に不充分と考える教員割合が高い。

4. 情報処理演習室

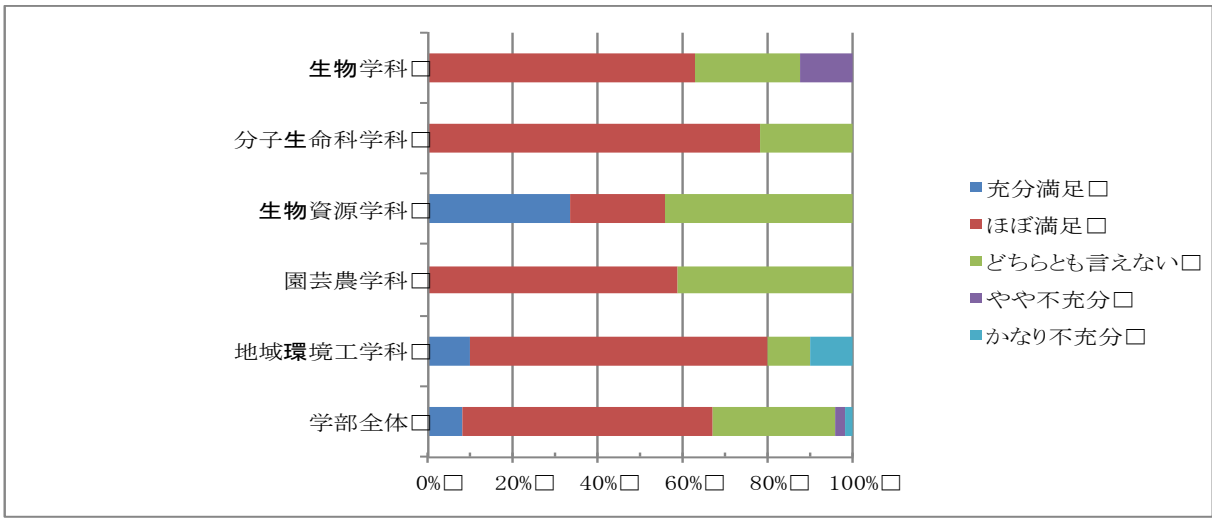


図 Ⅳ-11(4). 情報処理演習室

情報処理演習室について 3 か年で見ると,学部全体では「充分満足・ほぼ満足」(60%→55%→67%),「どちらとも言えない」(34%→36%→29%),「かなり不充分・やや不充分」(6%→9%→4%)と推移した。肯定的評価は 67%であり，3 割近くの教員（29%）が「どちらとも言えない」と考えている。

学科別に「充分満足・ほぼ満足」を見ると,「地域環境工学科」(50%→82%→80%)，「分子生命科学科」(50%→71%→78%),「生物学科」(90%→56%→63%),「園芸農学科」(71%→27%→58%),「生物資源学科」(50%→27%→56%）と推移した。「かなり不十分・やや不十分」は,「生物学科」(0%→0%→13%)，「地域環境工学科」(20%→18%→10%),「分子生命科学科」（0%→14%→0%），「園芸農学科」(0%→9%→0%)，「生物資源学科」が（10%→0%→0%）であった。

5. 研究室

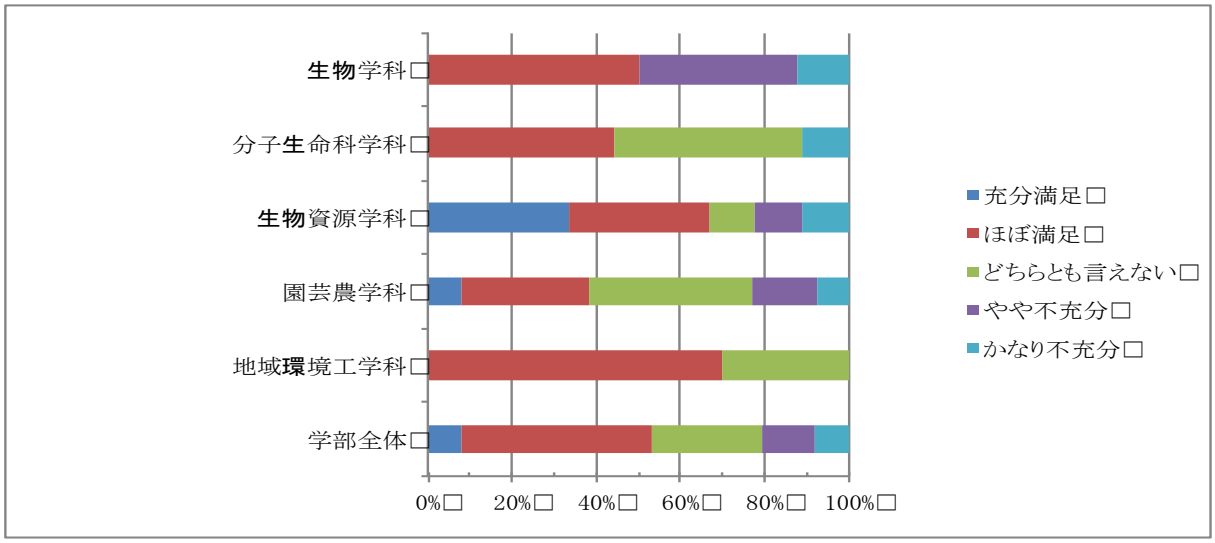


図 Ⅳ-11(5). 研究室

研究室について 3 か年で見ると，学部全体では「充分満足・ほぼ満足」(61%→56%→53%)，「どちらとも言えない」(12%→19%→27%)，「かなり不充分・やや不充分」(27%→25%→20%)と推移した。肯定的評価は 53%であり，半数近くの教員が「満足」しておらず，「どちらとも言えない」か「やや不十分」(合計 47%) と考えている。「かなり不十分」は前年度 2%に対し 8%である。

学科別に「充分満足・ほぼ満足」を見ると，「地域環境工学科」(90%→82%→70%)，「生物資源学科」(60%→50%→67%)，「生物学科」(55%→22%→50%)，「分子生命科学科」(50%→86%→44%)，「園芸農学科」(57%→45%→39%) である。「かなり不充分・やや不充分」は，「生物学科」(45%→67%→50%)，「園芸農学科」(43%→18%→23%)，「生物資源学科」(20%→40%→22%)，「分子生命科学科 (25%→0%→11%)，「地域環境工学科」(0%→0%→0%) と推移した。「生物学科」では不十分と感じている割合が他学科よりも高いことが認められる。

② 上記で「4. やや不充分」と「5. かなり不充分」を選択した場合，その理由を次の欄に具体的に書いて下さい。

［生物学科］

・実験室・研究室―「毎回おなじであるが，実験実習室はスペースが狭く巡回指導できない。研究室は，オープンラボでないため，コミュニケーションがとりにくい。」

・実験実習室・研究室―「スペースの狭さに起因する問題。情報処理演習室は，たとえフリーソフトであっても，インストールすることができないこと (担当者に教育・研究上の必要性を説明したが，理解を得られなかった)。」

・実験実習室―「スペースが狭い。設備が人数分ない。」

・実験実習室―「学生用の実験室が統合される。研究室: 1 人の教員あたりのスペースも充分ではない。スペースの確保が必要である。」

［分子生命科学科］

・研究室―「設備は老朽化しているが，修理する余裕がない。」

・実験実習室:―「学生の人数分の顕微鏡がそろっていない。」

［生物資源科学科］

・講義室・実験実習室・研究室―「面積的にせまいため。」

・講義室―「教養棟と同様，講義室に時計を設置してほしい。研究室: スペースがすくないため，すべての学生に机を割り当てることができない。」

［園芸農学科］

・図書閲覧室―「 閲覧スペースが充分でない。」

・実験実習室・研究室―「学生数に対して充分なスペースを提供できていないのではないか？と感じています。」

・研究室―「スペースが狭い。」

・研究室 ―「学生の机を全員分用意できない (狭いため)。」

［地域環境科学科］

・図書閲覧室・実験実習室・情報処理演習室―「狭い。」

・講義室―「パワーポイント (プロジェクター) 発表と板書，両方が同時にできる。」

・実験実習室 ―「施設設備の老朽化。」

・図書閲覧室―「蔵書数が少ない。」

設問 12. ① 卒業研究は必要であると思いますか。

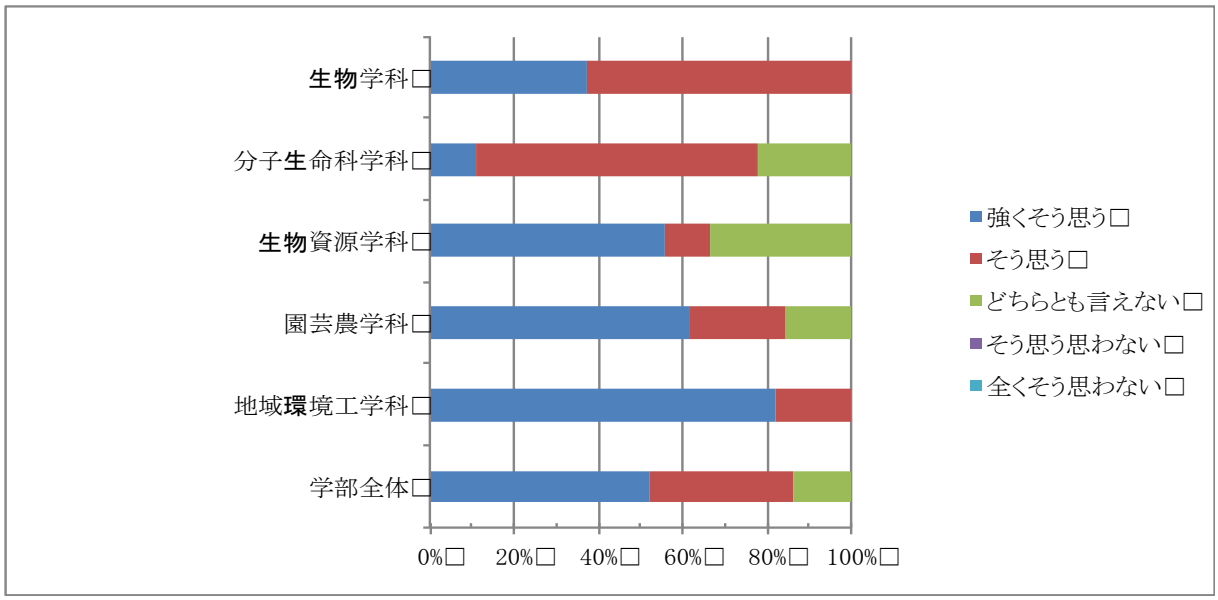


図 Ⅳ-12. 卒業研究の必要性

3 か年で見ると，学部全体で，「強くそう思う・そう思う」（86%→84%→86%），「どちらとも言えない」（12%→16%→14%），「そう思わない・全くそう思わない」（2%→0%→0%）となった。多くの教員が卒業研究は必要であると考えている。

学科別に見ると，「強くそう思う・そう思う」は，「地域環境工学科」（100%→100%→100%），「分子生命科学科」（63%→100%→78%），「生物学科」（100%→89%→100%），「園芸農学科」（89%→82%→85%），「生物資源学科」（80%→70%→67%）と推移した。「そう思わない・全くそう思わない」は前年度に続き 0%となった。

②設問 12. ② 上記のように回答した理由を下欄に分りやすく記入して下さい。

1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

[生物学科]

2 学部卒は，就職の際，専門性を評価されなくなっている現状では選択にすることも 1 つの方向かもしれない。しかし，卒論の教育効果は高いのは，間違いない。

1 卒業研究としてまとめるかが，質の保証につながる。

2 専門知識を得ることは，それほど重要ではなく，それで使えることこそ大事と教える。そのため，卒業研究は良い訓練となる。

1 卒業研究をしないと，その学問の重要性，勉学に対して，個別につたえることが困難。

1 一連の研究を自らの意志で行うことを経験することに，社会に出てからも役立つはずである。

2 大学での教育の観点から必要だと思うが，指導が平等にできない点に問題を感じている。

[分子生命科学科]

3 学生に卒業研究を選択しない自由を与えても良いのではないか。学生によっては，他の活動

に時間・エネルギーを使った方が，有益な子もいる。
2　問題解決学習としては優れている。
2　社会に出て仕事をする訓練になるから。
1　大学の修学の総括であるとおもいます。主体的な活動の場であり，学生の人格形成に大きく寄与しているように思えます。
2　学科としての教育目標を達成していくには，必要なものと考える。
2　研究を論文としてまとめるトレーニングとして必要だとおもう。
2　これまでに講義で得た知識をもとに，実際の課題（研究）に取り組む事で，論理的思考能力，問題解決力，プレゼンテーション能力等が養えるから。
［生物資源学科］
3　全くやる気のない学生もいる。
3　必修単位取得に必要だから仕方なしに実験している学生さんには選択科目にしても良いと思
う。
1　主体的に考える力を養えるから。
1　教育内容を自らの実践により確認できる。
2　大学生としての資質を得るための義務と考えているため。
1　理系の学部なので，研究・実験，まとめるという最低限のことは必要である。
1　自分一人の責任において独自の発想を実現できる場を提供するものであるから。
［園芸農学科］
3　学習意欲が著しく低い学生に卒業研究を実施させると，他の学生に悪影響が生ずる。
2　自身を考え取り組むトレーニングとして有効だと考えているため。
1　卒業研究を通して行動力，思考力等が養えるため。
1　学習の集大成と位置づけられる重要な科目と考えている。
1　計画→実行→まとめ→報告→文書作成のプロセスは，社会に出ても必要なスキルであるため。
1　学生が成長するから。私学等に比べると教員/学生比率が高く，学生全員に濃密な卒論指導が
可能。差別化のためも是非必要。
1　物事（研究）に取り組むという姿勢が重要だから。
［地域環境工学科］
1　大学は研究を第一とするから。
1　講義等では，育成できない力を養成できる。
2　学んだ知識を総合的に活用させることに有意義である。
1　学生の能力が向上する。
2　技術系の職につく学生が多く，データの読み方，考察の仕方，あるいは他人への説明，文章の書き方などの練習に適している。実験や調査を通して忍耐力や責任感も芽生える。

設問 13. ① あなたの学科の大多数の卒業生は，本学部での教育により大学卒業生に相応の知識と学力を身に付けたと思いますか。

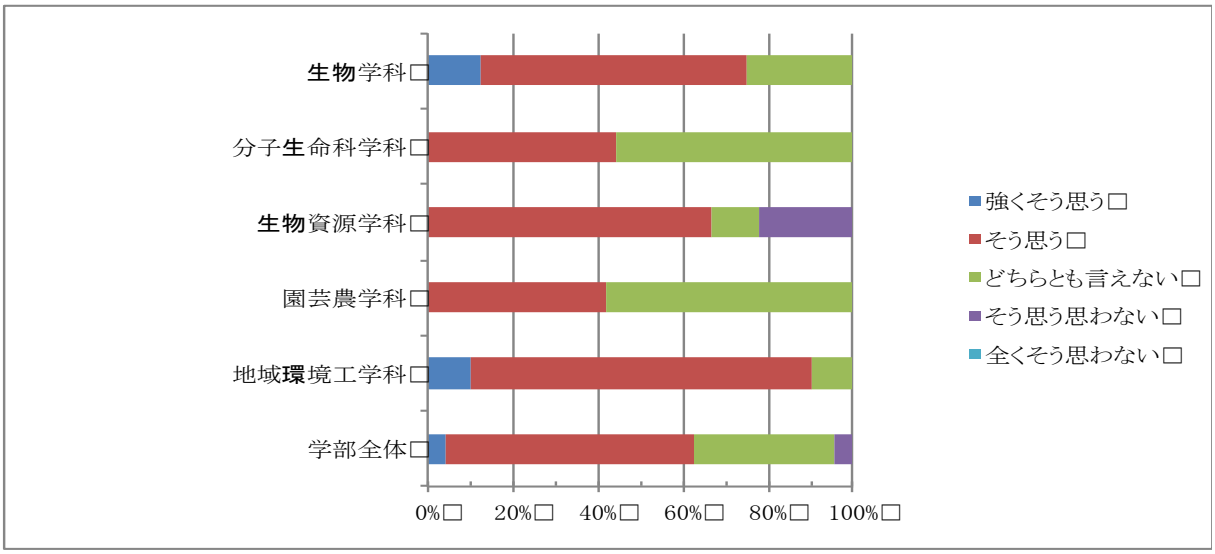


図 Ⅳ-13.　学部卒業生の知識と学力の修得

3 か年で見ると学部全体で，「強くそう思う・そう思う」（72%→60%→63%），「どちらとも言えない」（16%→29%→33%），「全くそう思わない・そう思わない」（12%→10%→4%）であった。63%の教員が，「卒業生は知識と学力を身に付けた」と考えている。

学科別に 3 か年で「強くそう思う・そう思う」を見ると，「地域環境工学科」（90%→82%→90%），「生物学科」（64%→67%→75%），「生物資源学科」（80%→60%→66%），「分子生命科学科」（63%→29%→44%），「園芸農学科」（67%→55%→42%）と推移している。「全くそうは思わない・そう思わない」は，「生物資源学科」（20%→0%→22%），「生物学科」（1%→11%→0%），「分子生命科学科」（13%→0%→0%），園芸農学科」（11%→9%→0%），「地域環境工学科」（0%→0%→0%）と推移した。

② 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

1. 学生に意欲がない　2. 学生の基礎学力不足　3. 講義内容が高度過ぎた
4. 教員に問題　5. その他（　　）

表 Ⅳ-13(2). 身についていない理由（学生）

理　由	回答数（学科）
学生に意欲がない	0
学生の基礎学力不足	3(園芸農学 1，生物資源 2)
講義内容が高度過ぎた	0
教員に問題	0
その他	0

2 か年で見ると，「学生の基礎学力不足」(2 人→6 人)，「学生の意欲がない」(1 人→3 人)，「教員に問題」(0 人→3 人)，「講義内容が高度過ぎた」(0 人→0 人) と推移した。「その他」(自由記述欄) には，「指導に充分な時間・労力を割けない場合があるため」(園芸農学) との記述があった。

設問 14 ① あなたのコースの大多数の修了生は，本研究科での教育により大学院修了程度の専門知識を身に付けたと思いますか。

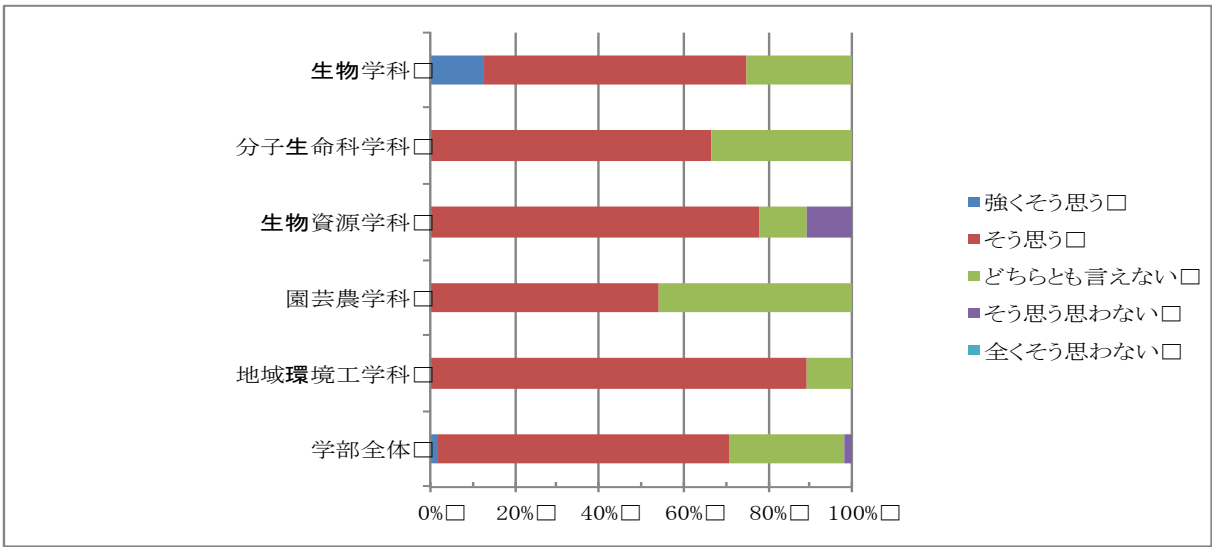


図 Ⅳ-14. 修士修了生の専門知識の修得

3 か年で見ると，研究科全体では，「強くそう思う・そう思う」(74%→67%→71%)，「どちらとも言えない」(21%→24%→27%)，「全くそう思わない・そう思わない」(4%→9%→2%) であった。

学科別に 3 か年で見ると，「強くそう思う・そう思う」は，「地域環境工学科」(89%→75%→75%)，「分子生命科学科」(47%→57%→67%)，「園芸農学科」(63%→64%→54%) と推移した。

② 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか．以下の中から選んで下さい。

1. 学生に意欲がない　2. 学生の基礎学力不足　3. 講義内容が高度過ぎた
4. 教員に問題　5. その他（　　）

表 Ⅳ-14.　修士修了生が専門知識を修得できなかった理由

理　由	回答数（学科）
学生に意欲がない	0
学生の基礎学力不足	1(生物資源 1)
講義内容が高度過ぎた	0
教員に問題	0
その他	0

大学院修了生に専門知識が身に付いていないと判断した教員は,「学生には基礎学力が不足している」, あるいは「学生には意欲がない」と考えている。その他（自由記述欄）への記載はなかった。

Ⅴ．アンケート調査結果に対する各学科の見解

生物学科

学科の教育目標及びアドミッションポリシーに対する認知度は低い傾向にあった。おそらく近年着任した若手教員の割合が高く、あまり触れる機会が少ない事が考えられる。教育目標がカリキュラムに合致しているかに対する肯定的回答の割合は他学科と大差なかった。シラバスの役割については、半数の学生が否定的であったが、単に参考程度に使えると考え、設問にある「役に立つか」というところで積極的な意味は特に見出していないのだろう。学科教員の指導や対応への満足度については肯定的回答が約80％（昨年度70%）で、かなり増加した。おそらく若手新任教員の研究室が順調に立ち上がり、所属学生の満足度も対応して上昇したのだと思われる。学生が講義や演習の受講に当たり受講時間の何倍の時間を予習や復習にあてているかの質問に対しては、1～2倍未満が60%で圧倒的に多いが、0.5倍未満が約35％で他学科と比べて特段高く、ほとんど予習や復習をしない学生の比率が高い事が明らかになった。また、2倍以上勉強する学生はゼロで、他学科と比べても格段に低い。これは、生物学科の学生が正直に設問に答えている可能性もあるが、あまり予習復習を好まないことを示しており、小テストなどの回数を増やすなど課題を与えて対応するなどが必要である。印象に残った授業では、例年通り生態学野外実験と臨海実習であったが、細胞生物学Ⅰで分厚い教科書を無駄なく学べた、というコメントも見られ印象に残った。施設の満足度に関しては、例年通り実験・実習室が不充分と答えた学生の割合が5学科中、最も高かった。この点は改組により来年度には改善されることになっている。卒業研究を行なった研究室に対する満足度は約85％（昨年度80％）であり、5学科中一番高い結果であった。一方、卒業研究を行なったことに対する満足度は70％であり、研究系の学科の中では一番低かった。これは、自分の考えていたような研究ができなかった、やる気がないから、内容が薄くなってしまった、など、個別の問題があると考えられた。このように教育・研究のハード面が解決されてきたことでソフト面での問題が明らかになってきており、メンタルな問題を持つ学生の対応も含めて、教員の限られた時間の中でもしっかりとした対応をしていく必要があると考えられる。

大学院はコースごとの集計がないが、修士研究に満足しているかの質問に対して約65％が肯定的な回答であったが、一昨年度（82％）から継続的に減少していた。就職活動の解禁日などの関係で満足した研究を行えなかった学生が多かった可能性がある。教員の指導方法の改善の必要性を指摘した学生が昨年度と比べて30％も増加している。教員がますます多忙になり学生指導が十分に行なえない状況を反映しているのかもしれない。その他、多種多様な意見・要望があったが、大学院では個別の研究室単位の対応になってしまうことが多いため、問題を共有し対応する仕組みが必要かもしれない。

（平成 28 年度学科長　福澤雅志）

分子生命科学科

。本アンケートの対象である平成 24 年度入学生は、入学時の 40 名のうち 27 年 3 月に卒業できたのは 28 名で、12 名の学生が不登校・病気などの理由で卒業できなかった。辛うじて卒業はしたが、十分な卒業研究を行えずに修了した学生も数名いた。入学時の学生数をベースにすると留年

率は30%と極めて高く、留年率が毎年１０％を越える本学科にあっても「特異な学年」であった。留年した12名のうち、3名は留学や進路再考のために休学し、その後復学して問題なく学業を修めている。残りの9名の内訳は、サークル・バイトの活動に時間を割きすぎて単位取得が不良であった者が1名（29年3月卒業）、入学後すぐに大学生活に馴染めずに不登校になった者が1名、3年次後期からの研究室への所属後（正確には3年次後期は仮所属で4年生前期から本所属）に不登校になった者が7名（内1名は所属研究室を変更して29年3月卒業）である。平成24年度入学生の大学院進学は6名（うち1名は本学教育学研究科に進学）であり、進学者が平均で10名を越える本学科では非常に少ない。

アンケート項目の設問８（講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応）では、分子生命科学科の教員に対する評価が他学科に比べて明らかに低い。また、設問12の学業・学生生活・進路の相談先を指導教員とする率も他学科よりも低い。さらに、設問18の改善すべき点に関して、分子生命科学では学生に対する指導教員の指導方法の割合が最も高く、他学科と比較しても顕著である。これらのアンケート項目は学生と教員との関係がはっきりと結果に反映されるが、研究室所属後に不登校になった学生（もちろんアンケートには答えていない）が多いこともこのアンケート結果と通底していると考えられる。

分子生命科学では毎月1回の学科会議で学生の教育・指導に関して議論し、要指導学生の情報を教員間で共有している。しかし、対象学生を呼び出して指導する程度であったので目立った効果は得られていなかった。平成28年度からは学生相談室のカウンセラーと学科長が密接に連絡を取り合うようにし、研究室に未所属の低学年生に関するいくつかの案件については問題の発生前に対応することができた。ただし、研究室に所属する学生が不登校になった場合の有効な対策はなく、個々の教員の判断に任されているのが現状である。平成24年度入学生の留年率は例年よりも高く「特異な学年」と評したが、元々、分子生命科学の留年率は他学科よりも高い。その少なくない数が研究室所属後に不登校になった学生によるものである。専門的な教育指導技術を学んだ教員は殆どおらず、多くは自身で工夫した方法で学生を指導しているが、問題学生の指導には向いてないことが多いと感じている。従って、今後は学生指導に関する専門家による研修が教員に対して必要であろうと考える。

（平成28年度学科長　殿内暁夫）

生物資源学科

先ずは、本報告書をお取りまとめいただいた先生方に謝意を表します。

学部教育については、学部卒業時学生対象教育評価アンケートの設問19総合的に判断して本学部・学科の取り組みに満足しているか、に対して当学科では70～80%（学部全体でも同様、特に断りが無い限り平成25～27年度の数値）の学生さんが肯定的な回答をしているので、全体的にはこれまでの取り組みに問題は無いと考えられる。以下では対策が必要と感じた設問9と14のみを取り上げる。設問9の回答を見ると、履修した科目の成績評価結果ついて約15～45%（学部全体では約30%）の学生さんが疑義を抱きながらも、教務担当への「成績評価の問い合わせ制度」を利用したのは0%（学部全体では約5%）である。この結果は「成績評価の問い合わせ制度」が機能していないことを示しているので、本制度の存在を期末試験実施の際に各教員から説明するあ

るいは成績表配布期間に合わせて掲示で周知する等の対策を講じるべきである。設問 14 の本学部の施設についての要望では、これまでも良く書かれていた夏季の冷房希望、冬季の暖房強化・時間の延長に加え、平成 26 年度から校舎全体の老朽化を指摘する記述が出始めた。夏季の冷房希望については二講義室のみではあるが対応できる見通しであるが、他は難しい。

大学院教育については、研究科修了時学生対象教育評価アンケートの設問 20 の総合的に判断して本研究科・コースの取り組みに満足しているか、に対して 70～75%（各コースの数値は無く研究科全体の平成 25～27 年度の数値）の学生さんが肯定的な回答をしているので、全体的にはこれまでの取り組みに問題は無いと考えられる。しかし、本年度のアンケート調査結果で注目すべきは、設問 18 の本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべきことの一つとして「学生に対する教員の指導方法」を約 40%（25・26 年度は約 10%）の、「成績の評価方法」を約 30%（同 0%）の学生さんが挙げていることである。しかし、設問 8 で所属するコースの教員の学生への指導や対応には 77%（平成 25・26 年度は 93 と 79%）が肯定的評価をしているし、設問 9 で成績評価に疑義を感じた学生さんは 19%（同 0 と 19%）なので、設問 18 の結果と矛盾しているようにも思える。平成 28 年度の結果を注視しなければならない。

教員対象アンケートについては、教育評価アンケートの設問 12 の卒業研究の必要性について当学科では 20～30%（学部全体では 10～15%）の教員が「どちらとも言えない＋必要とは思わない」と回答している。しかし、平成 28 年度入学生から卒業研究の期間が全学科で従来の 4 年次の 1 年間から 3 年次後期からの 1 年半に、仮所属の期間を含めると 2 年間に延長される。これは、学部卒業時学生対象教育評価アンケートの設問 15 の卒業研究に対する満足度が高いこと（平成 25～27 年度約 80～85%が肯定的回答）から、妥当な選択と思われる。一方で、設問 18 の本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべきことの一つとして「学生に対する教員の指導方法」を毎年約 10%の学生さんが挙げていることを考えると、期間延長が肯定的に評価する学生さんの割合の増加をもたらすかは楽観できない。

最後に、今後の教育改善に向けた取り組みに重要と思われる点を指摘したい。本アンケートでは卒業あるいは修了にまで至った学生さんの要望を知ることができるが、そこに至らなかった学生さんの声は聞くことができない。これからは益々多様な学生さんが入学してくるものと予想される。各学生さんの特性や希望に合わせた先生方のしなやかな対応が求められるようになるものと思われる。

（平成 28 年度学科長　戸羽隆宏）

園芸農学科

まず学部学生に対するアンケートについてみていきたい。園芸農学科の回収率をみると、今年度は低下しているものの、学科別では相対的に高い回答率になっている。また，大学院学生に対するアンケートについて回収率をみても低くなっている。

学部および学科の教育目標等に関する認識では、学部の教育理念等と学科のアドミッションポリシーについて知っている学生は学部平均と同じ水準である。また、学科の教育目標に 21 世紀教育および専門教育科目の学科カリキュラムが合致しているかどうかについては、肯定的な評価を行った学生が学科別では最も高くなっている。その理由としては、農業全般に関して幅広く学べるカリキュラムおよび科目と、実習等が充実していることが多くあげられている。

年度初めのガイダンスが適切かどうかに関しては、昨年度と異なって適切と回答した割合が学科別では最も高くなっている。また、シラバスが受講科目の選択や授業の全体的な構成の把握に役立っているに関しても、学科別では高い比率となっている。

園芸農学科でうけた専門教育への満足度は、全学科中で最も高くなっている。その理由をみると、学科カリキュラムの構成において生産領域から経営・流通領域まで幅広く学べる点についての評価が高く、また実習等が充実していることもプラスに大きく影響している。これらのことから、園芸農学コースと食農経済コースの連携が適切に行われているともいえる。

教員の指導についてみると、肯定的な評価が学科別では最も高くなっている。その理由では、講義や卒業研究での丁寧な指導を指摘する意見が多く見られた。成績評価の結果に疑義や異議を持った割合は学科別では低くなっている。

学生自身の主体的な学修に関しては1～２倍未満が９割を占めている。

学生からの相談・苦情を受け付ける窓口としては、指導教員との面談の割合が突出して高く、学生生活に関する相談窓口では指導教員との面談および就職支援センターの割合が高くなっている。

（平成 28 年度学科長　泉谷眞実）

地域環境工学科

卒業生のアンケート回収率が平成 26 年度よりやや低下したとはいえ、90%を上回る水準を維持したのは好ましい。各指導教員による卒業生への適切な働きかけの結果と思われる。

学部・学科の教育目標等の認識は、平成 26 年度は学部で８割、学科で９割以上の学生が任してしていたのに対し、平成 27 年度は、学部で５割、学科で７割と大きく減少した。他学科に比べれば、多少高い認識状況とはいえ、学科の教育目標を毎年ガイダンス等で周知するべく努力した結果としては、満足いくものではない。低下の原因については判断がつかないけれども、ガイダンス等での説明の充実を心掛けたい。学科の教育目標とカリキュラムの合致については、肯定的な回答が２年連続で６～７割程度のにとどまった。カリキュラム設計についての説明をガイダンス等で充実するよう心掛ける必要がある。学科ガイダンス内容については平成 26 年度と異なり、肯定的な回答が８割近くに回復し、シラバスについても肯定的な回答が９割と合格水準に達している。専門教育への満足度は肯定的な回答が 80%を少し下回ったものの合格水準と判断される。一方で授業における教員指導について、平成 26 年度は肯定的な回答が学部内で唯一 80%を上回っていたのにたいし、平成 27 年度では７割をやや下回る水準に低下し、卒業研究への満足度も肯定的な回答が７割を下回る水準に低下し、いずれも学生の満足度を高める心掛けが必要である。成績評価に対する不満は１割程度と学部で最低であり、成績評価の根拠について説明が適切に行われている結果と判断される。

学生の主体的学習に関して、大学設置基準が求める授業時間の２倍以上の予習復習を行っている学生は２割しか存在しておらず、１倍未満の学生が半数近いので、引続き主体的な学習意欲を持ち、予習・復習をしっかり行うような指導と授業運営が望まれる。

学生の学習環境のうち、教員の相談体制については、平成 26 年度と同様に、学業の相談窓口で教員との面談が過半数を上回る回答率であるなど、学生指導がていねいに行われていることを示している。施設・設備的な面では、全体に否定的な回答は目立たず、秀でた環境とは言えないも

のの大きな問題点は有していないものと判断できる。

卒業後の進路との関係では、カリキュラムで７割、進路支援への取組みで６割の肯定的な回答を得ており、学部内で最も高い水準である。また、大学卒業者として修得した知識・学力について肯定的な回答が５割をやや下回り、平成 26 年度の６割よりも低下した。もう少し自信を持たせるような指導が望まれる。

教育活動全体として、まず早急に改善すべき点について、特に問題はないという回答が平成 26 年度は８割だったのに対し、平成 27 年度は４割を下回り、教育・研究設備（冷暖房）を中心とする不満を提示している。とはいえ総合的判断としては、肯定的な回答が７割を上回っており、合格水準と判断できる。

修士課程の教育活動については、春季に修了する学生が皆無であり、回答が得られなかった。地域環境工学コースにとっては、学生の充足が最大の問題である。

教員対象授業アンケートでは、平成 26 年度に続き回答率が 100％と、当学科教員の教育への責任感を示している。

学部の授業実施では、規定回数に達しない授業か皆無であり、休講時には補講が実施されている。また、授業実施に際しては、半数がシラバス通りではなく、シラバスに沿うように授業を行っており、昨年度のシラバスとの比較では７割が一部変更しており、常に教育改善を意識して、授業実施に当たっていることがわかる。授業の工夫では、宿題を課したり、グループ課題学習の取組みが他学科に比べ高く、成績評価についても他学科に比べ積極的に説明していることがわかる。研究科の授業実施も、基本的には学部と同様の傾向である。

教員対象教育評価アンケートでも、本学科教員が、学科の教育目標とカリキュラムとの関係を強く意識し、予習復習を学生に課し、学生の反応を見ながらて授業運営していることがいずれの設問からもうかがえる。ただしＦＤへの参加頻度は特段多いわけではない。施設・設備については、一部否定的な回答も存在するが、概ね一定水準には達していると評価している。卒業研究の必要性は学部で最も強く意識しており、卒業生の質についても学部で唯一肯定的回答が９割と高水準である。

以上より、地域環境工学科では、教育実施に対し、これまでの努力を継続し、一定水準の成果を上げ続けているが、部分的には学生の評価が高くない事項があるので、ガイダンス等を通じ、教育目標の周知を一層進め、主体的学習意欲を高めていくことが望まれる。

（平成 28 年度学科長　藤崎浩幸）

Ⅵ．教育改善委員会（平成 28 年度教育改善にむけたアンケート調査についての意見）学部卒業時・研究科修了時学生対象教育評価アンケートについて

（１）学部・研究科の教育理念，教育目的，教育目標，学科の教育目標，アドミッションポリシーについて

学部の教育理念，教育目的，教育目標の認知度は，学部全体では50％強で昨年度度と大きな変化はなかった。学科の教育目標の認知度は，学部全体では50％強で昨年度度と比べて10％減少した。アドミッションポリシーの認知度は，学部全体では40％弱で昨年度度と変わりはなかった。一方で，学科の教育目標とカリキュラムは，学部全体では70％が合致していると回答している。学生は各学科のカリキュラムに強い関心を示す一方，教育目的，目標，アドミッションポリシー等については希薄感があることから，認知度および評価の低かった学科においては，入学時教育やガイダンス時など機会あるごとに継続的に説明する必要がある。

研究科の教育目的および目標の認知度は昨年度度の71％から本年度は60％と10％低下した。アドミッションポリシーの概要について74％が「知っている」と回答し、昨年度度と同じであった。カリキュラムは，研究科全体では昨年度より24％多い80％が合致していると回答しており，大学院説明会等での紹介の成果であると思われる。

（２） ガイダンス，シラバス，専門教育に対する満足度について

ガイダンス・シラバス・専門教育については，学部全体で66～80％が肯定的意見であった。昨年度と同様に学科によって差が見られるので，評価の低い学科では改善のための工夫が必要である。

研究科におけるシラバス内容については，「強くそう思う＋そう思う」が93％で昨年度度の86％から増加している。３年間を見ると年々増加しており，教員の努力による講義内容の明確化が教育効果に反映していると思われる。

（３） 教員の指導や対応について

教員の指導や対応に対する評価は肯定的な意見は昨年度度からやや上昇し69％であった。今年度も昨年度度と同様に学生の意見には教員の対応を評価するものと批判するものが見られ，学科によっても大きく異なっていた。この点については，学科教員間での情報共有など継続的な改善が必要と思われる。

（４）成績評価について

成績評価に対し疑問や異議を持つ学生の割合は19％で過去3年間を見ると減少傾向にある。成績評価の問合せについては，100％の学生が問い合わせしていなかった。昨年度と同様に方法を知らない学生も見られ，ガイダンスでの周知方法を徹底することが必要である。

（５）講義への取組みについて

講義への取組みに関して，１日の学習時間（予習と復習）についての質問項目では，今年度も

「2倍未満」の回答が70％と学習時間は非常に短い。継続的に予習・復習を含めた授業に対する学生の意識改革を促すとともに，学生の学習意欲の向上策を指導していくことが教員に求められる。

（６）施設等に関して

例年同様，冷暖房に関する要望が多かった。学習環境を改善するための方策を学部としては考える必要がある。これについて，学部では平成28年度に実験実習の機器整備など学習環境を改善するために教育充実経緯費を確保し，各学科とおよび附属農場に予算を配分して整備に努めた。さらに，学生からの冷房設置の要望に応えるため2つの講義室に冷房設備を整備した。

（７）卒業論文研究・修士論文研究について

学生の卒業論文研究に対する満足度は78％で過去3年間と同様に極めて高い。修士論文研究では65％であり昨年度度に比べ10％減少したが，半数以上が満足している。一方，昨年度度と同様に一部の学生は個人的感情による否定的な意見もあり，指導教員の努力で解決するものと思われる。学部及び研究科での教育におけるこれらの研究科目は，講義による知識の修得だけではなく，課題に対して実験や演習を通して総合的な問題解決能力を育成する上で有効である。

（８）学部・研究科の教育のあり方について

卒業生の45％，修了生の51％が身に付けたとしており，過去数年と同様であった。学生に専門知識の重要性を認識させるためにも継続的に学習意欲の醸成に向けた対応が必要である。教育・研究への取組みに対しては過去数年と同様に70％以上の学生が満足している。しかし，指導方法や授業方法，教育研究設備，経済支援制度，成績評価の方法などについては昨年度度と同様に改善すべき点もあり，個々の教員がアンケート結果の内容を吟味し向上を図っていく必要がある。

教員対象授業アンケートについて

（１）授業の実施方法，授業内容とシラバスとの一致について

学部の授業科目において，授業の実施回数は15回以上実施した教員は85％で昨年度よりも10％増加した。授業内容とシラバスとの一致については，昨年度と同様に，シラバス内容の大幅な変更はなかった。シラバスの内容を一部変更したことについては，新しい知見や前年度の反省を踏まえ内容を点検している回答があり，教育改善に努めていることがわかる。大学院での講義の場合は，ほとんどシラバスの内容に従って実施されている。

教員対象教育評価アンケートについて

（１）カリキュラムやシラバスが学科・コースなどの教育目標に合致しているか

ほとんどの教員が，教育目的・目標に従ってシラバスを作成しており，教育目標を強く意識し

ていることがわかる。

（２）「学生による授業評価」の捉え方とＦＤについて

「学生による授業評価」についての捉え方は学科により大きく異なっているが，全体としては60％が学生の評価を概ね妥当と捉えており，教員は学生の授業評価アンケートが教育改善には有効であると認識している。ＦＤ活動定着しつつあると思われるが，自己評価委員会/教育改善委員会が開催する「アンケート調査・報告会」に積極的に参加を呼びかける必要がある。

（３）学生の学習促進について

昨年度と同様，ほとんどの教員（96％）は，授業中に「口頭での予習・復習の呼びかけ」，「小試験」，「課題を課す」等を実施しており，授業時間以外学習を促している。しかし，学生の授業以外の学習時間はそれほど長くなく，より一層の学習意欲向上と自発的な学習への取り組み方策の検討が必要である。

（平成 28 年度委員長　泉　　完）